

## 子どもの家庭生活と親子関係

— 岩手県胆沢町の小中学生の事例 —

新 妻 二 男\*

(1990年12月10日受理)

Tsugio NIITSUMA

The Life of Children at Home and the Relation of Parent and Child

— A Case Study of ISAWA-machi in IWATE Prefecture —

今子ども達は、あり余る物質的な豊かさの中に身を置いている。少なくとも、高度経済成長期以前に子ども時代を送った筆者から見れば、衣食住における豊かさはもとより、生産労働からも解放され、「もの」も「時間」も豊かに保障されていることは確かである。「物質的な豊かさ」や「労働からの解放」は、子ども達に「豊か」な生活(子ども達の成長・発達の基盤)を保障するはずであった。

しかし、現実はその期待と逆行するような現象、例えば「生活リズムの乱れ」「からだのおかしさ」「遊べない・遊ばない」などが数多く指摘されている。それは、本来「豊か」であるはずの子ども達の生活が実は決して「豊か」に営まれていないことを示すものであり、またそれは「子育て」のどこかに問題があることを物語っている。本稿は、こうした観点から、子どもの生活の場の一つである家庭に焦点を置き、子どもの生活の実態と「子育て」のあり方、具体的には親子関係の現状をとらえ、分析したものである。

[キーワード] 生活領域、基本的な生活、労働、学習、遊び、生活自律、親子の葛藤、共有、共感

はじめに

本稿は、1989年度に胆沢町教育委員会の依頼により、駒林邦男(代表)、長江好道、藤

澤建二、新妻二男の本学部4教官からなる調査プロジェクトチームが行った「胆沢町教育課題調査」（報告書は『胆沢町教育課題調査報告書』1990年8月胆沢町教育委員会）のうち、筆者が分析及び執筆を担当した「子どもの日常生活と意識」（報告書の第I章）について、再分析・再整理を試みたものである。

「胆沢町教育課題調査」の調査対象は、以下の通りである。（なお、「胆沢町教育課題調査」の目的、方法、調査票の構成については、前掲『報告書』p.11～p.15を参照）

校種別・学校・学年別サンプル構成（調査対象）

岩手県胆沢郡胆沢町

小学生用（5年生）

| 学校名   | 在籍数(A) | サンプル(B) | B/A   |
|-------|--------|---------|-------|
| 胆沢第一小 | 115    | 111     | 96.5% |
| 南都田小  | 53     | 53      | 100%  |
| 若柳小   | 53     | 52      | 98.1% |
| 愛宕小   | 41     | 38      | 92.7% |
| 小計    | 262    | 254     | 97.0% |

小学生用（6年生）

| 学校名   | 在籍数(A) | サンプル(B) | B/A   |
|-------|--------|---------|-------|
| 胆沢第一小 | 109    | 107     | 98.2% |
| 南都田小  | 67     | 67      | 100%  |
| 若柳小   | 42     | 42      | 100%  |
| 愛宕小   | 33     | 32      | 97.0% |
| 小計    | 251    | 248     | 98.8% |
| 小学校計  | 513    | 502     | 97.9% |

中学生用（1年）

| 学校名  | 在籍数(A) | サンプル(B) | B/A   |
|------|--------|---------|-------|
| 小山中  | 115    | 109     | 94.8% |
| 南都田中 | 68     | 67      | 98.5% |
| 若柳中  | 81     | 77      | 95.1% |
| 小計   | 264    | 253     | 95.8% |

中学生用（2年）

| 学校名 | 在籍数(A) | サンプル(B) | B/A   |
|-----|--------|---------|-------|
| 小山中 | 113    | 111     | 98.2% |

|         |     |     |       |
|---------|-----|-----|-------|
| 南 都 田 中 | 64  | 60  | 93.8% |
| 若 柳 中   | 92  | 92  | 100 % |
| 小 計     | 269 | 263 | 95.8% |

## 中学生用(3年)

| 学 校 名   | 在籍数(A) | サンプル(B) | B/A   |
|---------|--------|---------|-------|
| 小 山 中   | 115    | 112▲    | 97.4% |
| 南 都 田 中 | 64     | 64      | 100 % |
| 若 柳 中   | 71     | 71      | 100 % |
| 小 計     | 250    | 247     | 98.8% |
| 中学合計    | 783    | 763     | 97.4% |

## 両親用(小・5年生)

| 学 校 名     | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|-----------|-----|-------|-------|
| 胆 沢 第 一 小 | 115 | 113   | 98.3% |
| 南 都 田 小   | 53  | 53    | 100 % |
| 若 柳 小     | 53  | 50    | 94.3% |
| 愛 宕 小     | 41  | 39    | 95.1% |
| 小 計       | 262 | 255   | 97.3% |

## 両親用(小・6年生)

| 学 校 名     | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|-----------|-----|-------|-------|
| 胆 沢 第 一 小 | 109 | 107   | 98.2% |
| 南 都 田 小   | 67  | 67    | 100 % |
| 若 柳 小     | 42  | 41    | 97.6% |
| 愛 宕 小     | 33  | 32    | 97.0% |
| 小 計       | 251 | 247   | 98.4% |
| 小学校両親計    | 513 | 503▲  | 97.9% |

## 両親用(中・1年生)

| 学 校 名   | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|---------|-----|-------|-------|
| 小 山 中   | 115 | 114   | 99.1% |
| 南 都 田 中 | 68  | 68    | 100 % |
| 若 柳 中   | 81  | 75    | 92.6% |
| 小 計     | 264 | 257   | 97.4% |

## 両親用(中・2年生)

| 学 校 名   | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|---------|-----|-------|-------|
| 小 山 中   | 113 | 110   | 97.4% |
| 南 都 田 中 | 64  | 59    | 92.2% |
| 若 柳 中   | 92  | 90    | 97.8% |
| 小 計     | 269 | 259   | 96.3% |

## 両親用(中・3年生)

| 学 校 名   | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|---------|-----|-------|-------|
| 小 山 中   | 115 | 113▲  | 98.3% |
| 南 都 田 中 | 64  | 62▲   | 96.9% |
| 若 柳 中   | 71  | 71    | 100 % |
| 小 計     | 250 | 246   | 98.4% |
| 中学校両親計  | 783 | 763▲  | 97.4% |

## 胆沢町出身高校生用

| 学 校 名       | 人 数 | サンプル数 | 回収率   |
|-------------|-----|-------|-------|
| 胆 沢 高 校     | 130 | 120   | 92.3% |
| 水 沢 農 高 校   | 103 | 97    | 94.2% |
| 水 沢 工 高 校   | 74  | 72    | 97.3% |
| 水 沢 商 高 校   | 97  | 95    | 97.9% |
| 水 沢 高 校     | 73  | 72    | 98.6% |
| 水 沢 第 一 高 校 | 29  | 25    | 86.2% |
| 金 ヶ 崎 高 校   | 23  | 23    | 100 % |
| 前 沢 高 校     | 55  | 54    | 98.2% |
| 岩 谷 堂 高 校   | 8   | 8     | 100 % |
| 北上市内の高校*    | 18  | 10    | 55.6% |
| 一関市内の高校**   | 13  | 8     | 61.5% |
| 盛岡市内の高校***  | 5   | 4     | 80.0% |
| 高 校 生 計     | 628 | 588   | 93.6% |

\*専大北上高校

\*\*一関商工高校、麻生一関高校、一関第二高校、一関工業高専

\*\*\*盛岡市立高校、盛岡工高校、盛岡南高校、岩手橋高校

▲一部、分類・分析不能。小学校両親計・中学校両親計には学年不明が各々1含まれる。

| 岩手県二戸郡安代町内小学校 |    |       | 岩手県二戸郡安代町内中学校 |    |       |
|---------------|----|-------|---------------|----|-------|
| 学校名           | 学年 | サンプル数 | 学校名           | 学年 | サンプル数 |
| 田山小           | 5  | 29    | 田山中           | 1  | 29    |
| "             | 6  | 30    | "             | 2  | 31    |
| 荒屋小           | 5  | 18    | "             | 3  | 44    |
| "             | 6  | 21    | 安代中           | 1  | 48    |
| 安代町・小         |    | 計 98  | "             | 2  | 66    |
|               |    |       | "             | 3  | 47    |
|               |    |       | 安代町・中         |    | 計 265 |
| 岩手大学教育学部付属小学校 |    |       | 岩手大学教育学部付属中学校 |    |       |
| 学校名           | 学年 | サンプル数 | 学校名           | 学年 | サンプル数 |
| 付属小           | 5  | 35    | 付属中           | 1  | 39    |
| "             | 6  | 39    | "             | 2  | 40    |
| 付属小           |    | 計 74  | "             | 3  | 45    |
|               |    |       | 付属中           |    | 計 124 |

以上の調査対象のうち本稿で取り扱う対象は、胆沢町の小・中学生とその両親である。また、本稿が分析・考察の対象とする調査票及びその領域は、小・中学生用調査票の「家庭生活を中心とした日常生活と意識」の領域と、小・中学生の父母用調査票の「父母から見た子どもの家庭での日常生活の実態とその実態についての父母の期待・思い」の2つの調査票と2つの領域である。

なお、『報告書』及び本文中に散見する「深谷調査」とは、1979年に胆沢町教育委員会が深谷昌志氏（当時奈良教育大学教授）を代表とする調査プロジェクトチームに依頼した「胆沢町教育課題調査」（報告書は『胆沢の子ども白書』1980年、胆沢町教育委員会）を指している。

#### 本稿の課題と視点

1960年代以降の高度経済成長は、第一次産業の衰退・第一次産業従事者の急減など、産業構造・就業構造を激変させた。岩手県下有数の農業地域とされる胆沢町においても、全就業者に占める農業就業者率は年々低下し、1965年の81%が20年後の1985年には47.8%にまで落ち込んでいる。

高度経済成長はまた、生活様式の「都市化」、生活の「社会化」、「商品化」現象を地方の隅々にまで浸透させた。

こうした日本社会の地殻変動的な構造変化は、大人の生活はもとより、子どもの日常生活をも巻き込み、子どもの生活構造、生活意識を大きく変えてきている。

子どもは日常、家庭、学校、社会という三つの生活の場を往き来しながら、さまざまな活動を展開する。そうした子どもの活動（生活）は、「基本的生活」（食事・睡眠など）・「労働」・「学習」・「遊び」という4つの領域でとらえることができる。（小川太郎『日本の子ども』新評論1960年）

それ故「基本的生活」・「労働」・「学習」・「遊び」の領域の結びつきの型としての生活構造が変わるということは、各領域それぞれの内実が変わるということだけでなく、何よりもまず、各領域間のバランスが崩れることを意味している。

本稿は以上の視点から、子どもの生活の場としての家庭に焦点を置き、そこでの子どもの生活の変化（4つの生活領域毎の変化と領域間のバランスの変化）を解明しようとするものである。

その際、言うまでもないことであるが、子どもの家庭という場での生活の変化の基底には、家庭そのものの変化がある。とりわけ、家庭における人間関係（特に親子関係）の変化は、子どもにとって大きい意味を持っている。それは、家庭こそ「人間性の苗床」であり、子どもの人格形成にとって今も昔も最も重要な役割を果たすものであるからである。

それ故本稿では、家庭という場での子どもの生活の変化の基底をなし、子どもの生活をつくり、支えている家族（親子）関係の変化も合わせて明らかにしていくことにする。

#### 凡例

- (1) 本文中に用いている表は、表-1、表-2、というようにすべて通し番号で表わしている。
- (2) 調査票（巻末所収）の質問項目の種類、番号を、本文中では〔小・1(2)〕のように表記した。これは小学生用調査票の「1の(2)」の質問項目であることを示している。

## 第I章 子どもの生活環境としての家族

ここでは、胆沢の子ども達の家庭での生活及び親子関係を直接・間接に規定する条件となる、子どもの家族内的位置、家族形態並びに親や家の就業状態、そして親の属性を、まず概観しておくことにする。

最初に胆沢の子ども達の兄弟数を〔両親・2「お子さんは全部で何人いらっしゃいますか」表-1〕見ると、2人兄弟が小・中学生とも49%、3人兄弟が小学生で41%、中学生で37%あり、全国（32%）に比して3人兄弟の比率が高い。

近年1人子の減少が言われているが（※1）、胆沢においても中学生よりも小学生に1

人子の減少が見られ、およそその減少分が3人兄弟の増加に転じていると見る事ができる。

1987年の『第9次出産力調査』によると子ども数は、2人、3人に集中し、両方で8割を占めると報告されているが(※2)、胆沢の場合、子ども数(兄弟数)2人・3人への集中度はさらに高く(小-90%、中-86%)、3人兄弟の増加傾向を考え合わせれば、比較的多様な兄弟関係をつくり易い家族環境にある。

※1・2はともに『日本の人口・日本の家族』東洋経済新報社1988年12月による。

表-1 兄弟数

|      | 1人子 | 2人  | 3人  | 4人以上 |
|------|-----|-----|-----|------|
| 胆沢・小 | 2%  | 49% | 41% | 5%   |
| 胆沢・中 | 5%  | 49% | 37% | 6%   |
| 全 国  | 6%  | 56% | 32% | 6%   |

(全国は、NHKの「現代の家族」調査(1984年12月)による)

また、胆沢の子ども達の続柄を〔両親・3「この調査票をもってきたお子さんの続柄は何ですか」表-2〕見ると、予想されたことではあるが、長男・長女の占める比率が高い。

表-2 子どもの続柄

|   | 長男  | 長女  | 長男もしくは長女の割合 |
|---|-----|-----|-------------|
| 小 | 30% | 33% | 63%         |
| 中 | 36% | 35% | 71%         |
| 高 | 37% | 35% | 72%         |

しかし、高校生⇒中学生⇒小学生と子どもの年齢が下がるにつれて、その比率も下がる。特に、中学生と小学生の差は大きく(8%)、この表からも小学生における1人子の減少と3人兄弟の増加がうかがえる。

「子どもの成長にとって兄弟姉妹数の多い方がよい」(63.2%) (厚生省人口問題研究所『第8次出産力調査報告I』1982年)とする考えが、胆沢においてもかなり広がってきているということであろうか。

次に、子ども達の日常生活の場である家庭をまず家族形態(祖父母との同居の有無)から見ていくと、〔小・中 2・(1)「あなたは、おじいさんやおばあさんといっしょにすんでいますか」、両親・4「おじいさんやおばあさん(お子さんにとっての)と同居していますか」表-3〕、小学生・中学生とも80%(小-79%、中-77%)近くが、祖父母(一方もしくは両方)と同居している。

表-3 家族形態

|     | 三世代家族（祖父母の同居） | 二世世代家族 | 無  |
|-----|---------------|--------|----|
| 小   | 79%           | 20%    | 1% |
| 中   | 77%           | 20%    | 2% |
| 全 国 | 33%           | 67%    | -  |

（全国は、NHKの「現代の家族」調査（1984年12月）による）

全国的には、33%の比率にまで低下してきている三世代（以上）家族が、胆沢で80%に及ぼんとしていることは、胆沢に農業世帯が多く（労働力確保あるいは長男同居志向が強い）、また子ども達の年齢層が若く（10才～15才）、祖父母の欠損率が少ないであろうことを割り引いたとしても、かなり高い同居率である。

NHK『現代の家族』調査によると、望ましい家族形態として「親子、お年寄りなど大ぜいで暮らすのが望ましい」と考えている人が70%に達している。その意味では胆沢の子ども達は、「望ましい家族形態」の中で家庭生活を営んでいると言えそうである。

胆沢の子ども達は、兄弟数（2・3人兄弟）や祖父母との同居率の高さからみる限り、一般に単純化された家族関係が増大する中では、比較的複雑で多様な家族関係の中に身を置いているといえることができる。

子ども達の成長・発達が人間と人間の間を通って促されるものであることを考えれば、胆沢の子ども達は少なくとも家庭内の人間関係の多様さという点では、恵まれた条件にある。

次に、家の就業形態（農業との関係で）〔両親・5「あなたの家はつぎのどれに該当しますか」表-4〕と父母の職業〔小、中・2(3)(4)「あなたのお父さん（お母さん）は、どんな仕事をしていますか」〕、〔父親・1(4)、母親・1(5)「あなたの仕事は次のどれに当たりますか。農業で兼業をなさっている方は、兼業について答えて下さい。」表-5〕を見ると、まず家の就業形態では、非農家率が20%で、大半が農業世帯であることがわかる。しかし、10年前の深谷調査で「父親の職業」のうち「農業していない」が12.4%、また「専業農家」が32.3%であったことを考えると、この10年間で家の就業形態及び父母の職業は大きく変化し、専業農家がおよそ1/3に減少し、非農家が約2倍近く増えている。

そのことは父母の職住をますます切り離す方向に作用し、家庭及び家庭の周辺（子どもから見える範囲）で労働に従事していると思われる父母（「農業専業」＋「自営業」）は、小学生の父で26%、母17%、中学生の父27%、母20%、といずれも30%を割っている。

表-4 家の就業形態

|   | 専業農家 | 第一種兼業農家 | 第二種兼業農家 | 非農家 | 無  |
|---|------|---------|---------|-----|----|
| 小 | 11%  | 26%     | 36%     | 23% | 3% |
| 中 | 12%  | 25%     | 40%     | 20% | 2% |

表-5 父母の職業

|     | 農専  | 自営業 | 建設・土木・製造作業員 | 会社員 | 商サービス従業員 | 無 |
|-----|-----|-----|-------------|-----|----------|---|
| 小の父 | 11% | 15% | 18%         | 21% | 8%       |   |
|     |     |     | 47%         |     |          |   |
| 小の母 | 10% | 7%  | 23%         | 13% | 9%       |   |
|     |     |     | 45%         |     |          |   |
| 中の父 | 14% | 13% | 17%         | 19% | 7%       |   |
|     |     |     | 43%         |     |          |   |
| 中の母 | 12% | 8%  | 25%         | 13% | 7%       |   |
|     |     |     | 45%         |     |          |   |

|     | 医療 | 教員 | 公務員 | 農協 | 失業 | その他 | 無   |
|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|
| 小の父 | 1% | 1% | 6%  | 4% | -  | 3%  | 13% |
|     |    | 7% |     |    |    |     |     |
| 小の母 | 3% | 2% | 3%  | 1% | -  | 4%  | 23% |
|     |    | 5% |     |    |    |     |     |
| 中の父 | 0% | 1% | 6%  | 5% | 0% | 2%  | 13% |
|     |    | 7% |     |    |    |     |     |
| 中の母 | 4% | 1% | 3%  | 2% | -  | 4%  | 23% |
|     |    | 4% |     |    |    |     |     |

しかもその比率は、中学生の父母⇒小学生の父母と低下してきており、こうした傾向は今後さらに強まることが予想される。

また、地域で比較的安定した就労と思われる教員・公務員・農協労働者の比率（全体として高いものではないが）をみると、母親が6%であるのに対し父親が約2倍の11~12%、反対に建設・土木・製造業作業員の比率は、小学生の母が父よりも5%、中学生の母は父よりも8%高く、母親の就労形態や就労条件のきびしさが感じられる。

いずれにせよ、父母の労働が子ども達の目に触れにくくなっているという状況は、「親の背（働く姿）」を見ることのない子ども達を大量に現出させ、加えて労働を媒介とした家族的な共同を後退させることになる。

さらに母親の普段の就業状態（就業の有無を含む）〔母親・1(3)「あなたの普段の状態は次のどれに当たりますか」表-6〕も10年前の深谷調査、あるいは全国的動向と比較す

ると大きな差異が見られる。

表-6 母親の就業状態

|     | 仕事主   | 仕事従・仕事主 | 家事のみ  | 無(母いないを含む) |
|-----|-------|---------|-------|------------|
| 小の母 | 53%   | 28%     | 6%    | 13%        |
| 中の母 | 56%   | 26%     | 4%    | 14%        |
| 全国  | 50.1% |         | 49.1% | 0.8%       |

(全国は、NHKの「現代の家族」調査、1984年12月による)

胆沢の小・中学生を持つ母親で「家事のみ」、いわゆる「専業主婦」はせいぜい5%程度であり、10年前の深谷調査(22%)あるいは全国(49.1%)と比べると、母親の就労率は異常に高い。

近年、既婚でかつ18才未満の子どもがいる婦人の就労率が高くなってきているとの指摘は多い(1982年段階で布施晶子氏の推計で、6割程度—『現代の家族』1982年—であることからみて、現在は60%~70%の間にあると予想される)ものの、胆沢の場合夫婦共働きは、ほとんどの家庭の常態であると言ってもよいであろう。

もちろんかかる状況が現出した背景には、多くの家庭で家事育児担当者(祖父母)がいるという条件、あるいは家計維持(農外所得獲得の必要性)のため、そして母親の自立志向など様々な要因が考えられるが、胆沢の場合は、家計費に占める農業依存度の低下を背景とした家計費充足を主たる目的としたものが多いと考えられる。

いずれにせよ、胆沢の子ども達にとっては、今日働く親の姿が見えにくい現実に加えて、夫婦共働き(多就業構造)を常態とする家庭・家族という環境をごく当り前のこととして受けとめなければならなくなっている。

最後に、胆沢の父母の属性であるが、まず父母の年齢層〔父親、母親・1(1)「あなたの年齢を教えてください」表-7〕を見ると、35才~44才の層に、小学生の父親の85%、母親の83%、中学生の父親の77%、母親の91%が集中している。

表-7 父母の年齢構成

|     | 34才以下 | 35~39才 | 40~44才 | 45~49才 | 50才以上 |
|-----|-------|--------|--------|--------|-------|
| 小の父 | 3%    | 40%    | 45%    | 10%    | 2%    |
| 小の母 | 15%   | 60%    | 22%    | 2%     | 0%    |
| 中の父 | 1%    | 25%    | 52%    | 19%    | 3%    |
| 中の母 | 3%    | 52%    | 39%    | 5%     | 1%    |

|                    |       |       |       |       |      |
|--------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 全 国 父 親<br>(小4～小6) | 4.4%  | 31.2% | 44.0% | 17.1% | 3.3% |
| 全 国 母 親<br>(小4～小6) | 16.1% | 51.3% | 26.5% | 4.8%  | 1.3% |

(全国は『いま、小学生の世界は』NHK世論調査部編、1985年、1984年調査、小4～小6年生とその父母による)  
(胆沢の父母の数値は無回答者(あるいは母いないを含む)を除いた回答数(小の父462、小の母490、中の父695、中の母735)に対する比率)

10年前の深谷調査の父親(小学校4年生～中学3年生の父親全体)も、同年令層に80%が集中しており、本調査結果とほとんど差異は見られないが、全国に比べると比較的若いお父さん・お母さんが多く、父親のおよそ半数がいわゆる団塊の世代に当たっていると推定される。

父母の学歴構成は、〔父親、母親・1(2)「あなたが最後に卒業された学校を教えてください」表-8〕以下の通りである。

表-8 父母の学歴

|         | 中 卒   | 高 卒   | 短大・大卒(大学院卒を含む) | 無    |
|---------|-------|-------|----------------|------|
| 小 の 父   | 39%   | 51%   | 10%            |      |
| 小 の 母   | 30%   | 60%   | 10%            |      |
| 中 の 父   | 43%   | 50%   | 7%             |      |
| 中 の 母   | 38%   | 55%   | 7%             |      |
| 全 国 父 親 | 31.7% | 44.9% | 22.8%          | 0.6% |
| 全 国 母 親 | 25.7% | 57.1% | 15.4%          | 0.8% |

(全国は『いま、小学生の世界は』NHK世論調査部編、1985年、1984年調査、小4～小6年生とその父母による)  
(胆沢の父母の数値は無回答者を除いた回答数、小の父461、小の母489、中の父694、中の母727に対する比率)

10年前の深谷調査では父親(小学校4年生～中学3年生まで)の学歴は中卒者62%、高卒者33.9%、短大・大卒(大学院卒を含む)4.2%、母親の場合中卒者63.3%、高卒者34.7%、短大・大卒2.1%であった。それと比較すると、胆沢の父母の学歴が相当高くなっているとは言えるものの、全国に比べると(全国の数値は1984年の小学4年生～小学6年生の父母のものであり、当時の小学校4年生が現在中学3年生になっていることを考えれば、若干のずれはあるものの、全国は胆沢の中学生の父母との比較において参考になろう)学歴は低く、特に高学歴層の薄いことがわかる。

そのことは、団塊の世代の高校進学率、大学進学率(1965年の高校進学率男子71.7%、女子69.6%、短大・大学進学率男子22.4%、女子11.3%)との比較においても明らかである。

次に父母の出身地を見ると、〔父親・1(5)、母親・1(6)「あなたの出身地はどこですか」表一9〕圧倒的に地元(胆沢町・胆江地区)の多いことがわかる。

表一9 父母の出身地

|       | 胆 沢 町 | 胆 江 地 区 | 県 内 | 県 外 | 無   |
|-------|-------|---------|-----|-----|-----|
| 小 の 父 | 78%   | 9%      | 4%  | 1%  | 8%  |
| 小 の 母 | 56%   | 26%     | 10% | 4%  | 4%  |
| 中 の 父 | 78%   | 6%      | 4%  | 2%  | 10% |
| 中 の 母 | 54%   | 25%     | 10% | 5%  | 6%  |

とりわけ父親の場合、町外出身者は小学生の父親で14%、中学生の父親で12%しか存在せず、いわゆる「胆沢生まれの胆沢育ち」でしかも「家」の後継者(長男)としてのお父さんが大半を占めていることがわかる。母親の場合、町外出身者は小学生・中学生の母親ともに40%程度あり、人的交流(通婚圏が中心)の範囲は父親よりも広い。

このようにみるならば、親子関係の一方の当事者としての胆沢の父母は、父母共に地元(胆沢町及び胆江地区)出身で、地元の学校(中・高)を卒業した後、地元就業(家業の継承を含めて)し、比較的若い時期に結婚していると言えそうである。

他方子ども達は、一人子はきわめて少なく、ほとんどの子どもは2人ないし3人兄弟の中で育ち、7割前後の子どもは、長男か長女ということになる。

また、家族形態は圧倒的に直系家族形態が多く(8割)、家族内の人間関係を比較的多様に営みうる条件はあるものの、夫婦共働きがほとんどの家庭の常態であり、加えて不安定就労者層(特に母親)も多い。

そのことは、胆沢の大半の家庭が多就業世帯である(祖父母も含めて)ことを意味しており、父母が物理的にも、精神的にも余裕がもてる状況ではないことがうかがえる。

## 第II章 子どもの家庭生活の実態と意識

ここでは、胆沢の子ども達の家での生活を、「基本的生活」(食事・睡眠等)・「労働」・「学習」・「遊び」の4つの領域に分け、それぞれの領域での子ども達の生活とそれに関わる不安や期待を子どもの目、親の目という二つのフィルターを通して明らかにする。その場合、子どもの生活と意識を「生活自律」の確立という観点から分析していくことにする。

## (1) 家庭での「基本的生活」

まず、子ども達の起床時間〔小、中・3(1)「あなたは、ふだんは朝なん時頃おきていますか」表-10〕と就寝時間〔小、中・3(5)「あなたは、ふだんは夜なん時ころねていますか」表-11〕であるが、起床時間については、小学生と中学生に大きな差があり、中学生の場合、起床時間が7時以降の子どもが(7時頃を含む)が35%もいる。

表-10 起床時間

|           | 7時前に | 7時以降(7時頃を含む) |
|-----------|------|--------------|
| 小         | 82%  | 18%          |
| 中         | 66%  | 35%          |
| 全国(小4~小6) | 88%  | 12%          |
| 中 1       | 78%  | 23%          |
| 中 2       | 66%  | 33%          |
| 中 3       | 53%  | 45%          |
| 小の男子      | 80%  | 19%          |
| 小の女子      | 83%  | 19%          |
| 中の男子      | 62%  | 38%          |
| 中の女子      | 70%  | 31%          |

(全国は『いま、小学生の世界は』NHK世論調査部編、日本放送出版協会・1985年、1984年調査小4~小6対象による)

この子ども達は、起床して以後およそ1時間半内のうちに、学校の授業に参加せざるを得ない子ども達であり、そうした子ども達が中学校の学年進行とともに増加し、中学3年生では45%と半数近くを占める。

また起床時間の遅い子どもに、小学生の場合、ほとんど男・女差はないが、中学生では男子(38%、女子31%)に多い。

ところが6時前に起床する子どもは、小学生男子20%、女子8%、中学生男子16%、女子4%と圧倒的に男子に多く、特に中学生の男子については、「早起き」型と「朝寝坊」型に分化する傾向が見受けられる。男子(小・中学生ともに)に「早起き」型が多いことは注目されるが、それはいかなる理由によるものであろうか。

それが、「早寝、早起き」の生活習慣のあらわれであれば問題はないが、仮に早朝の子ども向けテレビ漫画や早朝のスポーツ(部活の朝練やスポ少)活動等に起因するものであれば、子ども達の生理的生活リズムの確立にとって問題となろう。

いずれにしても、7時以降の起床が常態化している子ども達が多数いる(小18%、中35%)ということは無視できない問題であり、7時以降の起床が日常的には例外にとどめら

れる必要があろう。

次に就寝時間であるが、やはり小学生と中学生には大きな差があり、小学生の場合、午後10時までに84%（全国は90%）が就寝するのにに対し、中学生では41%に低下する。

小学生の場合、胆沢も全国も午後10時を境にそれ以後の就寝率が急減しており、おそらく大半の家庭が午後10時までの就寝を習慣化させている（させようとしている）ということであろう。

表-11 就寝時間

|      | 9時前に<br>(9時頃を含む) | 9時半<br>までに | 10時<br>までに | 10時30分<br>までに | 11時以降<br>(11時頃を含む) |
|------|------------------|------------|------------|---------------|--------------------|
| 小    | 31%              | 27%        | 26%        | 10%           | 5%                 |
| 中    | 9%               | 9%         | 23%        | 22%           | 38%                |
| 全 国  | 37%              | 21%        | 32%        | 5%            | 4%                 |
| 5年生  | 35%              | 28%        | 23%        | 10%           | 7%                 |
| 6年生  | 27%              | 26%        | 20%        | 10%           | 3%                 |
| 中 1  | 16%              | 14%        | 26%        | 22%           | 23%                |
| 中 2  | 5%               | 11%        | 25%        | 24%           | 34%                |
| 中 3  | 3%               | 2%         | 17%        | 19%           | 58%                |
| 小の男子 | 29%              | 28%        | 22%        | 13%           | 8%                 |
| 小の女子 | 33%              | 25%        | 30%        | 8%            | 3%                 |
| 中の男子 | 12%              | 11%        | 23%        | 19%           | 34%                |
| 中の女子 | 4%               | 7%         | 23%        | 24%           | 42%                |

(全国は前掲『いま、小学生の世界は』1985年による)

しかし胆沢の中学生については、逆に10時を境にそれ以後の就寝が急激に増加し、「10時前には寝るな」という習慣付けでもない限り、就寝時間についての生活習慣が確立されているようには見えない。特に、11時以降（11時頃を含む）の就寝率が中学生全体で38%、中学3年生では58%にも達しており、中学生に夜型生活が広く浸透していることがうかがえる。しかもそうした傾向は、男子（34%）よりも女子（42%）に強い。

いずれにせよ、中学生の学年進行とともに増加する夜型生活が、同じく中学生の学年進行とともに増える「朝寝坊」型生活の拡大と密接に結びついていることは、容易に想像される。

それでは、中学生の「夜型」生活の浸透は、子ども達をしていかなる夜の生活を営ませているのか、その生活の内実について見ていくことにする。〔中・3(6)「11時すぎには主に何をしていますか」表-12〕

表-12 「夜型生活」(11時以降就寝者の生活)の内実

|      | テレビ<br>ラジオ | マンガ<br>雑誌 | 小説 | 勉強  | なんとなく | その他 | 回答人数 |
|------|------------|-----------|----|-----|-------|-----|------|
| 中全体  | 54%        | 11%       | 4% | 12% | 12%   | 7%  | 164  |
| 中 1  | 59%        | 25%       | —  | 6%  | 6%    | 3%  | 32   |
| 中 2  | 60%        | 8%        | 4% | 4%  | 15%   | 9%  | 53   |
| 中 3  | 48%        | 8%        | 8% | 19% | 13%   | 8%  | 79   |
| 中の男子 | 65%        | 14%       | 1% | 8%  | 6%    | 6%  | 85   |
| 中の女子 | 42%        | 8%        | 6% | 15% | 19%   | 9%  | 78   |

(数値はすべて回答数に対する比率である)

この表から明らかなように、夜型生活の内実の過半を占めているのが、テレビ・ラジオ等の視聴(54%)である。特にその傾向は中学1・2年生(60%)に強く、また女子(42%)よりも男子(65%)に顕著である。

さすがに、マンガ・雑誌は中学1年生の25%、中学生男子の14%は目を引くものの、中学2・3年生になるといくらかマンガ離れが進むといえそうである。とはいえ、中学生の夜型生活は、決して勉強(12%)や読書(4%)などの「学習」領域で構成されている訳ではない。それは、受験を半年後に控えた中学3年生でも夜型生活の内実を「勉強」に占めているものが、20%足らず(19%)という現実からもうかがい知れよう。

親や周囲の期待はともかく、子どもたちの夜半の生活が、ある程度「学習」を中心に、目的・計画的に営まれていると見ることはできない。と同時に、何をするために起きているのかを自らが特定できない「なんとなく」層(全体で12%、女子で19%、3年生でも13%いる)が、多いことにも驚かされる。

子ども達にとって今や夜半の生活は、その内実においてではなく、起きていること自体が目的化し、常態化しているということであろうか。

それでは次に、子ども達の夜型生活の主要な場になっていると考えられる「子ども部屋」について、その有無と自己管理(片付け)の在り方、〔小・3(6)、中・3(7)「あなたは、子ども部屋を自分(または自分たち)で片付けていますか」表-13〕、〔両親・7「お父さんは、子ども部屋を自分で片付けていますか」表-13〕を見ていくことにする。

表-13 子ども部屋の有無と自己管理

|     | いつも片付けている | 時々  | あまり | ほとんど | 部屋なし | 無  |
|-----|-----------|-----|-----|------|------|----|
| 小   | 16%       | 52% | 14% | 6%   | 12%  | 0% |
| 中   | 44%       | 39% | 10% | 4%   | 3%   | 0% |
| 小の親 | 9%        | 46% | 25% | 9%   | 10%  | 1% |
| 中の親 | 20%       | 50% | 19% | 6%   | 0%   | 1% |

|     |     |     |     |     |     |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 5年生 | 17% | 46% | 16% | 7%  | 13% | —  |
| 6年生 | 14% | 57% | 13% | 4%  | 12% | 0% |
| 中 1 | 28% | 47% | 15% | 6%  | 4%  | 0% |
| 中 2 | 43% | 38% | 8%  | 5%  | 4%  | 0% |
| 中 3 | 59% | 30% | 7%  | 2%  | 2%  | —  |
| 小の男 | 14% | 45% | 17% | 11% | 13% | 0% |
| 小の女 | 17% | 58% | 12% | 1%  | 12% | —  |
| 中の男 | 35% | 40% | 13% | 8%  | 4%  | 0% |
| 中の女 | 53% | 37% | 7%  | 1%  | 3%  | 0% |

まず「子ども部屋」を持たない子どもが小学生12%、中学生3%と、中学生の場合「子ども部屋」のない子は、まさに数える程度になっている。

親の回答（小-10%、中-0%）から察するに、中学生になれば「子ども部屋」を確実に保障していることがうかがえるが、子どもと親の回答の差は、子ども達にとって自分（自分たち）だけの専有になっていなければ、「子ども部屋」とは考えない（「子ども部屋」ではない）ということなのであろう。

胆沢の子ども部屋「有り」は、全国（『児童環境調査』厚生省1983年、によれば小学校4～6年生の子ども部屋「有り」は81.5%、「無し」が18.5%）と比べて、全国が6年前の調査でしかも小学校4年生も対象にしていることを考慮すれば、必ずしも多いとは言えないであろう。

とはいえ、胆沢の子ども達の夜半の生活は、その時間帯及び内実からみて、家族との交わりの中で営まれているとは考えられず、やはり「子ども部屋」での生活が夜半の生活を形づくっていると見ざるを得ない。

それでは、子ども達に表-12に見られるような自由奔放な夜半の生活を保障する場となっている「子ども部屋」を、子ども達はどのように管理しているのであろうか。それを「子ども部屋の片付け」から見ると、自分の部屋の片付けは、子ども達の回答では概ね学年進行につれて増加し、（5年生17%⇒6年生14%⇒中学1年生28%⇒中学2年生43%⇒中学3年生⇒59%）中学3年生と中学生女子（53%）は過半数に達している。

しかし、1984年のNHK調査（『いま、小学生の世界』1985年）によれば、小学校6年生で「自分の身のまわりや部屋の片付けをする」子どもが47.9%あり、それでも「生活自律の遅れ」が指摘されていることを考えれば、胆沢の子ども達の「部屋の片付け」からみた生活自律は、相当立ち遅れていることになる。

加えて、親から見て「部屋の片付け」をしている子どもの率は、子ども達の回答のおよ

そ半分程度（小16%⇒小の親9%、中44%⇒中の親20%）でしかなく、親の見方の厳しさ（「片付け」への期待の大きさに対する反動もあろう）を割り引いたとしても、胆沢の子ども達は自らの部屋に対する管理上の責任を、あまり負っていないようにみえる。

これでは子ども達が賄付きのホテルの住人、もしくは下宿人と大差のない生活をしていることになるのではないか。

しかもそうした状況は、子ども部屋へのテレビの設置〔両親・8「子ども部屋にテレビが置いてありますか。」表-14〕によってさらに加速化されていると考えられる。

表-14 子ども部屋へのテレビの設置

|       | あ る | な い | 回答数 |
|-------|-----|-----|-----|
| 小 の 親 | 15% | 85% | 406 |
| 中 の 親 | 21% | 79% | 698 |
| 小の男子  | 19% | 81% | 180 |
| 小の女子  | 11% | 89% | 226 |
| 中の男子  | 28% | 72% | 349 |
| 中の女子  | 13% | 87% | 349 |

（数値は回答数に対する比率である）

「子ども部屋にテレビを置いている」と回答した親は小学生で15%、中学生で21%あり、特に中学生の男子では28%に達している。

近年一家に複数のテレビ、あるいは一部屋に一台という状況が一般化しつつあるとはいえ、子ども達のテレビ漬けに一層拍車をかけかねない現実が、ここには示されている。

中学生の夜型生活の内実がテレビ・ラジオ等によって、過半を占められている（特に男子）ことは既に指摘した通りであるが、子ども部屋へのテレビ設置がその主要な要因になっていることは疑いない。

子ども部屋は、もともと子どもに自らの生活そして時間を管理させることによって、生活の自律や自立を促すことを目的に与えられているものであろうが、子ども部屋のテレビ設置はそうした目的・意図とは逆に、大抵の場合子ども自らの生活や時間の管理を、大きく解体させることになる。

もう一つ子ども部屋での生活が自律的に営まれているかどうかを、「子ども達の起床の仕方」（自律か他律か）〔小、中・3(2)「あなたは、朝ひとりで起きられますか」表-15、両親・6「お子さんは、朝ひとりで起きていますか」表-15〕から、明らかにしてみたい。

表-15 起床の自律

|   | いつも一人で | 時々起こしても | 起こされることが多い | いつも起こしてもらおう |
|---|--------|---------|------------|-------------|
| 小 | 47%    | 34%     | 11%        | 6%          |
| 中 | 51%    | 30%     | 12%        | 6%          |

|          |       |  |
|----------|-------|--|
| 小の男子     | 56%   |  |
| 小の女子     | 40%   |  |
| 全国(小6)男子 | 59.6% |  |
| 全国(小6)女子 | 50.0% |  |
| 中の男子     | 54%   |  |
| 中の女子     | 48%   |  |

|     | いつも一人で | 時々起こす | 起こすことが多い | いつも起こす |
|-----|--------|-------|----------|--------|
| 小の親 | 31%    | 34%   | 25%      | 10%    |
| 中の親 | 36%    | 32%   | 23%      | 9%     |

(全国は前掲『いま、小学生の世界は』1985年による)

「いつも一人で起きる」子は、小学生47%、中学生51%（親の回答ではそれぞれ31%、36%）。この数字を見る限り、中学生になると起床の自律度が幾分高くなることはうかがえるが、全国（小学校6年生）との比較でみると、胆沢の小学生・中学生は男女ともに全国を大きく下回る。全国の数値（小6男子59.6%、女子50%）に対して、「遅い起床の自律」というコメントが付されていることを考えれば、胆沢の子ども達の起床の自律はさらに遅れているということになる。

しかも、親の目から見た子ども達の起床の自律は小学生で3割程度、親の目の厳しさを割り引いたとしても、やはり子ども達の起床の自律が相当遅れていることは否定できない。

こうした胆沢の子ども達の起床の自律の全般的な遅れは、恐らく夜型生活の浸透・拡大とテレビ・ラジオ等の感覚的刺激的の豊富さ（大脳の興奮状態の持続）、及びそれらの相乗効果と決して無縁ではないであろう。

全体的に見て、今胆沢の多くの子ども達は、子ども部屋を持つことによって、自らの生活や時間を管理しながら、生活上の自律を達成するという親の期待に、十分応えきれていないように見える。

そのことは既に見たように、子ども部屋での子ども達の生活が、それほど自律的に営まれてはいないという状況からもうかがえる。

さらに、こうした子ども部屋での生活が一層拡大していくことになれば、家族のコミュニケーションはもちろんのこと、生活における家族との共同・共有部分のさらなる減少・

縮小を招きかねない。

次に、子ども達の「基本的生活」に欠くことのできない「食事」について見ていくことにする。

まず、朝食の有無〔小、中・3(3)「あなたは、朝食を毎日食べていますか」表-16〕について見ると、

表-16 朝食の有無

|         | 毎日食べる | 時々食べない | 食べないことが多い | 毎日食べない |
|---------|-------|--------|-----------|--------|
| 小       | 86%   | 13%    | 1%        | -      |
| 中       | 84%   | 14%    | 2%        | 1%     |
| 全国 { 男子 | 81%   | 17%    | 2%        | -      |
| { 女子    | 86%   | 14%    | 1%        | -      |

(全国は、「児童生徒健康状況調査」1981年、日本学校保健会、対象は小学校1年生～3年生)

朝食は、小学生・中学生ともに毎日食べる子が大半（小学生86%、中学生84%）を占め、しかも学年別に見ても男女別に見てもほとんど差は見られない。全国（この調査は8年前のもので、しかも朝食を食べる習慣がほとんど崩れていないと考えられる小学校1～3年生を対象にしたものである。）との比較でも、「朝食を毎日食べている」子ども達は多いと言えそうであるが、全国の朝食を食べない理由を見ると、「朝起きるのがおそく時間がない」と「食べる気がしない」が合計で男子86%、女子88%あり、いずれも生活リズム（生活の自律）に問題があると思われる理由である。

胆沢の場合も「朝寝坊」型の子どもの目立つなど、生活自律の遅れ（生活リズムの乱れ）ている子ども達が、中学生を中心に多くなっていることを見れば、今後全国的な傾向を後追いすることは十分考えられる。合わせて、朝寝坊型の子どもの朝食の中身についても、「朝の粗食」になっていないかどうかの不安は残る。

それでは、次に子ども達の食事がどのような家族関係に支えられて営まれているかを、夕食の共食〔小、中・3(4)「あなたは、ふだんは、ばんごはんを親といっしょに食べていますか」表-17、18、父親、母親2「あなたは、お子さんと一緒に夕食を食べていますか」表-18〕を通して見ていくことにする。

表-17 夕食の共食(二つまでの回答)

|           | だいたい一緒 | 父の不在多い | 母の不在多い             | 子供だけで |
|-----------|--------|--------|--------------------|-------|
| 小         | 73%    | 38%    | 7%                 | 6%    |
| 中         | 72%    | 28%    | 5%                 | 7%    |
| 東京都(小5)   |        | 34.4%* | *(但し、父が一週間に3回以上不在) |       |
| 全国(小4~小6) |        |        |                    | 10.3% |

(東京都は『第3回東京都子ども基本調査』都生活文化局1983年調査による)  
 (全国は、前掲『いま、小学生の世界は』1984年調査による)  
 (それぞれの数値は、子どもの総数に対する比率である)

表-18 夕食時における父母の不在

|        | 父親の不在多い | 母親の不在多い | 父母の不在多い |
|--------|---------|---------|---------|
| 小学生の回答 | 38%     | 7%      | 45%     |
| 小の親の回答 | 28%     | 6%      | 34%     |
| 中学生の回答 | 28%     | 5%      | 33%     |
| 中の親の回答 | 24%     | 4%      | 28%     |

夕食を「だいたい父母と一緒に食べている」子どもが、小学生・中学生ともに7割を越えている。母親の「不在が多い」は少なく(小学生で7%、中学生で5%)、また祖父母の同居率の高さ(80%)も手伝ってか、「子どもだけ」の食事は全国(10.3%)より少ない(小6%、中7%)。

しかし、父親の不在化傾向は胆沢でも強まっており、(子どもの回答では中学生の父親28%⇒小学生の父親38%)その傾向は幾分母親(子どもの回答では中学生の母親5%⇒小学生の母親7%)にもあらわれはじめている。

また親が思う以上に、両親の不在(特に父親)を子ども達を感じとっているということは、「父親の不在が多い」—小の親28%⇒小38%、中の親24%⇒中28%、「母親の不在が多い」—小の親6%⇒小7%、中の親4%⇒中5%特に父親の場合、現実の物理的(時間的)不在の多さのみならず、家庭での存在感の薄さをあらわしているようにも思われる。

両親の共働きが常態化し、両親の不在化傾向(特に父親)が次第に強まりつつあるということは、夕食に限らず、今後家族内コミュニケーション、特に父子間のコミュニケーションや生活の共有をますます困難にしていくことが予想される。

最後に子ども達の小遣いの与えられ方や使い道〔小、中・4(1)「あなたは、家族から毎月おこづかいをもらっていますか」表-19、4・(2)「毎月おこづかいをもらっている人は、ひと付でいくらもらっているか書いてください」、4(3)「毎月おこづかいをもらっている人は、それを主に何に使っていますか」表-20)を通して、子ども達の日常生活の実態を

探っていくことにする。

表-19 お小遣いのもらい方

|            | 毎月もらっている | 毎月はもらっていない |
|------------|----------|------------|
| 小          | 67%      | 33%        |
| 中          | 70%      | 29%        |
| 全国(小学校6年生) | 75%      | 25%        |

(全国は『児童の日常生活に関する調査』文部省初等中等教育局小学校課1984年調査による)

お小遣いを月々(毎週・毎日も含む)もらっている子どもは、小学生で67%、中学生で70%と全国(75%)を幾分下まわっている。この表で見る限り、小学生⇒中学生と学年が上がるにつれて、「毎月もらっている」子どもの率が増えているように見えるが、学年別にみると中学1年生73%、中学2年生72%、中学3年生66%と、学年進行に比例している訳ではない。

また、男女別では、小・中学生ともに男子が女子を上まわっている。

確かに「毎月はもらっていない」比率(小学生33%)が、全国(小6.25%)よりも高いが、それは必ずしも胆沢で、「お小遣いをもらっていない」子どもが多いということの意味している訳ではなく、家族と子ども、とりわけ親と子どもの間における子どもの金銭管理をめぐるルールの未確立を意味しているにすぎない。

とはいえ、「毎月はもらっていない」が、中学3年生で30%以上いるということは、金銭管理上のルールの未確立が目立つということとどまらず、それが子ども達の金銭管理への親・家族の不安・危惧に由来しているとすれば、問題は大きい。

子ども達の毎月の小遣い額は、小学生で500円～1500円、中学生の場合、1500円以上に集中しているが、3千円以上の子どもが中学生の3割、中学3年生においては4割にのぼる。

その使い道を見ると、多いのは(3割以上の子どもが回答しているもの)小学生の場合、「マンガ」43%⇒「飲食物」42%⇒「貯金」39%の順であるが、中学生では「マンガ」41%⇒「飲食物」40%⇒「雑誌・小説」39%の順となる。

表-20 お小遣いの使い道(二つまで選択)

|   | 飲食物 | マンガ | 雑誌<br>小説 | 学用品 | 遊ぶ<br>もの | 貯金  | その他 | 回答人数 |
|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----|------|
| 小 | 42% | 43% | 18%      | 16% | 25%      | 39% | 8%  | 434  |
| 中 | 40% | 41% | 39%      | 8%  | 19%      | 24% | 16% | 621  |

|      |     |     |     |     |     |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小の男子 | 45% | 45% | 8%  | 6%  | 45% | 34% | 5%  | 213 |
| 小の女子 | 39% | 41% | 28% | 25% | 5%  | 43% | 5%  | 221 |
| 中の男子 | 42% | 47% | 19% | 4%  | 31% | 26% | 13% | 329 |
| 中の女子 | 37% | 35% | 61% | 11% | 5%  | 22% | 18% | 291 |

(数値は回答者数に対する比率である)

これを男女別にみると小学生男子は、「飲食物」・「マンガ」・「遊ぶもの」がそれぞれ45%、小学生女子は、「貯金」43%⇒「マンガ」41%⇒「飲食物」39%、中学生男子では「マンガ」47%⇒「飲食物」42%⇒「遊ぶもの」31%、中学生女子は、「雑誌・小説」61%⇒「飲食物」37%⇒「マンガ」35%の順になる。

総じて言えば、「飲食物」と「マンガ」を核にしたお小遣いの使用となり、子ども達の日常の金銭使用が計画的・目的的に行われているとは言い難い状況、換言すれば衝動的な金銭（小遣い）使用が多いという現実が浮かび上がる。

また「雑誌・小説」、「学用品」などへの使用が女子に多く見られるということは、女子の精神的成熟の早さのみならず、男子に比して日常の衝動的使用がそれだけ少ないことを示している。

とはいえ、胆沢の子ども達の小遣い使用は、あまりに日常的・衝動的すぎる傾向が強く、子ども達の金銭管理の自律の遅れを指摘しないわけにはいかない。

## (2) 家庭での労働

ここでは、子ども達が家族の共同生活を支える営みにどの程度参加しているのかを、子ども達の家庭での「手伝い」の程度や決め方〔小・3(7)、中・3(8)「あなたはふだん家の手伝いをしていますか」表-21、両親9「お子さんは、家の手伝いをしますか」表-21、小・3(8)、中・3(9)「あなたのふだん手伝うことは決まっていますか」表-22、両親・10「お子さんの普段手伝うことは決めてありますか」表-22〕を通して、明らかにする。

表-21 手伝いの程度

|     | よく手伝う | 時々手伝う | あまり手伝わ<br>ない | ほとんど手<br>伝わ<br>ない | 無  |
|-----|-------|-------|--------------|-------------------|----|
| 小   | 28%   | 49%   | 17%          | 6%                | 0% |
| 中   | 25%   | 44%   | 19%          | 11%               | 1% |
| 小の親 | 24%   | 57%   | 15%          | 4%                | 0% |
| 中の親 | 19%   | 55%   | 20%          | 6%                | 1% |

|      |     |     |     |     |    |
|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 小の男子 | 24% | 48% | 18% | 9%  | 0% |
| 小の女子 | 31% | 50% | 15% | 3%  | -  |
| 中の男子 | 23% | 41% | 18% | 16% | 1% |
| 中の女子 | 27% | 48% | 19% | 6%  | 0% |

まず「よく手伝う」子どもが、小学生で28%、中学生で25%、この子ども達は家事労働への参加がほぼ習慣化されているとみなすことができる。

しかし「あまり手伝わない」、「ほとんど手伝わない」子ども達が、小学生で23%、中学生で30%もあり、家事労働への参加が習慣化されている子どもとほぼ同率で、しかも小学生に比べて中学生の習慣化率が低下する傾向にある。

それを親の目から見ると、家事労働への参加が習慣化（手伝いが子どもの生活に組み込まれている）されている子どもはさらに少なく、（小学生で24%—マイナス4ポイント、中学生19%—マイナス6ポイント）親の期待の大きさと、それに応えきれない子ども達の姿が浮かび上がる。

しかし、ほとんど家事労働への参加が習慣化されていない子どもが、小学生23%、中学生30%と親の見方（小—19%、中—26%）より多いということは、どういうことであろうか。親の「何か手伝っているはずだ」、「何かしらの手伝いはしているであろう」という思いの強さということであろうか。

男女別に見ると女子の家事労働参加の習慣化率が高く、（小学生の場合7ポイント差、中学生の場合4ポイント差）家事労働への参加を通しての生活者としての自立が、女子に強く求められていることがわかる。

いずれにせよ、家事労働への参加が習慣化されている（と推測できる）子ども達が3割に満たず、しかも中学生になるとさらに低下するという事実は、子ども達の心理的親離れの進行とは裏腹に、子ども達の実際生活は、家族・親への依存をますます強めていると見ることができる。

つまり、ここでも子ども達が賄付きホテル生活者あるいは下宿人（お客さん）的扱いを受けている可能性が高く、特に中学生にその傾向の強いことがうかがえる。

それでは、どうして胆沢の子ども達の家事労働への参加の習慣化が遅れているのか、それを「手伝いの決め方」（表—22）からさぐっていくことにする。

表-22 手伝いの決め方

|      | 決まっている | 決まっていない | 無  |
|------|--------|---------|----|
| 小    | 50%    | 50%     | 0% |
| 中    | 49%    | 51%     | 0% |
| 小の親  | 41%    | 58%     | 1% |
| 中の親  | 40%    | 59%     | 1% |
| 小の男子 | 50%    | 49%     | 1% |
| 小の女子 | 49%    | 51%     | —  |
| 中の男子 | 38%    | 61%     | 1% |
| 中の女子 | 60%    | 40%     | —  |

この表からわかるように、「手伝うこと」が決まっている子どもは小学生・中学生ともに5割しかおらず、なかでも中学生男子に至っては38%という低率である。この子どもの回答に対し、「手伝うこと」を決めている親の比率はさらに低く、（小学生で41%、中学生で40%）家庭の中で家事労働への参加を習慣化させ、子どもたちの生活的自律を促そうとする親の子どもへの働きかけは弱い。

ただ、全般的に「手伝うこと」が決まっている（決めている）率が低い中学生（親・子どもの回答どちらも小学生よりも1ポイント低い）のなかで、男女別にみると、中学生の女子が60%と最も高い率を示していることは注目される。これは、性別役割分業意識の根強さをあらわしていると考えられるが、そのことも男子（特に中学生男子）のホテル生活者化、下宿人化を促す要因になっていると思われる。

確かに今日、家事の機械化・省力化が進展するなかで、子ども達の家事労働への参加が縮小・軽減されてきていることは、容易に想像しうる。加えて胆沢の場合、祖父母との同居率の高さが、子ども達の家事労働への参加をきわめて局限化している可能性は高い。

とはいうものの、家事労働は家庭が生産機能を消失すればする程、家庭の共同生活を支える営みとしての意味を大きく持つことになり、そこでの家族員の共同・協同は、家庭生活を維持するために不可欠のものとなる。

子ども達は家事労働への参加を通して、家族の一員としての自覚を身に付けるだけでなく、家事労働を通して実務処理能力（生活の知恵とわざ）、すなわち生活者としての自立能力を獲得する。しかも、家事労働への意欲的・自覚的参加は子ども達の生活リズムの確立においても、有効な方法となる。

(3) 家庭での学習

ここでは、子ども達の生活リズムの確立に欠かせないだけでなく、今日では、子どもの学力獲得に不可欠ともなっている家庭学習（宿題を含む）の実態や、それに対する期待や思いを、宿題への対応と思い、〔小、中・5(2)「あなたは、先生からだされた宿題をわすれずにやっていますか」表-23、小、中・5(3)「あなたは、宿題が多すぎると思いますか」表-24、父親、母親5「あなたは、お子さんの宿題についてどのように考えていますか」表-25〕そして、家庭での学習時間の実態と親の期待する学習時間〔小、中・5(1)「あなたは、ふだんは、いえで全部でなん時間くらい勉強していますか」表-26、両親・12「お子さんは普段は家で何時間くらい勉強していますか」表-26、父親、母親・4「あなたは、お子さんの家での勉強時間はどれくらいが望ましいと思いますか」表-27〕から見ていくことにする。

まず宿題への子ども達の対応であるが、概ねやっていく者が（「必ずやっていく」、  
「時々やっていくかない」）小学生で89%、中学生で75%と中学生になると14ポイントも低下する。宿題が小学生に多く課せられている（予備調査での聞き取り）ことを考えると、中学生の宿題達成率（必ずやっていく）11%は、あまりに低いと言わざるを得ない。

表-23 宿題への対応

|      | 必ずやっていく | 時々やっていくかない | あまりやっていくかない | ぜんぜんやっていくかない |
|------|---------|------------|-------------|--------------|
| 小    | 40%     | 49%        | 10%         | 1%           |
|      | 89%     |            | 11%         |              |
| 中    | 11%     | 64%        | 19%         | 6%           |
|      | 75%     |            | 25%         |              |
| 5 年  | 44%     | 47%        | 8%          | 0%           |
| 6 年  | 35%     | 52%        | 12%         | 1%           |
| 中 1  | 9%      | 67%        | 17%         | 8%           |
| 中 2  | 13%     | 62%        | 21%         | 4%           |
| 中 3  | 10%     | 62%        | 20%         | 8%           |
| 小の男子 | 29%     | 54%        | 15%         | 2%           |
| 小の女子 | 49%     | 46%        | 5%          | -            |
| 中の男子 | 7%      | 56%        | 28%         | 11%          |
| 中の女子 | 14%     | 72%        | 12%         | 2%           |

これを学年別にみると、「必ずやっていく」が6年生35%⇒中学1年生9%のように、中学生になると急激に低下する。同時に宿題をやらない層（「あまりやっていくかない」、

「ぜんぜんやっていかない」がほぼ倍加（小学校5年生8%、6年生13%⇒中学生25%、2年生25%、3年生28%）している。

さらに男女別では、全体として男子に達成率が低く（およそ女子の半分）、宿題をやらない層が中学生男子に37%も存在していることは注目される。

このように中学生になると、急激に宿題の未達成層が増大するのはどうしてなのか。中学生の宿題が多すぎるのか、あるいは難しすぎるのか、中学生になると宿題よりも他の学習に時間をとられるということなのか、さらには部活等で時間的余裕が持てないということなのか、教師の点検指導上の問題なのか、はたまた一見身についたように見える小学生時代の家庭学習の習慣が実はそうではなかったということなのか等々、種々その要因は考えられるが、ここでは、子どもと親が宿題（の量）を多いと感じているのかどうかから、中学生における宿題の未達成層増加の背景を考えて見たい。

もちろん、同量の宿題でも子どもや家庭の状況次第では、多いと感じたり少ないと感じたり、その受けとめ方に相当の開きがあることは言うまでもない。

表-24 宿題について（子ども）

|   |     | 多すぎる | 丁度よい | 少なすぎる | 無  |
|---|-----|------|------|-------|----|
| 小 |     | 28%  | 69%  | 3%    | —  |
| 中 |     | 18%  | 74%  | 7%    | 0% |
| 小 | 5   | 39%  | 58%  | 3%    | —  |
| 小 | 6   | 17%  | 81%  | 2%    | —  |
| 中 | 1   | 26%  | 68%  | 6%    | 0% |
| 中 | 2   | 20%  | 73%  | 6%    | —  |
| 中 | 3   | 9%   | 83%  | 9%    | 0% |
| 小 | の 男 | 38%  | 58%  | 3%    | —  |
| 小 | の 女 | 19%  | 79%  | 2%    | —  |
| 中 | の 男 | 26%  | 65%  | 8%    | 1% |
| 中 | の 女 | 10%  | 84%  | 6%    | —  |

表-25 宿題について（親）

|     | ない方がよい | 少なくしてほしい | いま程度でよい | 多くしてほしい | わからない | 無   |
|-----|--------|----------|---------|---------|-------|-----|
| 小の父 | 3%     | 7%       | 65%     | 13%     | 5%    | 8%  |
|     | 10%    |          |         |         |       |     |
| 小の母 | 1%     | 5%       | 73%     | 13%     | 3%    | 3%  |
|     | 6%     |          |         |         |       |     |
| 中の父 | 4%     | 5%       | 54%     | 20%     | 7%    | 10% |
|     | 9%     |          |         |         |       |     |
| 中の母 | 3%     | 3%       | 56%     | 25%     | 7%    | 6%  |
|     | 6%     |          |         |         |       |     |

表-24を見る限り、学校別・学年別・男女別どれをとっても、現状の宿題を肯定的にとらえている者が多い。

特に注目されるのは、宿題の未達成層の多かった中学生においてその傾向が強いということである。例えば、その傾向が最も強くあらわれている中学3年生の場合は、「ちょうどよい」と現状の宿題を肯定的にみている者が83%、「少なすぎる」と感じている者9%、合わせて91%の者が、「宿題」を肯定的・積極的に受け入れている。

これとは逆に、宿題の達成率が最も高かった小学5年生において、宿題を「多すぎる」と感じている者が最も多い(39%)という結果になっている。

これらの結果が示していることは、中学生の宿題未達成層の増加が、決して宿題の多い(多すぎる)ことに起因しているのではないということである。

考えられることは、宿題の達成率の高い小学生の場合、宿題を家庭・学校が積極的に位置づけその達成を強く指導している(子どもの側から言えば、強制されていると感じる面が強い)のに対し、達成率の低い中学生の場合は、家庭・学校が宿題を積極的に位置づけ指導することよりも、子ども自らが計画的に学習を進めることを期待するようになり、さらに家庭においては、子どもに対し積極的に指導するという関係が成りたちにくくなっているということであろう。

しかし、中学生が宿題を肯定的・積極的に受け入れようとしている事実は、彼らが課題を持ち学習を計画的に進めることの必要性を感じつつも、なかなかそうしえない自分への悩みや不満の解決を、宿題(与えられる課題)に求めていると見ることはできないであろうか。

また、中学生の肯定的な宿題受容は小学生時代の一律一斉の課題としての宿題が、必ずしも中学生の自律的な学習習慣の確立に結実していないということを示唆してはいないであろうか。

胆沢の場合、親の宿題への要求(「多くしてほしい」)が小学生(13%)よりも中学生(23%)の親に多く見られるということは、やはり中学生に自律的な学習習慣が身につけていないことのあらわれであり、同時にその解決を宿題に期待せざるを得ない親の思いをあらわしていると考えられる。

それでは、次に宿題を含む家庭での子ども達の学習時間と、親の学習希望時間を通して、胆沢の子ども達の学習実態を、学習の自律という観点から見ていくことにする。

表-25 家庭での学習時間

|            | ほとんど<br>しない | 30分   | 1時間   | 1.5<br>時<br>間 | 2時間   | 3時間   | 3時間<br>以<br>上 | 無    |
|------------|-------------|-------|-------|---------------|-------|-------|---------------|------|
| 小          | 6 %         | 27 %  | 43 %  | 17 %          | 7 %   | 1 %   | 0 %           | 0 %  |
| 中          | 20 %        | 22 %  | 27 %  | 15 %          | 12 %  | 3 %   | 1 %           | 0 %  |
| 小の親        | 5 %         | 50 %  | 35 %  | 7 %           | 2 %   | —     | —             | 1 %  |
| 中の親        | 12 %        | 32 %  | 36 %  | 10 %          | 8 %   | 2 %   | 0 %           | 1 %  |
| 小 5        | 6 %         | 30 %  | 44 %  | 13 %          | 5 %   | 1 %   | 0 %           | —    |
| 小 6        | 5 %         | 23 %  | 42 %  | 21 %          | 8 %   | 0 %   | —             | 1 %  |
| 全 国<br>小 6 | 7.4%        | 20.1% | 33.1% | 26.8%         | 12.4% |       |               | —    |
| 福井県<br>小 5 | 2.9%        | 15.7% | 25.7% | 20.7%         | 20.0% | 10.3% | 4.6%          | 0.1% |
| 福井県<br>小 6 | 3.7%        | 13.3% | 29.0% | 21.8%         | 19.9% | 9.0%  | 3.1%          | 0.2% |
| 中 1        | 26 %        | 28 %  | 24 %  | 13 %          | 6 %   | 1 %   | 0 %           | 0 %  |
| 中 2        | 24 %        | 25 %  | 33 %  | 13 %          | 5 %   | 0 %   | —             | —    |
| 中 3        | 10 %        | 14 %  | 22 %  | 19 %          | 27 %  | 6 %   | 1 %           | —    |
| 小の男        | 10 %        | 31 %  | 37 %  | 16 %          | 4 %   | 1 %   | —             | 0 %  |
| 小の女        | 1 %         | 23 %  | 48 %  | 18 %          | 9 %   | 1 %   | 0 %           | —    |
| 中の男        | 27 %        | 24 %  | 24 %  | 12 %          | 10 %  | 2 %   | 0 %           | —    |
| 中の女        | 13 %        | 21 %  | 29 %  | 18 %          | 15 %  | 3 %   | 2 %           | 0 %  |

(全国小6は『児童の日常生活に関する調査』文部省初等中等教育局小学校課、1984年調査による。福井県小5・小6は『84福井の教育白書』福井県教職員組合1984年10月調査による)

胆沢の小学生の家庭での学習時間は、「1時間」(43%)をピークに「30分」(27%)、「1.5時間」(17%)の順で、この3つを合計すると87%になる。

ところが中学生の場合、「1時間」(27%)、「30分」(22%)、「ほとんどしない」(20%)、「1.5時間」(15%)、「2時間」(12%)の順になり、1時間をピークに両側に広く拡散する。

それを学年別・男女別にみると、まず学年別では受験期の中学3年生を除くと、小学5・6年生に比べて中学1・2年生の学習時間が減少している。

特に、「ほとんどしない」子ども達が中学になると激増(およそ4人に1人)しており、その数値は先に見た宿題を「あまりやっていない」と「ぜんぜんやっていない」者の数値(中学1年生で25%、2年生で25%)にほぼ匹敵する。恐らくこの数値は、宿題以外の学習はもとより、宿題にも手がつけられないでいる子ども達の存在を示していると考え

られる。

また、胆沢の子ども達（6年生）を全国及び福井県の6年生と比べた場合（この数値は5年前のものである）、全国では「1時間」（33.1%）、「1.5時間」（26.8%）の順、福井県（小6）は「1時間」（29.0%）、「1.5時間」（21.8%）の順となり、胆沢の子ども達（小学生）の学習時間は少ない。

男女別にみると女子は男子に比して全般的に、学習時間が長く「ほとんどしない」者の率も低い。（小学生の場合、男子10%に対し1%、中学生男子27%に対し13%）

しかし、胆沢で最も学習時間の長い中学生女子で学習時間「30分以下」（「30分くらい」を含む）が34%もあり、（小学生男子41%、小学生女子24%、中学生男子51%）全国の6年生の27.5%、福井県の6年生の17%を越えている。

これは、胆沢の子ども達（小学生・中学生ともに）の学習時間がいかに少ないかを示すとともに、学習がせいぜい宿題程度にとどまっている（宿題も達成できない層がいることは既に述べたが）子ども達が、およそ半数はいるという現実を示している。

全体的にみて、胆沢の子ども達の学習時間は少なく、しかもその傾向は中学生及び男子に強く認められる。加えて男子の場合、小学生・中学生ともに「30分以下」（「30分くらい」を含む）の学習にとどまっている者が（小学生41%、中学生51%）約半数を占めており、彼らのほとんどは学習が宿題程度もしくは宿題さえも達成できない子ども達ということになる。

さらに中学生の学習時間が、「ほとんどしない」から「3時間くらい」あるいはそれ以上の層にまで拡散しているということは、中学生の家庭での学力獲得に大きな格差が生じているということを示している。

このように小学生時代の宿題を中心とする家庭学習の習慣化が、中学生になって宿題以外の学習にまで広がらない（それどころか後退している子どもが増える）ということは、家庭での学習が子ども達の生活リズムのなかに定着しておらず、しかも学習が自律的に営まれていないことを示している。

それでは、親は子ども達の家庭での学習時間をどの程度希望しているのだろうか。

表-27 親の希望する学習時間

|     | 30分位 | 1時間位 | 2時間位 | 3時間位 | 3時間以上 | 無   |
|-----|------|------|------|------|-------|-----|
| 小の親 | 10%  | 65%  | 18%  | 1%   | 0%    | 6%  |
| 中の親 | 3%   | 30%  | 49%  | 9%   | 2%    | 7%  |
| 小の父 | 11%  | 60%  | 19%  | 1%   | 0%    | 9%  |
| 小の母 | 10%  | 69%  | 16%  | 0%   | -     | 4%  |
| 中の父 | 4%   | 30%  | 46%  | 8%   | 2%    | 10% |
| 中の母 | 2%   | 30%  | 51%  | 10%  | 2%    | 4%  |

まず、小学生の親の場合「1時間くらい」が最も多く（65%）、次いで「2時間くらい」（18%）の順となり、せめて1時間は学習して欲しいという親の願いが感じられる。

中学生の親では「2時間くらい」がおよそ半数（49%）、次いで「1時間くらい」（30%）の順となり、2時間は学習して欲しいがどんなに少なくとも1時間ぐらいは、という親の願いが読みとれる。

この親の希望する学習時間を見れば、胆沢の親が子ども達に無理な期待を抱いていると言いはれ難い。それは、「宿題をふくめ、家庭学習のめやすは、低学年で30分、中学年で1時間、高学年でも1時間半程度でしょう」（『子育て百科』田中孝彦他編大月書店、1985年、p.496）、また「学習に集中できる時間は、低学年で30分、高学年で1時間半程度でしょう」（同上、p.497）というとらえ方からみても言えることである。

ただし、現在の胆沢の子ども達の学習実態からみて、親の希望を実現することには相当の困難を伴うであろう。それは既に述べたように、「いつもの時間にいつもの場所でいつものように」（同上、p.497）という学習の自律化・習慣化の確立を抜きには、解決しえない課題であるからである。

以下では子ども達の家庭という場での学習ではないが、帰宅後（放課後）の子ども達の生活を構成している学習塾を、家庭での学習の延長として、あるいは家庭学習の補完物としてとらえ、その実態〔小・中6「あなたは、学習塾（ソロバン・習字・ピアノなどのならいごとはいれない）に通っていますか」表-28、両親13「お子さんを学習塾に通わせていますか」表-28〕をとらえ、合わせて学習塾に対する子ども・親の考えや思い〔中・8「あなたは、これから先、学習塾に通いたいと思いますか。今通っている人は、これからも通いたいかなど答えてください」表-29、父・母6「あなたは、お子さんを学習塾に通わせたいと思いますか」表-29、父・母7「学習塾に通わせたいと思う主な理由は何ですか。一つだけ○をつけてください」表-30〕を明らかにしておきたい。

また、同じく子ども達の帰宅後の生活を構成している習い事も〔小、中・9「〈習い事に通っている人だけ答えてください〉何を習っていますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。」表-31〕合わせて見ておくことにする。

まず塾通いの有無であるが、塾通いしている子どもは、小学生で9%、中学生で22%いる。学年別にみると中学3年生を除いて学年進行につれて、次第に増えていることがわかる。（中学2年生で27%）

表-28 通塾の有無

|       | 通っている<br>(かよわせている) | 通ったことがある<br>かよ寄せたことがある | 通ったことはない<br>(かよわせていない) | 無  |
|-------|--------------------|------------------------|------------------------|----|
| 小     | 9%                 | 6%                     | 79%                    | 6% |
| 中     | 22%                | 12%                    | 64%                    | 2% |
| 小の親   | 17%                | 6%                     | 75%                    | 2% |
| 中の親   | 23%                | 9%                     | 67%                    | 1% |
| 小 5   | 7%                 | 8%                     | 76%                    | 9% |
| 小 6   | 11%                | 4%                     | 82%                    | 3% |
| 中 1   | 15%                | 10%                    | 71%                    | 4% |
| 中 2   | 27%                | 4%                     | 63%                    | 2% |
| 中 3   | 23%                | 19%                    | 57%                    | 0% |
| 小 5   | 27%                |                        |                        |    |
| 全国小6  | 36%                |                        |                        |    |
| 町村部小6 | 29%                |                        |                        |    |

(全国・町村部は『いま、小学生の世界は』日本放送出版協会1985町村部小6年、1984年調査による)  
 (小の親の「通わせている」17%には「習い事」が含まれていると考えられる)

中学3年生については、「通ったことがある」が19%にものぼり、中学3年生（調査時期が10月末）になると、塾通いをやめる者が相当いることがうかがえる。これは、中学3年生の場合、表-26に見られるように家庭での学習がある程度習慣化され、時間的にも長くなってきている（「2時間くらい」が多くなる）ことと無関係ではないであろう。

全体的に見て、塾通いは全国に比してかなり低い（小学校6年生で見ると全国の1/3程度）。しかし、それだからこそ胆沢の場合、今後増加する可能性が高いともいえる。

そのことは、子ども達と親の通塾希望を見れば明らかである。町内及び周辺地域の学習塾の数や種類に制約があるなかで、胆沢の場合親子ともども、現状の通塾率をはるかに越える通塾希望を持っている。

表-29 通塾希望

|     | 通 いたい<br>(通いたい・できれば通いたい) |     | 通わせたい<br>(ぜひ・できれば) |
|-----|--------------------------|-----|--------------------|
| 中全体 | 37%                      | 小の親 | 44%                |
| 中 1 | 29%                      | 中の親 | 45%                |
| 中 2 | 43%                      | 小の父 | 41%                |
| 中 3 | 39%                      | 小の母 | 47%                |
| 中の男 | 34%                      | 中の父 | 39%                |
| 中の女 | 41%                      | 中の母 | 52%                |

とはいえ、子どもよりも親の希望する率が高く、中学生37%に対し中学生の親45%（中学生の母親では52%にのぼる）と親の場合半数に迫る勢いである。また学年別にみると、中学2・3年生に希望が多く、（それぞれ43%、39%）親では母親に目立って多い。

さらには、小学生の親の通塾希望（44%）が中学生の親とほとんど差がないことも注目される。

これらのことから言えることは、仮に通塾が希望（特に親の）通りに実現されるとすれば、胆沢の通塾率が全国水準に到達する可能性があるということである。

また、胆沢の親子ともどもの通塾希望の高さの背景には、子ども達の家庭学習の習慣化の未確立、及び学習の自律度の低さに対する子ども達なりの自覚や親の思いが、広く存在しているということであろう。

以下では、親の通塾希望の理由を見ることによって、その点を明らかにしてみたい。

1985年の文部省『児童・生徒の学校外学習活動に関する実態調査』によると、小・中学生の親たちが塾通いさせる理由は、多いものから①「子どもが希望するから」（52.3%）②「自分一人では勉強しようとしなから」（38.0%）③「学校で習うことがむずかしくて家庭では教えられないから」（29.1%）となっている。

胆沢の場合（全国と設問項目が異なり、また複数回答ではないので、即座に比較することはできないが）、「進学準備のため」がもっとも多く、小学生の親で31%、中学生の親で32%、つづいて「家庭で勉強を見てやれないから」が小・中学生の親ともに27%、そして「本人の希望」が小学生の親16%、中学生の親15%という順になっている。

表-30 通塾希望(親の)理由

|     | 授業についていけない | 成績向上のため | 進学準備のため | 本人の希望 | 勉強を見てやれない | その他 |
|-----|------------|---------|---------|-------|-----------|-----|
| 小の親 | 9%         | 15%     | 31%     | 16%   | 27%       | 1%  |
| 中の親 | 12%        | 12%     | 32%     | 15%   | 27%       | 2%  |
| 小の父 | 7%         | 15%     | 32%     | 18%   | 28%       | -   |
| 小の母 | 11%        | 16%     | 31%     | 14%   | 26%       | 2%  |
| 中の父 | 9%         | 13%     | 36%     | 14%   | 28%       | 1%  |
| 中の母 | 15%        | 11%     | 30%     | 17%   | 26%       | 2%  |

(数値はそれぞれ回答数(小の父191、小の母225、中の父295、母380)に対する比率である)

全国と比べると、「家庭で勉強を見てやれないから」の理由が上位に位置し、また「進学準備のため」・「成績向上のため」・「授業についていけないから」などの「学力の向上」を目的とした理由が相当多いこと(合わせて小の親で55%、中の親で56%)に特徴がある。

また「本人の希望」は、先の表-29と比較すると、実際の子どもの希望(37%)の半分以下であり、親の目から見れば子ども達はあまり塾通いなど考えていないように見えるということであろう。

胆沢の場合、「学力の向上」と「勉強を見てやれない」が親の通塾希望の主たる理由であるが、子ども達に通塾希望が多いという実態も、実は親と同様、子ども自身が「学力の向上」と「自律した学習」を実現したいという思いに、強く駆られているからではないだろうか。

なお、胆沢の子ども達が現在塾で何を学んでいるかについて概観しておく、小学生(回答数74)の場合、算数47%、英語30%、合わせて77%、中学生は(回答数311)英語55%、数学33%、合わせて88%となっている。

塾通いの目的が小・中学生ともに数学(算数)と英語にあり、特に中学生の場合通塾者の過半数が英語を目的にしているということは、やはり「学力の向上」そして「家庭で勉強を見てやれない」という親側の通塾希望理由を、裏打ちしているように思われる。

しかし、小学生の通塾者に英語を目的にしている者が30%いるということが、「転ばぬ先の杖」なのか、それとも商業主義的な早期教育の宣伝の効果なのかは判断しがたいところである。

それでは最後に、子ども達の習い事について見ていくが、表-31は習い事をしている子ども達の習い事の内容を示したものである。それ故、この設問(9)に回答しなかった子どもを、習い事をしていない子どもと判断すれば(すべてそうとは言いきれないが)、小学生

の回答者すなわち習い事に通っている子どもは283人（無回答者219人）、中学生の回答者は151人（無回答者612人）で、それぞれ全体の56%、20%になる。

同じ見方を小学生・中学生の男女に適用すると、小学生男子は253人中93人の回答者で37%、女子は267人中190人の回答者で71%、中学生男子は385人中55人で14%、女子は377人中96人で25%となる。

実際に習い事に通っている子どもはこれらの数値を若干上まわるものと推定されるが、小・中学生とも習い事は女子に多く、とくに小学生女子の場合は7割を越えている。

しかし、これらの数値も全国の4年生78%、5年生73.9%、6年生65.7%（『児童・生徒の学校外学習活動に関する実態調査』1985年、文部省）と比べると決して高いものではない。

また、中学生になって急激に習い事に通う率が減少するのは、放課後の生活が部活動や塾通いに奪われるからと推定される。

習い事の内容は、小学生の場合圧倒的にソロバンであり、小学生女子では習い事に通っている子どものおよそ8割に達する。中学生もソロバンが多い（44%）とはいうものの、習い事の内容が多様化し、特に男子の「その他」（35%）（おそらくスポーツ関係）と女子の「ピアノ・エレクトーン」39%などが目立っている。

表-31 習い事の内容

|     | ソロバン | 習字  | ピアノ・エレクトーン |    | 水泳 | その他 | 回答数 | 回答人数 |
|-----|------|-----|------------|----|----|-----|-----|------|
| 小   | 74%  | 19% | 12%        | 2% | 3% | -   | 352 | 283人 |
| 中   | 44%  | 25% | 25%        | 2% | 3% | 19% | 178 | 151人 |
| 小の男 | 67%  | 22% | 1%         | -  | 5% | -   | 106 | 93人  |
| 小の女 | 77%  | 17% | 18%        | 4% | 2% | -   | 246 | 190人 |
| 中の男 | 44%  | 25% | 2%         | -  | 5% | 35% | 61  | 55人  |
| 中の女 | 45%  | 25% | 39%        | 3% | 1% | 9%  | 117 | 96人  |

なお、習い事をしている子ども達1人当たりの習い事の数値は、小学生男子1.14、女子1.29、中学生男子1.11、女子1.22でやはり女子に多く、小学生女子の場合1人で2つ以上の習い事をしている率は、全体の15~20%（50人前後）を占めると推計される。

今後、次第に習い事の内容が多様化するにつれて、習い事に通う子どもが増加し、また1人が複数の習い事に通う傾向が強まることも予想される。そうなれば、子ども達の放課後の生活は、塾通いの増加とも相まって、友達同志での遊びというわけにはいかず、子ども達の生活領域がさらに狭まる可能性は高い。

(4) 休日の過ごし方にみる子どもの「遊び」

次に日常の放課後の生活ではないが、子ども達の休日の過ごし方〔小・中・14「あなたは、休みの日（夏休み・冬休みなどはいれない）はおもにどうやってすごしていますか。三つまで○をつけてください。」表-32〕を見ることによって、子ども達の「遊び」が日頃どのような内実をもって構成されているのかを探ることとする。

表-32 休日の主な過ごし方（三つまでの選択）

|   | 友達と外遊び | 家族と外出 | 音楽  | 寝ること | テレビ・ラジオ | 勉強  |
|---|--------|-------|-----|------|---------|-----|
| 小 | 54%    | 32%   | 12% | 6%   | 39%     | 17% |
| 中 | 36%    | 17%   | 31% | 14%  | 40%     | 11% |

|     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小 5 | 54% | 30% | 11% | 7%  | 39% | 15% |
| 小 6 | 54% | 35% | 13% | 4%  | 38% | 18% |
| 中 1 | 40% | 21% | 22% | 10% | 31% | 10% |
| 中 2 | 32% | 19% | 31% | 13% | 46% | 6%  |
| 中 3 | 35% | 12% | 41% | 19% | 42  | 17% |

|     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小の男 | 64% | 20% | 11% | 6%  | 39% | 13% |
| 小の女 | 45% | 43% | 13% | 5%  | 39% | 20% |
| 中の男 | 41% | 12% | 25% | 16% | 41% | 9%  |
| 中の女 | 31% | 23% | 38% | 11% | 38% | 13% |

|   | マンガ・雑誌 | 読書 | テレビゲーム・ファミコン | スポーツ | 街への外出 | なんとなく | その他 | 無  |
|---|--------|----|--------------|------|-------|-------|-----|----|
| 小 | 31%    | 8% | 26%          | 11%  | 24%   | 17%   | 6%  | -  |
| 中 | 29%    | 9% | 20%          | 7%   | 31%   | 30%   | 7%  | 1% |

|     |     |     |     |     |     |     |    |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 小 5 | 34% | 10% | 26% | 12% | 25% | 15% | 3% | -  |
| 小 6 | 28% | 6%  | 26% | 10% | 23% | 18% | 9% | -  |
| 中 1 | 34% | 8%  | 27% | 8%  | 37% | 22% | 8% | 2% |
| 中 2 | 28% | 8%  | 21% | 8%  | 29% | 33% | 8% | 1% |
| 中 3 | 26% | 9%  | 11% | 5%  | 26% | 35% | 7% | %  |

|     |     |     |     |     |     |     |    |    |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 小の男 | 29% | 6%  | 49% | 15% | 20% | 8%  | 5% | -  |
| 小の女 | 33% | 11% | 6%  | 7%  | 27% | 24% | 7% | -  |
| 中の男 | 25% | 5%  | 34% | 10% | 29% | 26% | 8% | 1% |
| 中の女 | 33% | 12% | 5%  | 5%  | 33% | 33% | 7% | 1% |

(それぞれの項目の数値は回答数ではなく回答者数（子どもの数）に対する比率である)

まず小学生の場合、「友達と外で遊ぶ」子が過半数に達し（男子では64%）ているものの、「テレビ・ビデオを見る」（39%）、「マンガや雑誌をみる」（31%）、「ファミコン・テレビゲームをする」（26%）、「音楽を聴く」（12%）など室内で自由な時間を消費している（室内での「遊び」）傾向が強い。中学生にあっては、「友達と外で遊ぶ」が3割台に減少し、「テレビ・ビデオ」（40%）・「音楽」（31%）、「マンガ・雑誌」（29%）、「ファミコン・テレビゲーム」（20%）など、室内での個人的な時間の消費が小学生以上に目立っている。

また気になるのは、「なんとなくすごしている」層が小学生17%⇒中学生30%と増加し、しかもそれが学年進行に伴っているということ、（小学5年生15%⇒中学3年生35%）そして小・中学生ともに女子に多いということである。

彼らが決して無為に時間をすごしている訳ではないにしろ、楽しい休日を「楽しめない」あるいは「楽しむ気になれない」とすれば、休日の自由な時間が、実は決して精神的に自由な時間ではないということになってしまう。

次に学年別に休日のすごし方を見ていくと、学年進行とともに増加する「すごし方」と減少する「すごし方」があることがわかる。

まず増加する「すごし方」としては、「音楽を聴く」小5（11%）⇒中3（41%）、「寝ること」小5（7%）⇒中3（19%）、「なんとなく」小5（15%）⇒中3（35%）があり、減少するものとしては、「友達との外遊び」小5（54%）⇒中3（35%）、「家族との外出」小5（30%）⇒中3（12%）、「テレビゲーム・ファミコン」小5（26%）⇒中3（11%）、「スポーツ」小5（12%）⇒中3（5%）があげられる。

これ以外の「テレビ・ビデオ」、「マンガ・雑誌」、「読書」、「街への外出」はほとんど変化がなく、「勉強」については、小6（18%）⇒中2（6%）と低下するものの、中学3年生（17%）でようやく小6の水準にもどる。また「テレビゲーム・ファミコン」は小5（26%）から中2（21%）まであまり変化がないものの、中学3年生で急激に減少する（11%）。

これらの結果を見ると、学年進行とともに他者と交わりながら体を動かす（使う）活動が減少し、逆に体を動かさず他者との交わりを必要としない活動が増加していることがわかる。

加えて、「テレビ・ビデオ」、「マンガ・雑誌」のような学年進行にともなう変化が見られない「すごし方」も、もともと他者（特に家族）との交わりの薄い活動であり、「街への外出」に友達との関係が垣間見える程度）また私生活空間（個室）内で達成可能なものが多い。

このようにみると、胆沢の場合、中学生の休日の活動が空間的な広がり乏しく、また

他者との交わりの薄い活動に傾斜している可能性が高く、またそうした活動を自分で管理できないでいる状況が浮かび上がる。特にその傾向は中学1・2年生に顕著であるように感じられる。

#### (5) 子ども達の悩みと心配事

最後に子ども達が日常生活（学校生活を含む）の中で、どんな悩みや心配事を抱えているのかを、〔小・中16「今のあなたの一番の悩み・心配ごとは何ですか。一つだけ○をつけてください」。表-33〕から見ていくことにする。

表-33 一番の悩み・心配事

|     | 授業<br>のこと | 友達<br>のこと | 成績<br>のこと | 先生<br>のこと | 進路<br>のこと | 自信<br>がない | いじめ | クラブ<br>(部) |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|------------|
| 小   | 4%        | 4%        | 25%       | 2%        | 5%        | 5%        | 2%  | 1%         |
| 中   | 3%        | 3%        | 42%       | %         | 11%       | 6%        | 1%  | 1%         |
| 中 1 | 4%        | 4%        | 39%       | 0%        | 4%        | 6%        | 2%  | 2%         |
| 中 2 | 2%        | 3%        | 37%       | 1%        | 16%       | 6%        | 1%  | 1%         |
| 中 3 | 3%        | 2%        | 51%       | 2%        | 13%       | 7%        | 1%  | -          |
| 小の男 | 3%        | 1%        | 29%       | 33%       | 7%        | 4%        | 1%  | 1%         |
| 小の女 | 6%        | 6%        | 20%       | 1%        | 4%        | 6%        | 3%  | 1%         |
| 中の男 | 4%        | 2%        | 45%       | 1%        | 9%        | 4%        | 2%  | 1%         |
| 中の女 | 2%        | 3%        | 39%       | 1%        | 13%       | 8%        | 1%  | 1%         |

  

|   | 服装 | 顔スタイル | 家庭のこと | 異性のこと | その他 | 特になし | 無  |
|---|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 小 | 2% | 9%    | 2%    | 8%    | 3%  | 24%  | 5% |
| 中 | 2% | 6%    | 2%    | 11%   | 5%  | 4%   | 2% |

  

|     |    |     |    |     |    |     |    |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 中 1 | 2% | 9%  | 2% | 12% | 6% | 6%  | 3% |
| 中 2 | 2% | 5%  | 3% | 13% | 6% | 5%  | 0% |
| 中 3 | 2% | 4%  | 1% | 8%  | 3% | 2%  | 2% |
| 小の男 | -  | 5%  | 2% | 4%  | 5% | 28% | 8% |
| 小の女 | 4% | 12% | 3% | 12% | 1% | 20% | 3% |
| 中の男 | 3% | 3%  | 2% | 9%  | 5% | 6%  | 3% |
| 中の女 | 1% | 9%  | 2% | 13% | 5% | 2%  | 1% |

子ども達にとって最大の悩み・心配事は、「成績がよくない」（小-25%、中-42%）ことであり、中学3年生の過半数（51%）が成績で悩んだり、心配している。加えてその悩みは、小の男子29%、女子20%、中の男子45%、女子39%と家庭での学習習慣確立に問題のある中学生及び男子に多い。

また悩みや心配事が「特にない」のは小学生の場合、およそ4人に1人であるのに対し、中学生は4%でほとんどが何等かの悩みを抱えている。

男女別では、小・中学生ともに女子に悩み・心配事を持つ者が多く、(「特にない」が小の男子28%、女子20%、中の男子6%、女子2%)学年別では学年進行とともに悩みが増えている。ただ、その悩みも中学生では、「顔やスタイル」「異性のこと」どころではなくなり、「成績」と「進路」(合わせて中1-43%、中2-53%、中3-64%)が中心的な座を占めるようになる。

総じて言えることは、子ども達の悩みや心配事は、「成績がよくない」に代表される「学校生活」に直接関わる事項が多く、次いで「顔やスタイル」、「異性」、「なにをやるにも自信がでてこない」など他者との関係(比較)における「否定的自己像」をめぐって噴出しているように思われる。ただし、「成績がよくない」、「授業についていけない」などの学校生活上の悩みや心配も、親・教師(の期待・要求)や友達との関係性において形づくられるものであることを考えれば、結局のところ、子ども達は自己のあり方に対して不満や不安を表明しているとも見られる。

中学生において自己への不満・不安が強まることは、思春期の自我形成に特徴的と言えなくもないが、しかし自己への不満や不安が「成績」をめぐって噴出しているという点では、すぐれて今日的な特徴を示していると言えそうである。

「成績」、「勉強」が子ども達と他者(親・教師・友達など)との関係に重きをなし、そのことが子ども達にとって相当重圧になっている可能性は高い。

### 第三章 親子関係の実態と親子の葛藤

ここでは、胆沢の親子関係の実態を親と子のコミュニケーションの在り様やそれへの相互の思いを通して、また親と子の葛藤・緊張関係を親子間の不平や不満あるいは相互の意識のズレを探ることによって明らかにする。

#### (1) 親子のコミュニケーション

以下では、まず胆沢の親子関係を親と子のコミュニケーションがどの程度実現されているか、という観点から探っていくことにする。

家庭でのコミュニケーション頻度を見ると、〔小3(9)、中3(10)「あなたは、いえで学校のことや友達のことを話しますか」、表-34〕家庭で学校や友達のことを「よく話す」子どもは、小学生で38%、中学生で19%と、中学生は小学生の半分に減少する。また、「よく話す」のは小・中学生ともに女子に多く、小学生の女子では46%とおよそ半数近くに達

するが、中学生男子は9%と1割にも満たない。

表-34 コミュニケーション頻度

|       | よ く   | 時々・あまり | ほとんど  |       |
|-------|-------|--------|-------|-------|
| 小     | 38 %  | 53 %   | 8 %   |       |
| 中     | 19 %  | 65 %   | 16 %  |       |
| 福井県の小 | 37.1% | 51.9%  | 10.8% |       |
| 福井県の中 | 31.9% | 48.1%  | 19.9% |       |
| 小の男子  | 28 %  | 59 %   | 13 %  |       |
| 小の女子  | 46 %  | 49 %   | 4 %   |       |
| 中の男子  | 9 %   | 69 %   | 22 %  |       |
| 中の女子  | 30 %  | 61 %   | 9 %   |       |
| 福井県の  | 小の男子  | 28.9%  | 55.7% | 15.4% |
|       | 小の女子  | 45.2%  | 48.7% | 6.1%  |
|       | 中の男子  | 22.2%  | 52.1% | 25.7% |
|       | 中の女子  | 41.9%  | 44.2% | 13.9% |

(福井県は、『84福井の教育白書』福井県教職員組合、1984年10月調査による)

福井県との比較でいえば、「よく話す」子ども達の比率は、小学生の場合ほとんど差がないものの、中学生では男女ともに大きな差(胆沢の中の男子9%、福井県の中の男子22.2%、胆沢の中の女子30%、福井の中の女子41.9%)が見られる。

しかし「ほとんど話さない」子どもの率に、福井県との差がほとんどないことを考えれば、胆沢の中学生は家族とのコミュニケーションに「積極的」ではないが(特に男子)、ことさらにそれを避けている(消極的)ということでもなさそうである。

もちろん、中学生の家族とのコミュニケーションの減少は思春期における自立意識の高まりに裏打ちされている面があり、単純に問題視する訳にはいかない。しかし、胆沢の中学生の急激なコミュニケーションの減少は、先に述べた子ども部屋の問題とも関連して、子ども達の「ホテル生活者」化・「下宿人」化と無関係とは言い切れない面があるように思われる。

それでは次に、子ども達の家庭でのコミュニケーションが、主に家族の誰になされているのか〔小・3(10)、中3・(11)「いえで学校や友だちのことを話す時は、おもに家族のだれに話しますか。一つだけ○をつけてください」、表-35〕から親子のコミュニケーションの具体的姿を見ていくことにする。

表-35 家庭内コミュニケーションの対象

|     | 父母に | 父に | 母に  | 兄弟に | 祖父母 | 家族全体に | その他 | 無  |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|-------|-----|----|
| 小   | 13% | 2% | 43% | 7%  | 4%  | 29%   | 0%  | 1% |
| 中   | 15% | 4% | 37% | 18% | 4%  | 19%   | 2%  | 1% |
| 小の男 | 17% | 3% | 38% | 8%  | 4%  | 30%   | 0%  | 0% |
| 小の女 | 10% | 2% | 48% | 6%  | 4%  | 28%   | 0%  | 1% |
| 中の男 | 20% | 6% | 25% | 19% | 3%  | 23%   | 4%  | 2% |
| 中の女 | 10% | 1% | 50% | 18% | 5%  | 16%   | 1%  | 1% |

この表を見る限り、家庭でのコミュニケーションの対象は、小・中学生ともに「お母さん」がトップを占め（小—43%、中—37%）、「お父さんに」はほとんどいない。（小—2%、中—4%）

しかし、「家族のみんなに」「お父さんお母さんに」の大半が、「お父さんに」あるいは「お母さんに」も話しているということを考えれば、実際に「お母さん」「お父さん」に話している率はもっと高いものになる。

実際に母親に話をする子どもは（「お母さんに」、「お父さんお母さんに」、「家族のみんなに」を合わせると）、小の男子で85%、女子で86%、中の男子68%、中の女子76%という高い比率を示す。

父親に話をする子どもは（「お父さんに」、「お父さんお母さんに」、「家族のみんなに」を合わせると）、小の男子で50%、女子で40%、中の男子49%、女子27%となるが、やはり母親に話をする率を大きく下まわる。

母親に話をする率は、小学生の場合男女差が見られないものの、中学生では全般的に低下し、特に男子においてその低下が目立つ。（小の男子に比して17%の低下）

父親に話をする率をみると、男子の場合小・中ともに50%程度で差はないものの、中の女子（27%）は小の女子（40%）を大幅に下まわる。

全体的に見て小学生の場合、「父親」・「母親」とのコミュニケーションは成立していると考えられるが、中学生の場合、「父親の不在」・「親からの心理的離乳」などの要因も介在してか、親子のコミュニケーションが十分展開しているとは言い難い。

ただ中学生の場合、「兄弟に」話をする率が男子で19%、女子で18%と、小学生（男子8%、女子6%）の2～3倍に達している。

このことは、思春期の中学生が親とのコミュニケーションに困難を抱えている（親に話したくない、話しづらい）としても、必ずしも家族とのコミュニケーションを避けている

訳ではないことを示している。「おじいさんやおばあさんに」の4%もその意味で重要)

それでは次に、親子のコミュニケーションを成立させる上で欠くことのできない親のコミュニケーションへの態度を、親自身そして子どもがどうとらえているのかを、〔父・母3「あなたは、お子さんとどのくらい話をしますか」表-36、小3(11)、(12)、中3(12)、(13)、「あなたがお父さん(お母さん)に学校や友だちのことを話そうとする時、お父さん(お母さん)はどのくらいきいてくれますか。」、表-36〕探っていくことにする。

表-36 父母のコミュニケーション態度

|     | よく話す<br>(よく聞いてくれる) | 時々話す<br>(時々聞いてくれる) | あまり話さない<br>(あまり聞いてくれない) | ほとんど話さない<br>(ほとんど聞いてくれない) | 無<br>(父いない) |
|-----|--------------------|--------------------|-------------------------|---------------------------|-------------|
| 小の父 | 40%                | 43%                | 8%                      | 2%                        | 9%          |
| 小   | 42%                | 36%                | 11%                     | 7%                        | 4%          |
| 中の父 | 35%                | 45%                | 9%                      | 2%                        | 9%          |
| 中   | 44%                | 30%                | 10%                     | 9%                        | 8%          |
| 小の母 | 79%                | 16%                | 1%                      | —                         | 4%          |
| 小   | 76%                | 18%                | 3%                      | 2%                        | 1%          |
| 中の母 | 72%                | 22%                | 1%                      | 0%                        | 4%          |
| 中   | 67%                | 23%                | 4%                      | 2%                        | 3%          |

まず父親の態度であるが、「よく話す」(小の父40%、中の父35%)よりも「よくきいてくれる」(小42%、中44%)率が高く、特に中学生においてその傾向が強い。母親の態度はその逆で、「よく話す」(小の母79%、中の母72%)よりも「よくきいてくれる」(小76%、中67%)率が低い。

しかし、「よく話す」(「よくきいてくれる」)は小・中とも圧倒的に母親に多く、「あまり話さない」(「あまりきいてくれない」)、「ほとんど話さない」(「ほとんど聞いてくれない」)は父親に多く、日常的なコミュニケーションが、主に母子間で行われていることが推察される。

また、「あまり話さない」「ほとんど話さない」という父母の自覚以上に、「あまりきいてくれない」「ほとんどきいてくれない」と感じている子どもが多いということは、父母の側にコミュニケーションを成立させにくい条件(忙しいとか、説教的になるとか)がありそうである。

加えて父親の「よく話す」が、子どもの「よくきいてくれる」率を下まわっている(母親は上まわっている)という結果は、父親の日常的なコミュニケーションへの態度が消極的であり、それを父親自らが自覚しているということであろうか。

最後に親子の日常的なコミュニケーション関係ではないが、親子の日常の関係を象徴的に表現していると考えられる、親子間における子どもの悩みや心配事の処理（相談）について見ておきたい。

子どもは既に見たように、学校生活上の問題を核にした悩みを多く持ち、特に中学生でその傾向が強まり、悩みを持たない子どもはほんの数える程度になっている。

子どもが自らの悩みを親との関係で、どの程度処理しようとしているのか〔小3(13)、中3(14)「あなたは、なにか悩みや心配ごとができたとき、親に相談しようと思いますか」表-37〕を見ると、「なんでも相談しようと思（う）」っている子どもは小で16%、中で3%ときわめて少ない。特に中の3%は、親に悩みをなんでも打ち明け相談するということ、思春期の子ども達にとっては例外的（稀有）であることを物語っている。

表-37 親への悩み・心配事の相談

|     | なんでも相談する | 相談することもある | 相談しない | 無  |
|-----|----------|-----------|-------|----|
| 小   | 16%      | 61%       | 23%   | 1% |
| 中   | 3%       | 50%       | 47%   | 0% |
| 5年  | 14%      | 63%       | 22%   | 1% |
| 6年  | 19%      | 58%       | 23%   | 0% |
| 中1  | 2%       | 44%       | 54%   | —  |
| 中2  | 3%       | 53%       | 44%   | 0% |
| 中3  | 3%       | 52%       | 45%   | 0% |
| 小の男 | 14%      | 58%       | 27%   | 0% |
| 小の女 | 18%      | 63%       | 19%   | 1% |
| 中の男 | 2%       | 46%       | 52%   | 0% |
| 中の女 | 4%       | 54%       | 42%   | 0% |

とはいうものの、胆沢の場合はじめから「相談しないと思（う）」っている子どもが、中学生全体で47%（中学1年生は54%、中の男子は52%）とおよそ半数を占めていることは注目される。

表-35、表-36で見る限り、子ども達は父母との日常的コミュニケーションを成立（父親及び中の男子は少ないが）させているかのように見えるが、子ども達にとってそれは表層的なことであり、悩み・心配事の相談（本音の話し合い）とは区別されるということであろうか。

確かに中学生は自立意識が高まり、子どもあつかいされることや干渉、あるいは強制などに対し反発が強くなる時期である。

とはいえ、何も「相談しない」とはじめてから考えている子どもが、およそ半数いることは驚きであり、そこには親の側の問題、例えば時間的にも精神的にもゆったりと話を聞くことが困難、あるいは子どもとの話し合いが叱責や説教、そして干渉になっているなどの問題が介在していることも考えられる。

しかし基本的には、日常的な親子のコミュニケーションを成立させる以上の親子の共感・信頼関係の確立が、ここでは問われていると言えそうである。

## (2) 親子関係と親子の葛藤

親が子ども達に対して、「過干渉」であったり説教じみたりして子どもをのみこみ、思春期の第二の誕生を困難にしているという指摘もあるが、(『子育て百科』大月書店、1985年、田中孝彦編 p.790)胆沢では親が子どもにどんな事柄について注意(叱責)し、またその注意(叱責)を親と子どもはどう受けとめているのかを、〔小11、中14「お父さんやお母さんに、しかられたり注意されたりすることが多いのはどんなことですか。」父・母9「あなたが、お父さんを叱ったり注意することが多いのはどんなことですか。」表-38〕と〔小9、10、中12、13、「あなたは「お父さん(お母さん)が口うるさく注意しすぎる」と思うことがありますか。」父・母8「あなたは、ご自分のお子さんに対して口うるさく注意しすぎていると思うことがありますか。」表-39〕によって見ていくことにする。

まず、子ども達が注意(叱責)をうけることの多い事柄は、概ね「生活態度のこと」と「勉強のこと」と言えそうであるが、中学生になると注意されることの中心が、「生活態度」から「勉強」に移行する。小学生から中学生にかけて「生活態度」への注意が減少した分(69%⇒58%)、「勉強」への注意(48%⇒60%)が増えたとみることもできる。

表-38 注意される(する)事柄(二つまでの回答)

|     | 勉強  | 遊び  | 生活態度 | 友達 | その他 | 無   |
|-----|-----|-----|------|----|-----|-----|
| 小   | 48% | 21% | 69%  | 3% | 4%  | 1%  |
| 中   | 60% | 23% | 58%  | 4% | 4%  | 1%  |
| 小の男 | 51% | 29% | 60%  | 1% | 4%  | 1%  |
| 小の女 | 46% | 13% | 77%  | 4% | 3%  | 1%  |
| 中の男 | 62% | 29% | 49%  | 5% | 2%  | 2%  |
| 中の女 | 59% | 16% | 68%  | 3% | 1%  | 1%  |
| 小の母 | 53% | 13% | 82%  | 3% | 2%  | 5%  |
| 中の父 | 42% | 16% | 68%  | 6% | 1%  | 12% |
| 中の母 | 55% | 12% | 76%  | 4% | 2%  | 6%  |

(それぞれの数値は対象者に対する比率である)

小学生の場合、「生活態度」(69%)⇒「勉強」(48%)の順であったものが、中学生になると「勉強」(60%)⇒「生活態度」(58%)とわずかではあるが逆転する。特に逆転現象の著しいのが、中の男子(「勉強」62%⇒「生活態度」49%)であり、逆転はしないものの小の男子、中の女子も「勉強」が50%を越える。

また男女別にみると、男子が小・中とも「勉強」・「遊び」で注意されることが女子より多く、「勉強」については小の男子(51%)で女子(46%)より5%、中の男子(62%)で女子(59%)より3%程多い。「遊び」については、男子が小・中とも女子のおよそ2倍(小学生で2.2倍、中学生で1.8倍)という高い比率を示している。

しかしこれらを親の側からみると、小・中とも確かに「生活態度」・「勉強」をめぐる注意することが多いとはいえるが、子ども達の受けとめ方は異なって、はるかに「生活態度」(中の男子49%に対し、中の父68%、中の母76%)を核にした注意になっている。

確かに、中学生に対しては「生活態度」への注意が減少し、(小の母82%⇒中の母76%)「勉強」への注意(小の母53%⇒中の母55%)が若干増加するものの、両者が逆転することはなく、やはり「生活態度」が中心であることに変わりはない。

とするならば、「勉強」(「遊び」も)への注意をめぐる親子のとらえ方のズレは何に由来しているのだろうか。

しかも、「勉強」への注意をめぐる親子のとらえ方のズレは、小学生と中学生では全く逆で、小学生の場合、親が注意していると思う程には、子どもは注意されているとは感じていないというズレであり、中学生の場合は、親が注意していると思う以上に子どもは注意されていると感ずるズレである。

こうしたとらえ方のズレが、単に中学生(思春期)の親の注意・干渉等に対する反発(自立意識の高まり)からでているととらえるだけでは不十分であり、「子ども達の悩み・心配事」で見たような日常的な「勉強」プレッシャーと、自らの学習習慣の未確立に対する不満や不安との相乗効果に由来すると考えることができよう。

ただし他地域の調査と比較して、(『岡山県玉野市児童・生徒実態調査』玉野市青少年育成センター、1984年9月調査によると、小6で「勉強」について注意されるのは父から56.8%、母から60%となっている)胆沢の子ども達が必ずしも「勉強」で注意されたり、叱られたりすることが多いとは言えないことをおことわりしておきたい。

以上、子ども達は、主に「生活態度」と「勉強」について注意を受け、特に「勉強」と「遊び」については、親が注意していると思う以上に、注意を受けていると感じていることがわかった。とすれば、この親子のとらえ方のズレは、当然のことながら子どもの側には、「親が口うるさく注意しすぎる」と映じることになるであろうし、また親の側でも子どもへの注意が説教がましくなったり、必要以上に言い過ぎたりする場合もあると考えら

れる。

その点を親と子どもの両面から探ってみることにしたい。

表-39 親は口うるさく注意しすぎる(しすぎている)か

|             |     | 口うるさいと思う<br>(いつも・時々) | 口うるさいと思わない<br>(あまり・ほとんど) | 父または母いない | 無   |
|-------------|-----|----------------------|--------------------------|----------|-----|
| 父親<br>に対して  | 小   | 35%                  | 61%                      | 3%       | 0%  |
|             | 中   | 41%                  | 55%                      | 4%       | 1%  |
|             | 小 5 | 39%                  | 54%                      | 4%       | -   |
|             | 小 6 | 32%                  | 66%                      | 2%       | 0%  |
|             | 中 1 | 43%                  | 53%                      | 3%       | 0%  |
|             | 中 2 | 38%                  | 58%                      | 3%       | 0%  |
|             | 中 3 | 41%                  | 53%                      | 5%       | 1%  |
| 母親<br>に対して  | 小   | 47%                  | 52%                      | 2%       | 0%  |
|             | 中   | 63%                  | 35%                      | 0%       | 0%  |
|             | 小 5 | 43%                  | 55%                      | 1%       | 0%  |
|             | 小 6 | 50%                  | 47%                      | 2%       | -   |
|             | 中 1 | 60%                  | 38%                      | 1%       | 0%  |
|             | 中 2 | 63%                  | 34%                      | 2%       | 0%  |
|             | 中 3 | 63%                  | 33%                      | 3%       | 0%  |
| 子ども<br>に対して | 小の父 | 37%                  | 55%                      |          | 9%  |
|             | 小の母 | 70%                  | 27%                      |          | 3%  |
|             | 中の父 | 31%                  | 59%                      |          | 10% |
|             | 中の母 | 59%                  | 37%                      |          | 4%  |

まず、子ども達は父親よりも母親を口うるさい存在と見ており、(小で父35%⇒母47%、中で父41%⇒母63%)特に中学生にその傾向が強い。(中2では父38%に対し母63%)

学年別にみると、中学生が父親・母親両方に対し、小学生よりも口うるさく感じているが、父親の場合、必ずしも学年進行にともなって増大している訳ではない。それに対して母親の場合は、小5の43%⇒中3の63%へと学年進行につれて増大し、口うるさいと「あまり思わない」「ぜんぜん思わない」子どもは、中3で33%と3人に1人の割合になってしまう。

また親の側では、自らを口うるさい存在と感じているのは圧倒的に母親に多い(小の父37%⇒母70%、中の父31%⇒母59%)が、小学生の親の場合は、子ども達が感じている以上に自らを口うるさい存在と自認しており、特にその傾向は母親に強い。(小の父37%⇒小35%、小の母70%⇒小47%)

ところが中学生の親は逆に、子ども達を感じている程には自らを口うるさい存在とは考えておらず、(中の父31%、中の母59%⇒中63%)特にその傾向は父親に強い。

親としては、小学生に比べて、中学生にはあまり口うるさく対応していないつもり(小の父37%⇒中の父31%、小の母70%⇒中の母59%)でも、子ども達がそれと全く逆の受けとめ方をしているということは、中学生の場合何事に対しても「口うるさく注意される」ことに強く反発を感じるということもあろうが、表-38で見たように注意される事柄の違いとその受けとめ方の差であろう。

「勉強」に強い関心と重圧を感じながらも、それを自らの力で律しきれないでいる胆沢の多くの中学生にとって、親の何気ない注意(特に勉強についての)が重くのしかかり、二重・三重に口うるさく感じているということであろう。

もちろん、親の側にも子どもの現状を何とか変えたいという思いが先行して、つい注意がきつくなったり、説教がましくなっているということも大いに考えられる。

いずれにしても、ここでも親子のとらえ方のズレは中学生の場合、「勉強」をめぐるでてきているように思われる。それでは親は、どれ程子ども達の「勉強」及びその関連事項に関心を寄せ、また悩み・心配しているのだろうか。

以下では親が子どもの何について関心を持ち、また悩み・心配しているのかを〔小の父・母19、中の父・母20「あなたが今、お子さんのことで特に気になったり心配していることがありますか。次の中から当てはまるものに三つまで○をつけてください。」、表-40〕見ることによって、親子のとらえ方のズレの背後にあるものを探してみたい。

表-40 親の悩み・心配事(三つまでの複数回答)

|     | 健康体力 | 進路進学 | 生活態度 | 成績  | 子どもの性格 | 特になし |
|-----|------|------|------|-----|--------|------|
| 小の父 | 37%  | 17%  | 30%  | 29% | 17%    | 19%  |
| 小の母 | 39%  | 16%  | 37%  | 31% | 23%    | 20%  |
| 中の父 | 31%  | 48%  | 27%  | 36% | 14%    | 11%  |
| 中の母 | 33%  | 51%  | 31%  | 41% | 16%    | 13%  |

(それぞれの数値は、対象者に対する比率である。表は10%以上の回答があった項目から作成した)

上の表を整理すると

- 小の父親—「健康・体力」(37%) ⇒ 「日常の生活態度」(30%) ⇒ 「学業成績」(29%) ⇒ 「子どもの性格」・「進路・進学問題」(17%)  
 小の母親—「健康・体力」(39%) ⇒ 「日常の生活態度」(37%) ⇒ 「学業成績」(31%) ⇒ 「子どもの性格」(23%) ⇒ 「進路・進学問題」(16%)

|   |   |
|---|---|
| { | 中の父親—「進路・進学問題」(48%) ⇒ 「学業成績」(36%) ⇒ 「健康・体力」 |
|   | (31%) ⇒ 「日常の生活態度」(27%) ⇒ 「子どもの性格」(14%)      |
|   | 中の母親—「進路・進学問題」(51%) ⇒ 「学業成績」(41%) ⇒ 「健康・体力」 |
|   | (33%) ⇒ 「日常の生活態度」(31%) ⇒ 「子どもの性格」(16%)      |

となり、小学生・中学生ともに父母の悩み・心配事は共通している。

しかし、小の親と中の親では悩み・心配事の順位が相当入れかわっており、小の親の場合、子どもの家庭での日常生活に関する事柄が上位を占めているのに対し、中の親では、「成績」・「進路・進学」という学校生活に関わる事柄が上位を占める。しかも、中の親のおよそ半数(父—48%・母—51%)は「進路・進学問題」に悩み、心配していることがわかる。

また、悩み・心配事が「特にない」親は小学生に多く、(小の父19%、母20%⇒中の父11%、母13%)中学生の親が子どもの現状や将来に不安を持たないでいることの難しさを感じられる。

小学生の親の場合、悩み・心配事のそれぞれに大きな差がなく、(「健康体力」父37%、母39%⇒「進路・進学問題」父17%、母16%)悩み・心配事が子どもの生活全般に及んでいるが、中学生の親では悩み・心配事に大きな差が見られ、「進路進学問題」父48%、母51%⇒「子どもの性格」父14%、母16%)悩み・心配事が、子どもの将来やそれを規定する条件(「成績」)へと次第に収斂されつつあるように見える。

このように見るならば、子ども達、特に中学生が親が思う以上に親の注意・叱責を「勉強」をめぐる強く感じたり、また親の注意を口うるさく感じる底流には、親の「進路・進学」・「成績」をめぐる悩みや心配がほぼ常態化し、それが子どもとの関係で親の思い以上にあらわれたり、またあらわれないまでも、子どもがそれを鋭敏に感じとってのことであると考えられる。

その意味で胆沢の場合、親も子どもも「勉強」・「成績」・「進路・進学」といった子どもの将来とその規定条件に翻弄され、しかもそれに子どもも親も自律的に対応しえない(しきれない)でいる状況がうかがえる。

かかる事態が、ますます親子のコミュニケーションのみならず、親子関係全般を空虚なものにし、時には親子間のズレを大きくしているということであろう。であるならば、子ども達(中学生)は、親や家庭にあまり受け入れられていない(疎外されている)と感じても不思議ではないが、その点はどうかであろうか。

それを〔中15「あなたは、「親はあまり自分のことをわかってくれない」と思うことがありますか」表1-41〕、〔中16「あなたは、「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」と思うことがありますか」表-42〕、そして〔中17「あなたは、「いえにいたくな

い」と思うことがありますか」表—43] を通して見ていくことにする。

表—41 「親は自分のことをわかってくれない」と思うか

|        | 思う (いつも・時々) | 思わない (あまり・ぜんぜん) | 無   |
|--------|-------------|-----------------|-----|
| 中      | 56 %        | 43 %            | 1 % |
| 深谷調査・中 | 37.2%       | 62.8%           | —   |
| 中 1    | 55 %        | 43 %            | 2 % |
| 中 2    | 57 %        | 42 %            | 0 % |
| 中 3    | 55 %        | 44 %            | 1 % |
| 男 子    | 48 %        | 50 %            | 1 % |
| 女 子    | 63 %        | 36 %            | 1 % |

(深谷調査の「思う」は、「とても」「かなり」「まあ」を合計したものである)

表—42 「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」と思うか

|        | 思う (いつも・時々) | 思わない (あまり・ぜんぜん) | 無   |
|--------|-------------|-----------------|-----|
| 中      | 43 %        | 56 %            | 1 % |
| 深谷調査・中 | 34.9%       | 65.1%           | —   |
| 中 1    | 40 %        | 57 %            | 2 % |
| 中 2    | 49 %        | 51 %            | 0 % |
| 中 3    | 40 %        | 59 %            | 1 % |
| 男 子    | 45 %        | 54 %            | 1 % |
| 女 子    | 41 %        | 58 %            | 1 % |

(深谷調査の「思う」は、「とても」「かなり」「まあ」を合計したものである)

まず表—41、表—42を見ると、「親は自分のことをわかってくれない」と思っている中学生が過半数に達し(56%)、特にその傾向は女子(63%)に強い。ところが、「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」と思う中学生は男子に多く(45%、女子は41%)、全体では43%を占める。

10年前の深谷調査と比較すると、「親は自分のことをわかってくれない」と思う中学生がおおよそ20%増加し、また「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」と思う中学生も約10%増加している。

深谷氏は、当時の調査結果を「周囲からある程度受け入れられている」あらわれの一環ととらえ、また「親が本人を受け入れているという想いもそう的をはずれたものではない」と分析している。と同時に、それを東京との比較で「疎外感は少ない」ことの根拠にしている。

深谷氏の結論を現在の胆沢の中学生に敷えんするならば、胆沢の中学生は、「周囲

(親)からある程度受け入れられている」とはいい難く、また「親が本人を受け入れているという想いは、次第に的はずれたものになってきている」といえるであろう。さらに、東京はもとより10年前の深谷調査との比較において、「疎外感が高まっている」ということになる。

確かに深谷調査と比較した場合、この10年間に子ども達の親に受け入れられているという思いは減少し、親の無理解や過剰期待を感じる子どもが多くなっていることは認めざるを得ない。

しかし、それは胆沢の親たちをして、「現在の子どもにも学校にも、むろん将来の子どもにもとりたてて大きな望みや要求をもたずに眠る一匹のマンモス象」(深谷氏)であることを放棄させるほどの変動の波、例えば農業・農業所得の停滞・後退による兼業志向の増大や兼業所得獲得に向けた学歴獲得競争の全般的広がりなどから、胆沢も免れ得なかった(無縁ではいられなかった)ということであり、決して親が子どもを拒否しているということではないであろう。

要は、親の「学力」「学歴」獲得競争への願いや要求を、子ども達が自らの願いや要求として受容することが困難であるが故に、次第に両者の要求や願いに乖離が生じてきているということではなからうか。

それは、自立志向の強い女子に「親はわかってくれない」と思う率が高く、家の後継者として期待の大きい男子に「無理な期待を持ちすぎている」と思う率が高いことに端的に示されている。

それでは、子どもの「親に受け入れてもらえない」という思いの高まりは、子どもをして「いえ」を拒否するほどの思い(「いえ」からの疎外感)を醸成することになるのだろうか。

その点を〔小12、中17「あなたは、「いえにいたくない」と思うことがありますか」表-43〕で明らかにしてみたい。

表-43 「いえにいたくない」と思うか

|     | いつも思う | 時々思う | あまり思わない | 全然思わない |
|-----|-------|------|---------|--------|
| 小   | 2%    | 25%  | 22%     | 50%    |
| 中   | 9%    | 38%  | 30%     | 23%    |
| 小の男 | 2%    | 24%  | 19%     | 55%    |
| 小の女 | 2%    | 27%  | 25%     | 46%    |
| 中の男 | 7%    | 32%  | 30%     | 31%    |
| 中の女 | 12%   | 43%  | 29%     | 16%    |

「いえにいたくない」という思いは、必ずしも親との関係だけで醸成されるものではないが、「いえにいたくない」と思う（「いつも思う」、「時々思う」を合わせて）中学生が47%と、親の無理解（56%）、親の過剰期待（43%）を感じる子ども達の率とはほぼ変わらない数値を示していることは注目される。

特に、女子は、54%と過半数を越える比率であり、あたかも親の無理解（中の女子63%）と連動しているかの感がある。

また、「いえにいたくない」という思いが日常化している子どもは、小学生の場合2%とほんの数える程度であったものが、中学生では9%とおおよそ1割に達している。（中の女子では12%）

いずれにしても、子ども達の「親に受け入れてもらえない」という思いが、子ども達の「いえにいたくない」という思いの底流を形づくっていることは疑いなく、親だけでなく家庭（「いえ」）をも拒否したいという感情が強まっていると見るができる。しかもそうした感情を日常的に持ちつつあるということは、家族（親子）関係を殺伐とさせる要因となり、ますます親子関係の成立を困難にする可能性がある。

加えてこうした子ども達の思いが、思春期特有の親への反発の強まりからでているものであれば、ある意味で一過性の現象と見ることもできようが、既に見たように親と子の「勉強」・「進路・進学」・「成績」等をめぐる要求や願いの乖離、あるいはそれらを目ぐる相互の不満や不信からでているものであるとすれば、問題の根は深いと言わざるをえない。

それでは胆沢の親が「勉強」・「進路・進学」・「成績」等をめぐって、子どもとの関係に葛藤や悩みを抱えているとすれば、親は「勉強」・「進路・進学」・「成績」に直接的に関わり、またそれを実質的に担っている学校に対して、いかなる期待や思いを抱いているのであろうか。

次にそのことを、〔父・母13「あなたは、全体として見た場合、現在の小（中）学校のあり方に満足していますか」表-44〕と、〔父・母10「あなたは、次のことは主にどこで身につけるのが望ましいと思いますか。それぞれ当てはまるところに一つだけ○をつけてください。〕、(1)「基礎的な体力」(2)「豊かな情操」(3)「基本的な生活習慣」(4)「やる気や頑張り抜く力」(5)「友だちとつきあう態度」表-45〕から、また深谷調査との比較によって明らかにしたい。

表-44 学校への満足度

|     |       |      |      |       |     |
|-----|-------|------|------|-------|-----|
|     | とても満足 | まあ満足 | 少し不満 | かなり不満 | 無   |
| 親全体 | 3%    | 56%  | 28%  | 3%    | 9%  |
|     | 59%   |      | 31%  |       |     |
| 小の親 | 4%    | 64%  | 21%  | 2%    | 9%  |
|     | 68%   |      | 23%  |       |     |
| 中の親 | 3%    | 51%  | 33%  | 4%    | 10% |
|     | 54%   |      | 37%  |       |     |

  

|               |       |       |       |      |      |      |          |
|---------------|-------|-------|-------|------|------|------|----------|
|               | とても   | かなり   | まあ満足  | まあ不調 | かなり  | とても  | なんともいえない |
| 深谷調査<br>(親全体) | 5.2%  | 11.1% | 46.9% | 6.5% | 2.1% | 1.2% | 27.1%    |
|               | 63.2% |       |       | 9.8% |      |      |          |

学校のあり方に満足している（「とても満足」、「まあ満足」を合わせて）親は全体の59%と、およそ6割に達している。

ただし、不満（「少し不満」、「かなり不満」）を表明している親が3割程度存在し、特に中学校（37%）に対しての不満が多い。

深谷調査では満足している親の63.2%（「とても」、「かなり」、「まあ」を合わせて）という数値をもって、「胆沢の親たちの満足度は、不思議なほど高（い）く」「異例に高い満足度」と評している。

とするならば、現在の胆沢の親（59%）は「異例に高い」とはいえないまでも、学校に対して相当高い満足度を示していることになり、小学校に対する「満足」68%という数値は、形容し難い満足度の高さということになる。

しかし、深谷調査と本調査では設問の選択項目が異なり（設問は同じ）、一概には比較しえないが、深谷調査よりも「とても満足」という層が減少し（5.2%⇒3%）（深谷調査の「とても」、「かなり」を合わせると16.3%になり、それを今回の「とても」の3%と比較すれば前回調査の1/5以下になる）、「まあ満足」層が増加しているなど、満足度の中身は10年前に比して幾分薄まってきている。

とはいえ、今もって高いといえる胆沢の親の満足度の背景には何があるのか。かつて深谷調査では、「きわめて高い学校依存度、すなわち学校のもつ教育力に対する信頼であろう」と分析していたが、今日においても同じことが言えるのであろうか。

以下ではそれを、「体力」、「情操」、「生活習慣」、「気力」、「社会性」（友達と付き合い合う態度）の5領域における親の学校への役割期待の程度を見ることによって明らかにしたい。

表-45 親の学校への役割期待

|   |             | 学 校   | 家 庭   | 学習塾やおけいこ | 地域社会  |
|---|-------------|-------|-------|----------|-------|
| 基<br>礎<br>的<br>な<br>体<br>力                | 父 親 全 体     | 73 %  | 22 %  |          | 5 %   |
|   | 母 親 全 体     | 74 %  | 20 %  |          | 5 %   |
|   | 深谷調査<br>(父) | 75.2% | 15.1% | 1.3 %    | 8.5 % |
|   |             | (母)   | 79.1% | 12.9%    | 1.3 % |
|   | 小 の 父       | 69 %  | 26 %  |          | 5 %   |
|   | 小 の 母       | 73 %  | 23 %  |          | 5 %   |
|   | 中 の 父       | 75 %  | 19 %  |          | 6 %   |
|   | 中 の 母       | 74 %  | 21 %  |          | 5 %   |
| 豊<br>か<br>な<br>情<br>操                     | 父 親 全 体     | 23 %  | 51 %  |          | 27 %  |
|   | 母 親 全 体     | 16 %  | 56 %  |          | 29 %  |
|   | 深谷調査<br>(父) | 33.6% | 44.8% | 1.7 %    | 19.5% |
|   |             | (母)   | 33.5% | 46.9%    | 1.1 % |
|   | 小 の 父       | 25 %  | 52 %  |          | 23 %  |
|   | 小 の 母       | 16 %  | 57 %  |          | 27 %  |
|   | 中 の 父       | 21 %  | 50 %  |          | 29 %  |
|   | 中 の 母       | 16 %  | 54 %  |          | 30 %  |
| 基<br>本<br>的<br>な<br>生<br>活<br>習<br>慣      | 父 親 全 体     | 11 %  | 84 %  |          | 5 %   |
|   | 母 親 全 体     | 9 %   | 88 %  |          | 3 %   |
|   | 深谷調査<br>(父) | 33.6% | 53.4% | 1.8 %    | 11.1% |
|   |             | (母)   | 32.6% | 58.9%    | 1.1 % |
|   | 小 の 父       | 12 %  | 83 %  |          | 6 %   |
|   | 小 の 母       | 8 %   | 90 %  |          | 2 %   |
|   | 中 の 父       | 9 %   | 86 %  |          | 4 %   |
|   | 中 の 母       | 9 %   | 86 %  |          | 4 %   |
| や<br>る<br>気<br>頑<br>張<br>り<br>ぬ<br>く<br>力 | 父 親 全 体     | 53 %  | 33 %  |          | 7 %   |
|   | 母 親 全 体     | 60 %  | 34 %  |          | 7 %   |
|   | 深谷調査<br>(父) | 60.3% | 22.3% | 4.8 %    | 12.6% |
|   |             | (母)   | 65.1% | 20.0%    | 4.4 % |
|   | 小 の 父       | 56 %  | 36 %  |          | 8 %   |
|   | 小 の 母       | 63 %  | 32 %  |          | 6 %   |
|   | 中 の 父       | 58 %  | 36 %  |          | 7 %   |
|   | 中 の 母       | 58 %  | 34 %  |          | 8 %   |

|          |      |      |       |       |       |       |
|----------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 友達と付き合態度 | 父親全体 | 62 % | 17 %  |       | 21 %  |       |
|          | 母親全体 | 65 % | 17 %  |       | 18 %  |       |
|          | 深谷調査 | (父)  | 68.6% | 11.7% | 1.7 % | 18.0% |
|          |      | (母)  | 72.1% | 9.3%  | 1.4 % | 17.2% |
|          | 小の父  | 61 % | 18 %  |       | 22 %  |       |
|          | 小の母  | 64 % | 16 %  |       | 20 %  |       |
|          | 中の父  | 63 % | 17 %  |       | 20 %  |       |
|          | 中の母  | 65 % | 17 %  |       | 17 %  |       |

胆沢の親からみて主に学校が担うべきと期待されている領域は、5領域のうち「体力」（基礎的な体力）と「気力」（やる気頑張りぬく力）そして「社会性」（友達と付き合う態度）の3領域で、「情操」（豊かな情操）と「生活習慣」（基本的な生活習慣）の2領域は、主として家庭が担うべきものとされる。

この限りでは、10年前の深谷調査と変わるところはないが、その内実を見ると5領域すべてにわたって学校への役割期待が減少し、全領域で家庭への役割期待が増加している。とりわけ「生活習慣」については、家庭への期待がおよそ30%も増大し、学校・地域社会への役割期待はほとんど最小限にとどまっていると見ることができる。

とはいえ、家庭への役割期待の増加が、単純に学校への役割期待の減少によると考えるべきではなく、「体力」、「生活習慣」、「気力」の3領域では、地域社会への役割期待の減少を、また「情操」、「社会性」の2領域では地域社会への役割期待の増加を伴っていることに注意する必要がある。

親の役割期待が、学校から家庭へそして一部とはいえ地域社会へと広がっていくこと自体、子どもの人格形成にとって望ましいことではある。

また、家庭への役割期待の増加が親の学校への不信感を反映している面があるにしても、そのこと自体は「学校への過大な要求、または甘えを持つ人びとの存在」（深谷氏）が減少していることを示すものであり、そこには親の学校の現状に対する一定の判断が示されていると見ることができる。

学校への高い満足度は、学校への役割期待の大きさ、すなわち「高い学校依存度、学校信頼度」を背景にしているという深谷氏の指摘は、今日においても大筋として認めうるが、少なくとも「高い学校依存度」にかげりが生じ、学校への一方的な役割期待が次第に姿を消し、家庭という場で子どもを育て上げようとする志向が強まってきていることは、確かであろう。

ただし、学校への満足度合の薄まりは、やはり学校への依存度の低下ではなく信頼度の低下に支えられている可能性が高く、その意味で特に中学校への満足度の減少は、我子の

現状への不安や不満からくる学校への不信感を底流にしていると言えそうである。

### 結びにかえて

全体を通してまず感ずることは、それは胆沢のみならず全国的な状況であろうが、現在がいかに親や家族にとって「子育て受難」の時代であるかということである。

かつて子ども達は家族と生活を共にするなかで、人間関係の学習はもとより、生活に必要な知識や技能を獲得し、一人前の人間として自立することが一定程度可能であった。

しかしそうした家族の子育て機能は、「高度経済成長」に伴う社会構造の変化のなかで大きく変容を迫られ、子ども達は確かに生産労働から解放されはしたが、労働場面での家族・親子の共感を得にくいものとなった。

また多くの家庭では、共働きの代表される多就業構造が常態化し、「父親不在」（時間的にも精神的にも）や働く母親の多忙、過労（性別役割分業意識も手伝って）が、ますます深刻の度を増している。

こうした状況のなかでは、父も母も家族関係（夫婦関係）、親子関係を丹念につくり上げる時間的・精神的余裕を持つことは難しい。

しかも産業・就業構造が激変するなかで、子ども達はもはや「家業」を継げば済むという状況ではなく、親にとっても「家業」を継がせれば安心という状況ではない。かといって、子ども達が必ずしも学歴（学校歴）獲得競争に勝利するという見通しや保障はなく、親にとっては子どもを育てる目標をきわめて定立しにくい状況が広がってきている。

このように見るならば、現在は、①子どもを育てる目標はもちろんのこと、その方法においても戸惑いや迷いが付きまとい、②子どもを育てるための家族・親子関係をつくり上げる環境（条件）が厳しくなっているなど、親や家族にとっては、「子育て受難」の時代とでもいうべき状況が広がってきていると言えそうである。

さて、こうした「子育て受難」時代のなかで、胆沢の子ども達の家庭生活はどうなっているのだろうか。

胆沢の子ども達の家庭での生活を一言であらわせば、「基本的生活」・「労働」・「学習」・「遊び」のそれぞれの生活領域が、どれをとっても子ども達の自律的な営みになりえていないということである。とりわけ、そのことは、小学生よりも自律的な力を獲得しているはず（獲得していると思われる）の中学生の生活に顕著にあらわれている。

まず、「基本的生活」についてみると、「起床」、「就寝」時間が、学年進行につれて共に遅くなる傾向にあり、朝七時以降の起床が常態化している子ども達が多数（小一18%、中一35%）でてきているということである。特に中学生の場合は、学年進行とともに増加

する夜型生活（23時以降の就寝）が、朝寝坊型生活（七時以降の起床）の基底をなしていると見ることができる。しかも中学生の夜型生活は、決して勉強（12%）や読書（4%）などの「学習」領域で構成されている訳ではなく、テレビ・ラジオ等の視聴（54%）を中心にした、「遊び」領域（マンガ・雑誌の11%を加えて）で構成されている。加えて、「なんとなく」起きている層（12%）の存在は、その内実においてではなく、夜型生活それ自体が目的化されつつあることを示している。

こうした子ども達の（特に中学生）夜型生活を支え、可能にする場が「子ども部屋」であり、中学生の場合ほぼ100%保障されている。（「子ども部屋なし」の回答は中学生3%、中学生の親0%）と同時に、「子ども部屋」にテレビを設置している家庭が中学生の21%（中の男子で28%）にも及んでおり、子ども達の生活は家庭での共同的生活よりも、むしろ家庭の中の個室での個人的生活に、漸次移行しつつあることがうかがえる。

子どもの家庭での生活の重要な環をなす食事については、胆沢の子ども達は、朝食を「毎日食べている」（小—86%、中—84%）子どもが多いというものの、朝寝坊型の子どもが増えている今日、朝食の中身が「朝の粗食」になっている可能性は高い。また夕食の家族との共食を見ると、「父親の不在」傾向（小の父親38%）が目立ち、中学生⇒小学生とその傾向は強まっている。（中の父親—28%⇒小の父親—38%、中の母親—5%⇒小の母親—7%）

両親の共働き、あるいは労働条件の厳しさなども手伝ってのことであろうが、家庭生活における親子の共時的営みが、次第に成り立ちにくくなってきているということであろう。

こうした子ども達の家庭での基本的な生活（睡眠・食事など）が、子ども自身によってどの程度自律的に営まれているかを見たのが、「子ども部屋の片付け」、「起床の自律」、「お小遣いのもらい方・使い道」である。まず「子ども部屋の片付け」であるが、自分で「いつも片付けている」子どもは、概ね学年進行につれて増加しているとはいえ（小—16%⇒中—44%）、全国（小6—47.9%）に比べると低い。

また親から見た「子どもの部屋の片付け」は、子どもの回答の半分程度であり（小—16%⇒小の親—9%、中—44%⇒中の親—20%）、「部屋の片付け」から見て生活の自律が達成されているとは言い難い。

それは「起床の自律」についても全く同様であり、「いつも一人で起きる子」は小—47%⇒中—51%（親の回答ではそれぞれ31%、36%）で、中学生になると起床の自律度が幾分高くなるとはいえ、やはり全国（小6—55%）に比べると低く、「起床の自律」が達成されているとは言い難い。そのことは、「部屋の片付け」、「起床の自律」の全国的数値に対し「生活自律の遅れ」、「遅い起床の自律」（いずれも『いま小学生の世界は』1985年NHK世論調査部編による）というコメントが付されていることから首肯しえよう。

次に、胆沢の子ども達の「お小遣いのもらい方・使い道」であるが、お小遣いを「毎月もらっている」子どもが70%程度で、毎月の小遣い額は小学生で500円～1,500円、中学生は1,500円以上が多い。(3千円以上の中学生は30%)

このこと自体に大きな問題はないとしても、その使い道を見ると小学生の場合、「マンガ」43%⇒「飲食物」42%⇒「貯金」39%、中学生の場合、「マンガ」41%⇒「飲食物」40%⇒「雑誌・小説」39%の順になり、「マンガ」と「飲食物」を核にした小遣い使用になっていることが気にかかる。

とりわけ「飲食物」の大半が、衝動的な買い食いと連動していることを考えれば、子ども達の金銭管理が自律的・計画的に行われているとは言い難い。

このようにみるならば、胆沢の子ども達は全体として、「基本的生活」に崩れが生じており、(もともと確立されていなかったという面も否定できないが)その傾向は中学生において強まっている。しかも中学生における「基本的生活」の崩れの進行は、子ども部屋での生活によって助長され、加速化されていると見ることができる。子ども部屋は子どもに自らの生活や時間を管理させることによって、子どもの生活自律を促すために与えられたものであろうが、結果は子どもの「基本的生活」を解体させる方向へ作用しているように見える。

少なくとも子ども達が、賄付きホテルの住人や下宿人と大差のない生活を営むことに問題があるという点は、確認される必要がある。

次に子どもの家庭での「労働」を家庭での手伝いの程度や決め方から見ると、まず手伝いの程度では、「よく手伝う」子ども、すなわち家事労働への参加がほぼ習慣化されている子どもが、小学生で28%、中学生で25%いる。この比率は、「手伝うことが決まっている」子ども(小50%、中49%)の凡そ半分程度であり、「手伝い」がきめられていても、それを自律的に営めないでいる子どもが多いことを物語っている。

これを親の側からみると、「よく手伝う」子どもは小-24%、中-19%、「手伝うことを決めている」は小-41%、中-40%となり、親から見ても子どもが手伝いを自律的に営んでいるのは凡そ半分程度である。

問題は、親として子どもの「手伝うことを決めている」率が小・中とも40%程度しかなく、しかも中学生になると減少する(「よく手伝う」も減少している)傾向にあるということである。加えて、「手伝うことが決まっている」子どもを見ると、小学生の場合、男女差がほとんどないのに対し、中学生になると男子38%、女子60%と、格差が生じてくるという問題もある。

全体的に子どもの家事労働への参加が弱いなかで、中学生、特に男子を家事労働から解放しようとしているのは何故であろうか。

そこには中学生の部活動や受験勉強に対する親の一定の配慮とともに、性別役割分業意識の根強さ、そして男子に対する家の後継者、経済的自立者としての期待が垣間見える。

いずれにせよ今日、胆沢の子ども達は「生業」のための労働から解放されているだけでなく、自らの成長のための労働からも解放されようとしている。そのことは子ども達をして、家族の一員として自覚を弱めさせるとともに、生活者としての知恵やわざの獲得を困難にする。またそのことは、子ども達の生活をいよいよメリハリ(リズム)の乏しい生活へと導き、子ども達のホテル生活者化、下宿人化を促すことになる。

それでは、子どもの家庭での「学習」はどうであろうか。まず「宿題への対応」を見ると、「必ずやっていく」が6年生35%⇒中学1年生9%のように中学生になると急減し、逆に宿題をやらない層(「あまりやっていない」、「ぜんぜんやっていない」)が6年生13%⇒中学1年生25%のように倍加する。しかし、宿題を肯定的(「ちょうどよい」)、積極的(「少なすぎる」)に受け入れているのは中学生(81%、小学生は72%)に多く、また親の宿題への要求(「多くしてほしい」)も中学生の親(23%、小の親13%)に多い。

このことは、胆沢の中学生が部活動等の影響はあるにせよ、宿題を含む家庭での学習を自律的、習慣的に営めないでいるという現実とともに、自律的、習慣的に営めない学習の確立を宿題(与えられる課題)に期待している中学生と親が多数いることを示している。

胆沢の子ども達の宿題を含む学習時間は短かく、(小学生の場合、「1時間位」43%⇒「30分位」27%⇒「1.5時間位」17%の順、中学生の場合「1時間位」27%⇒「30分位」22%⇒「ほとんどしない」20%⇒「1.5時間位」15%⇒「2時間位」12%の順)、その傾向は中学生と男子に強い。中学生男子の場合「30分以下」(「30分位」を含む)の学習にとどまっている者が51%にもほり、彼らの多くは、学習がせいぜい宿題程度、もしくはそれさえも達成できない子ども達ということになる。

こうした状況を反映してか、胆沢の親の「希望する学習時間」は、小学生の場合、「1時間位」が最も多く(65%、次いで「2時間位」18%)、中学生では「2時間位」がおよそ半数(49%、次いで「1時間位」30%)を占める。かかる親の希望を、子どもに対する過剰な要求と見る訳にはいかない。「家庭学習のめやすは、高学年で、1時間半程度でしよう」(前掲『子育て百科』)というとらえ方が当然視されている昨今、それは逆に控目な要求とすることもできる。

胆沢の子ども達(とりわけ中学生及び男子)は、このように親の希望に沿った学習時間の確保どころか、家庭での学習を自律的、習慣的に営むことさえままならない者が多い。それ故、特に中学生の場合、学習を自律的、習慣的に営んでいる者とそうでない者との「学力」格差が、一層拡大するであろうことは容易に想像される。

胆沢の場合子どもも親も、家庭での学習の確立を宿題に求める傾向にあるが、それを

もって、家庭での自律的、習慣的学習が営まれているという訳にはいかない。(もちろんその契機にはなりえようが)加えて、家庭での学習(もちろん学校での学習とも関わるが)が外注化され、教育産業(塾)に委ねられる傾向にあるという事実は、さらに家庭での学習の自律化、習慣化の確立を、胆沢の親子の手から切り離すことにもなる。

家庭での学習の自律化、習慣化は、決して他力本願的に確立されるものではなく、親の援助や励ましのもとで、子ども自らが確立するものである限り、胆沢の子ども達の「子ども部屋」での生活、とりわけ夜型生活の内実は、学習の自律化、習慣化にとって、座視できない問題といえる。

最後に、子ども達の「遊び」の現状を「休日の過ごし方」から見ると、子ども達の「休日の過ごし方」としては、小学生の「友達と外で遊ぶ」(54%、小の男子は64%)が目立つものの、小・中学生とも概ね室内での「遊び」が多い。(「テレビ・ビデオを見る」小-39%、中-40%、「マンガや雑誌をみる」小-31%、中-29%、「ファミコン・テレビゲーム」小-26%、中-20%など)

また、小学生と中学生の間で極だって増減する「休日の過ごし方」としては、まず増加するものが、「音楽を聞く」小5-11%⇒中3-41%、「寝ること」小5-7%⇒中3-19%、「なんとなく」小5-15%⇒中3-35%であり、減少するものが「友達との外遊び」小5-54%⇒中3-35%、「家族との外出」小5-30%⇒中3-12%、「テレビゲーム・ファミコン」小5-26%⇒中3-11%、「スポーツ」小5-12%⇒中3-5%である。

このように、子ども達の「休日の過ごし方」は、中学生になると、他者(友人や家族)と交流することによって成り立つ活動、並びに身体を使う活動から次第に遠ざかっていく。別言すれば、子ども達とりわけ中学生の活動は、私的生活空間(「子ども部屋」)で達成可能なものが圧倒的に多くなる。加えて気になるのが、「なんとなく」過ごしている層の学年進行に伴う増加である。(小-17%⇒中-30%)

胆沢の子ども達の「休日の過ごし方」から「遊び」を見る限り、やはり「子ども部屋」での活動、また他者との交わりを要しない活動、すなわち個室における孤独な活動(「遊び」)が増えてきているように見える。しかも、休日を「なんとなく」過ごしている子ども達の小⇒中への増加を見るならば、子ども達にとって休日が必ずしも精神的に解放され、満ち足りた時間になりえていないのではないか、という不安は残る。

以上、胆沢の子ども達の家庭での生活は「基本的生活」、「労働」、「学習」、「遊び」の4領域どれ一つとってみてもさまざまな問題を抱えている。とりわけ、その問題は、4つの生活領域それぞれが十分確立されていないだけでなく、仮説的に言えば、縮小、後退を余儀なくされているのではないかということである。また生活領域相互の関係においては、「基本的生活」の未確立が、他の生活領域の確立をますます困難に陥れ、家庭での生

活全体をリズムやメリハリのない生活にしているようにも感じられる。それは、「基本的生活」が他の生活領域以上に、子どもの乳幼児期からの生活の積み重ねのなかで徐々に確立されていくものであり、また生活の根幹をなすまさしく「基本」に当たるものだからである。

その意味で、4つの生活領域の根幹をなす「基本的生活」の未確立という状況は、他の生活領域の土台を掘り崩すことにもなり、4つの生活領域の結びつきの型としての家庭での子どもの生活構造をゆがめ、また家庭での生活そのものを縮小させる。そしてそれらに拍車をかけているのが、子どもの「子ども部屋」での生活ということになる。

それでは、胆沢の子ども達に見る家庭での生活がその構造、内容、規模において種々の問題を抱えているとすれば、それを支え、つくりだしている胆沢の親子関係はどのような実態であり、いかなる問題を抱えているのであろうか。

胆沢の子ども達をめぐる家庭内の人間関係は、兄弟数の増加傾向、祖父母との同居率の高さなどから見る限り、(全国及び深谷調査との比較)多様な家族関係をつくりうる条件をもっている。

しかし既に見たように、親の共働きの増大(専業主婦の減少)や、安定就労層の薄さ(労働条件の厳しさ)、そして兼業農家の増加(農業労働と農外労働の二重労働)という事態は、10年前に比して親子関係を日常的につくりあげる上での条件を相当厳しいものになっている。

さらに農外就労の増加は、親と子の生産労働における共有部分を著しく減少させただけでなく、親の働く姿を子ども達の視野から奪い去り、ますます親子の関係を疎遠なものにする。

かかる親子関係をめぐる困難な条件のなかでも、胆沢の親子関係は、親子間のコミュニケーションの頻度を見る限り、格別問題視される状況にあるとは思えない。(「母親に」小の男子85%、女子86%、中の男子68%、女子67%、「父親に」小の男子50%、女子40%、中の男子49%、女子27%)

たしかに、父親とのコミュニケーションが母親と比べて少なく、また男子よりも女子(特に中の女子)にその傾向が強いとは言えるが、既に見た父親の不在傾向や女子の精神的成熟の早さなどを考え合わせると、ある程度首肯しうるとも考えられる。仮に思春期の中学生が、親(特に父親)とのコミュニケーションに何等かの困難を抱えているとしても、「兄弟に」(男子—19%、女子18%)、「祖父母に」(男子—3%、女子—5%)話をする者も少なくなく、中学生が決して家族とのコミュニケーションを避けている訳ではないことがうかがえる。

それでは、非日常的な親子のコミュニケーション(「親への悩み、心配事の相談」)は、

どうであろうか。子ども達は、親に「なんでも相談する」訳ではなく、(小一16%⇒中一3%)特に中学生(思春期)にあっては、それは例外的ともいえる数値を示す。と同時に、予め「相談しない」と決めている子どもが、小一23%、中一47%と、中学生になると倍増し、中学生の凡そ半分を占めていることは注目される。それは、中学生(思春期の子ども達)の自律意識の高まり(干渉、強制、説教などへの反発)に裏打ちされている面があるにせよ、そこには何等かの親子の「葛藤」が介在しているようにも思われる。

その点を親は子どものどんな事柄について注意(叱責)し、またその注意を子ども達がどう受けとめているのか、からみていくことにする。

まず、子ども達が注意をうけることの多い事柄は、「生活態度」(小一69%、中一58%)と「勉強」(小一48%、中一60%)であり、中学生になると注意される事柄の中心が「勉強」に移行していく。(中の男子では「勉強」62%、「生活態度」49%と完全に逆転する)ところが、これを親の側からみると、小・中とも確かに「生活態度」・「勉強」をめぐって注意することが多いとはいえ、「勉強」(小の母一53%、中の母一55%)よりは、「生活態度」(小の母一82%、中の母一76%)を核にした注意が目立つ。

このような、「注意」される(する)事柄をめぐる親子のとらえ方のズレ、とりわけ中学生が「勉強」についての注意を、親が注意している(と思う)以上に強く感じているというズレはどうして生じるのであろうか。

中学生は特に、「成績」(中一42%)や「進路」(中一11%)に悩みを持ち、また「学習」(「勉強」)の自律化、習慣化に困難を抱え懊悩するなど、相当に「勉強」プレッシャーを感じている。

その意味で親の「勉強」への注意を、それが何気ないものであっても「口うるさく」感じたり、「勉強」への注意が多いと感ずるその背後には、子ども自身が日常的に「勉強」プレッシャーに噴まされている、という現実が横たわっていると見なければならない。

もちろん、親も子ども同様いわゆる「勉強」プレッシャーから免れている訳ではない。中学生の親のおよそ半数(父一48%、母一51%)が、「進路・進学」に悩みを持ち、4割前後の親が(父一36%、母一41%)「成績」で悩んでいる。とするならば、子ども達(特に中学生)が、親の「勉強」への注意を親が思う以上に強く感じたり、「口うるさく」感じたりする底流には、親の「勉強」プレッシャー(「進路進学」・「成績」をめぐる悩み)がほぼ日常化し、それが子どもへの対応のなかで、時には強い言葉となってあらわれたり、またあらわれないまでも、子どもの側がそれを鋭敏に感じとっているということも考えられる。

こうした親子ともどもの「勉強」プレッシャーが強まれば強まるほど、親子の間に「葛藤」が生じ、またそれぞれの対応にズレを感じることになる。

しかも、こうした「葛藤」やズレが存在しているが故に、子ども達は「親は自分のことをわかってくれない」（中—56%）と思ったり、「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」（中—43%）という思いを、強く抱くことにもなる。

そのことは、決して親が子どもを拒否している（受容していない）ということの意味する訳ではないにしろ、10年前の深谷調査より、前者が約20%、後者が約10%増加していることを見れば、子ども達が親との関係で「疎外感」を高めてきているという現実には認めざるをえない。

そしてまた、子ども達が「親の無理解」（中—56%）や「親の過剰期待」（中—43%）を強く感じているということが、「家にいたくない」という思い（「いつも思う」、「時々思う」が中—47%）の底流を形づくっているようにも思われる。

かくして、胆沢の親子関係は、日常（普段）のコミュニケーションを、「表層的」に営める関係にあるとしても、その内実に分け入るとさまざまな「葛藤」があり、子ども達の多くがその関係に「疎外感」を抱いていることが見えてくる。そして、こうした子ども達の思いが、思春期に特徴的な親（親の考えや価値感、あるいは親の統制や規制など）への反発に由来している面はあるにせよ、やはり親と子の「学習」・「進路・進学」・「成績」等をめぐる相互の要求や願いの乖離、あるいはそれらをめぐる相互の不満や不信からでてきていると見るのが至当のように思われる。特に、「生活目標（＝進路）の見通しを立てられずにいる」（駒林邦男『報告書』p. 151）中学生、そして「親たち自身が自分たちの〈進路〉に迷わざるを得（ない）」ず、また「親にとって、子どもの進路問題は進学問題に収束される問題ではな（くなる）」い、（両方とも駒林邦男、前掲『報告書』p. 142）という状況を見るならば、中学生・親ともどもに、「目当てのない欲求不満」（大田堯）に陥り、相互に苛立ちをもって相対することになりかねない。かかる事態も、胆沢の親子関係に鋭敏に反映しているであろうことは、十分予想される。

このように現代という時代的特徴を最も体現している親と子の将来に対する迷いや「学習」・「成績」などに対する悩みは、たしかに親子関係を翻弄しゆがめている可能性は高い。しかし、胆沢の親は決して親子関係に絶望したり、あきらめている訳ではない。

それは、親の学校に対する期待や依存傾向が減少しているという事実を、「体力」・「情操」・「生活習慣」・「気力」・「社会性」のすべての領域で、10年前の深谷調査と比べて、学校への期待が減少し、全領域で家庭への役割期待が増加している。特に「生活習慣」については10年前よりも30%も増大していることは注目される）どう見るのかにも関わるが、それを親の学校への不信感の増大として単純に見るのではなく、子ども達の生活や人格形成を家庭として引き受けようとする親の判断のあらわれとして見ておく必要がある。何故ならば、「学校への過大な要求、または甘えを持つ人々の存在」（深谷氏）

が減少しているという事実は、その底流に胆沢の子ども達や学校の実態をリアルに見据えようとする親、そして家庭の役割を自覚的にとらえようとする親が確実に広がってきていることを物語っているからである。

今、胆沢の子ども達は、家庭での生活（4つの生活領域）を自律的に営めないだけでなく、子どもの自律的な生活を支えるべき親子関係に「疎外感」を強めている。

かかる要因を家庭・家族内に求めようとするれば、確かに、子どもの生活自律を支えるべき親や家族のあり方に問題があるということになる。

しかし、既に見たように、親も家族も社会変動の波をもろに受けることによって、その生活（意識を含む）を大きく変えてきている（変えさせられている）。とりわけ、親の「勉強」プレッシャーなどは、親という存在にもともと起因する意識というよりは、社会（特に学校）との関わりのなかで育てられ、強められてきた意識ということができる。

このように見るならば、今、親や家庭は自らに起因しない問題を抱え込み（抱えこまされ）、それへの対応に苦慮しているのが、実態ということになる。

とはいえ、子ども達にとって、親や家族の支えを抜きにして、家庭での生活自律を確立することが困難であることを考えれば、親は、否応なく（自らに起因する問題であるかどうかに関わらず）子どもの生活自律に関わらざるを得ない存在であり、それを免れることはできない。

こう考えると、親（もしくは家族）は、子どもとの生活上の共有部分を意図的に拡大し、（子どもを家族の生活に意識的に参加させ）親子関係を共感と信頼に基づく関係へと組み換えていくことを意図的に追求していくことが求められている。それには、親の精神的、時間的余裕が不可欠であり、親は自らの生活の立て直し（生活の自律）をも課題としなければならないことになる。

その意味では、現在は確かに親や家族にとって「子育て受難」の時代であると言わざるをえない。

# 調 査 票

## 調査のおねがい

これは、足利町小学5・6年生のみなさんの毎日の生活やふだん考えていることを教えてください。テストではありません。結果はコンピューターで処理しますので、あなたの名前がたりめいわくをかけたことはありませんから、あなたの思ったとおりを教えてください。

調査票は①小学生用調査票、②中学生用調査票、③小学生父母用調査票、④中学生父母用調査票、⑤高校生用調査票の5種類である。

### 答えかたの例

あなたは、マンガを見るのが好きですか。

ア とても好き     けっこう好き    ウ あまり好きでない    エ きらい

↓

「けっこう好き」だったら、このように○をつけてください。

ほかに、ハコの中に○をつけてもらったり、書いてもらったりするところもあります。

それでは、はじめてください。

- 1 あなたの学年と性別を教えてください。 ( ) 年生 ( ア 男 イ 女 )
- 2 あなたの家族のことを教えてください。
  - (1) あなたは、おじいさんやおばあさんといっしょにすんでいますか。
 

ア はい    イ いいえ
  - (2) あなたには、きょうだいがありますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。
 

ア いない    イ お兄さんがいる    ウ お姉さんがいる    エ 弟や妹がいる
  - (3) あなたのお父さんは、どんな仕事をしていますか。一つだけ○をつけてください。
 

ア 農業だけをやっている

イ 農業のほかに、お店や工場などの自営業(ひとに雇われないでやる仕事)もやっている

ウ 農業のほかに、よそに勤めている(ひとに雇われて仕事をしている)

エ お店や工場などの自営業をやっている

オ 会社・工場や役場・農協などに勤めている

カ いまは仕事をしていない    キ お父さんはいない
  - (4) あなたのお母さんは、どんな仕事をしていますか。一つだけ○をつけてください。
 

ア 農業だけをやっている    イ 農業のほかに、お店や工場などの自営業もやっている

ウ 農家のほかに、よそに勤めている エ お店や工場などの自営業をやっている

オ 会社・工場や役場・農協などに勤めている カ いえで内職うちわざをしている

キ 仕事をしていない(いえで家事をしている) ク お母さんはいない

3 いえでのあなたの生活について教えてください。

(1) あなたは、ふだんは朝なん時におきていますか。

ア 6時まえ イ 6時ころ ウ 6時半ころ エ 7時ころ オ 7時半ころ

カ 7時半すぎ

(2) あなたは、朝ひとりでおきられますか。

ア いつもひとりでおきる イ ととききおこしてもらう

ウ おこしてもらうことが多い エ いつもおこしてもらう

(3) あなたは、朝食あさめしを毎日食べていますか。

ア 毎日食べている イ とときき食べないことがある

ウ 食べないことが多い エ 毎日食べない

(4) あなたは、ふだんは、ばんごはんを朝といっしょにたべていますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア だいたい、いっしょにたべている イ お父さんがいないことが多い

ウ お母さんがいないことが多い エ 子どもだけで食べる人が多い

(5) あなたは、ふだんは夜なん時ころねていますか。

ア 8時半まえ イ 8時半ころ ウ 9時ころ エ 9時半ころ

オ 10時ころ カ 10時半ころ キ 11時ころ ク 11時すぎ

(6) あなたは、子ども部屋こどもへやを自分(または自分たち)でかたづけていますか。

ア いつもかたづけている イ ととききかたづけている ウ あまりかたづけない

エ ほとんどかたづけない オ 子ども部屋はない

(7) あなたは、ふだん、いえの手伝いてつだいをしていますか。

ア よく手伝う イ とときき手伝う ウ あまり手伝わない

エ ほとんど手伝わない

(8) あなたのふだん手伝うことは決まっていますか。

ア 決まっている イ 決っていない

(9) あなたは、いえで学校のことや友だちのことを話しますか。

ア よく話す イ とときき話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない

10 いえで学校や友だちのことを話す時は、おもに家族のだれに話しますか。一つだけ○をつけてください。

ア お父さんとお母さんに イ お父さんに ウ お母さんに エ きょうだいに

オ おじいさんやおばあさんに カ 家族のみんなに キ そのほかの人に

11 あなたがお父さんに学校や友だちのことを話そうとする時、お父さんはどのくらい聞いてくれますか。

ア よくきいてくれる イ とときききいてくれる ウ あまりきいてくれない

エ ほとんどきいてくれない オ お父さんはいない

12 あなたがお母さんに学校や友だちのことを話そうとする時、お母さんはどのくらい聞いてくれますか。

ア よくきいてくれる イ とときききいてくれる ウ あまりきいてくれない

エ ほとんどきいてくれない オ お母さんはいない

13 あなたは、なにか悩みや心配ごとができたとき、親に相談しようと思いませんか。

ア なんでも相談しようと思う イ 相談することもあると思う

ウ 相談しないと思う

4 おこづかいについて教えてください。

(1) あなたは、家族から毎月(毎週や毎日などもふくめて)おこづかいをもらっていますか。

ア 毎月もらっていない イ 毎月もらっている

(2) 毎月おこづかいをもらっている人は、ひと月でいくらもらっているか書いてください。

( ) 円

(3) 毎月おこづかいをもらっている人は、それをおもになにに使っていますか。二つまで○をつけてください。

ア 飲物や食べ物 イ マンガ ウ マンガ以外の雑誌 エ 物語りや小説

オ 学用品や参考書 カ 遊ぶもの キ ためておいたり貯金する

ク そのほか(あったら書いてください)

5 いえでの勉強(宿題やひとり勉強・家庭学習はふくめるが、読書はふくめない)について教えてください。

(1) あなたは、ふだんは、いえで全部でなん時間くらい勉強していますか。

ア ほとんどやらない イ 30分くらい ウ 1時間くらい エ 1時間半くらい

オ 2時間くらい カ 3時間くらい キ 3時間いじょう

(2) あなたは、先生からだされた宿題をわすれずにやっていますか。

ア かならずやっていく イ ととききやっていかない

ウ あまりやっていかない エ ぜんぜんやっていかない

(3) あなたは、宿題が多すぎると思いませんか。

ア 多すぎる イ ちょうどいい ウ 少なすぎる

- (4) あなたは、ひとり勉強や家庭学習（宿題はふくめない）を毎日やっていますか。  
 ア 毎日やっている イ だいたい毎日やっている ウ とときどきやっている  
 エ あまりやらない オ ぜんぜんやらない
- (5) あなたは、ひとり勉強や家庭学習をやるときは、だいたいどのくらいの時間やりますか。  
 ア ほとんどやらない イ 30分くらい ウ 1時間くらい エ 1時間半くらい  
 オ 2時間くらい カ 3時間くらい キ 3時間いじょう
- 6 あなたは、学習塾（ソロバン、習字、ピアノなどのならいごとはいれない）に通っていますか。  
 ア 通っている イ まえに通っていたことがあるが今は通っていない  
 ウ 通ったことはない
- 7 〈学習塾に通っている人・通ったことのある人だけ答えてください〉塾で勉強しているのはなですか、あてはまるもの全部に○をつけてください。  
 ア 算数 イ 英語（英会話） ウ そのほかの科目
- 8 〈ならいごとに通っている人だけ答えてください〉なにをならっていますか、あてはまるもの全部に○をつけてください。  
 ア ソロバン イ 習字 ウ ピアノ エ エレクトーン オ 水泳  
 カ そのほか（あつたら書いてください）
- 9 あなたは、「お父さんが口うるさく注意しすぎる」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない  
 オ お父さんはいない
- 10 あなたは、「お母さんが口うるさく注意しすぎる」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない  
 オ お母さんはいない
- 11 お父さんやお母さんにしかられたり注意されたりすることが多いのはどんなことですか、三つまで○をつけてください。  
 ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活たいのこと エ 友だちのこと  
 オ そのほか（あつたら書いてください）
- 12 あなたは、「いえにいたくない」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない
- 13 学校での生活などについて教えてください。  
 (1) あなたは、学校生活の中でなにが楽しいですか、あてはまるもの全部に○をつけてください。  
 ア 国語の授業 イ 算数の授業 ウ 理科の授業 エ 社会の授業

- オ 体育の授業 カ 音楽の授業 キ 園工の授業 ク 家庭科の授業  
 ケ 道徳の授業 コ 給食の時間 サ そうじ シ 児童会の活動  
 ス 友だちとのつきあい セ 学級金などクラスの話し合いの時間  
 ソ クラブ活動 タ お楽しみ会・レクなどの学級の活動の時間  
 チ 先生とのつきあい ツ 運動会やマラソン大会などのスポーツ行事  
 テ 道足・自然教室・修学旅行など ト 学習発表会や合唱コンクールなどの行事  
 ナ 教室や図書室での読書  
 ニ そのほか（あつたら書いてください）  
 ノ 学校で楽しいことはなにもない
- (2) あなたは、学校の授業であまりよくわからない科目がありますか、あてはまるもの全部に○をつけてください。  
 ア 国語 イ 算数 ウ 理科 エ 社会 オ 体育 カ 音楽  
 キ 園工 ク 家庭 ケ 道徳 コ わからない科目はない
- (3) あなたは、学校の授業でわからないことがあつたらどうしますか、あてはまるもの全部に○をつけてください。  
 ア 先生にきく イ 友だちにきく ウ いえの人にきく エ 塾の先生にきく  
 オ 自分でしらべる カ そのままにしておく キ わからないことはなかった
- (4) あなたにとって、「授業中」とはどういう時間ですか、あなたの気持ちに近いもの三つまでえらんで○をつけてください。  
 ア 友だちとまなびあう時間 イ 自分の知識がひろがっていく時間  
 ウ 自分の力をはっきする時間 エ 友だちがライバルになる時間  
 オ 先生にみとめてもらう時間 カ 高校にはいるために、勉強する時間  
 キ しずかにしていなくてはならない時間 ク とにかく、そこにいなくてはならない時間  
 ク むだにすぎでいく、たいくつな時間 コ どんどん進んで、おいていかれてしまう時間  
 サ わからないまま、だまっている時間 シ 先生が注意して見はっている時間  
 ス そのほか（あつたら書いてください）
- (5) あなたは、スポーツが得意ですか。  
 ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
 オ すごくにがてだ
- (6) あなたは、音楽とか絵が得意ですか。  
 ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
 オ すごくにがてだ

(7) あなたは、学校の勉強が得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
オ すごくにがてだ

(8) あなたは、「クラスで自分だけ仲間外れになっている」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(9) あなたは、「先生となんとなく話しくい気持ちがある」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(10) あなたは、「先生は自分を理解してくれていない」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(11) あなたは、「学校がこう変わったらいいい」と思うことがありますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア 授業がおもしろくなる イ 授業のなかがわかりやすくなる

ウ 授業時間がみじかくなる エ 授業のかずがすくなくなる

オ 休みの時間が多くなる カ 行事がふえる

キ テストがすくなくなる ク 学校の規則がすくなくなる

ク クラブ活動の時間が多くなる コ クラブ活動の時間がみじかくなる

サ 先生がもっと身近になる シ テストの成績だけで順位をつけたりしない

ス そのほか(あったら書いてください)

セ 変わってもらいたいと思うことはとくにない

(12) あなたは、学校の先生に、なにに力をいれてほしいと思いますか。一つだけえらんで○をつけてください。

ア 教科書に書いてあることをしっかり教える イ 社会のきまりをしっかりとまらせる

ウ 教科書に書いてあることよりも、じっさいの生活にやくにたつことを教える

エ 生徒との話しあいにもっと時間をとる オ クラブ活動をもっとさかんにする

カ どういう学校にいったらいいか、どういう職業についたらいいかの指導に力を入れる

キ その他(あったら書いてください)

ク とくにない

(13) あなたは、「学校に行きたくない」と思ったことがありますか。

ア いつも思う イ とときどき思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(14) (学校に行きたくないと思ったことのある人だけ答えてください) 行きたくないと思った理由はなんでしょうか。二つまで○をつけてください。

ア 授業がわからない イ 給食がいやだ ウ 学校行事がいやだ

エ 学校の規則がいやだ オ クラブ活動がいやだ カ 先生とうまくいかない

キ 友だちとうまくいかない ク 友だちにいじめられる ク などなく

コ そのほか(あったら書いてください)

(15) あなたは、休みの日(夏休み・冬休みなどはいれない)はおもにどうやってすごしていますか。三つまで○をつけてください。

ア 友だちとそとであそぶ イ 家族とでかける ウ 音楽をきく エ ねている

オ テレビ・ビデオをみる カ 勉強をする キ マンガや雑誌をみる

ク 本をよむ ク ファミコン・テレビゲームをする コ スポーツをする

サ まちりでかける シ などとなくすごしている

ス そのほか(あったら書いてください)

(16) 将来のことをどう考えているか教えてください。

(1) あなたは今のところ、どの学校まで通うつもりですか。

ア 中学まで イ 高校まで ウ 大学・短大まで エ まだ考えていない

(2) もし高校に行くとしたら、あなたは今のところ、どの高校に入りたいと思っていますか。一つだけ○をつけてください。

ア 沼沢高校 イ 水沢農業高校 ウ 水沢工業高校 エ 水沢商業高校

オ 水沢高校 カ 水沢第一高校 キ 金ヶ崎高校 ク 前沢高校

ケ 岩谷堂高校 コ 岩谷堂農林高校 サ 北上市の高校 シ 一関市の高校・高専

ス 盛岡市の高校 セ その他の高校 ソ まだ考えていない

タ 高校にはいかない

(3) あなたは将来、どんなかんじの仕事をしてみたいです。二つまで○をつけてください。

ア おもしろい仕事 イ できるだけ楽な仕事 ウ 世の中の役に立つ仕事

エ 自分の才能を生かせる仕事 オ たくさん給料をもらえる仕事

カ 人に使われないでやれる仕事 キ みんなから尊敬される仕事

ク お金がもうかる仕事 ク 体力を使う仕事 コ 頭を使う仕事

サ わからない

(4) あなたは大人になったとき、どこで生活したいと思いますか。

ア 沼沢町で イ 沼沢町の近くで ウ 岩手県内で

エ 岩手県外で オ わからない

(5) (いえて農業をやっている人だけ答えてください) あなたは将来、農業をつぎますか。

ア つくつもりだ イ つぎたくない ウ つがなくてもよい エ わからない

(6) あなたは早く大人になりたいと思いますか。

ア 早く大人になりたい イ いつまでも今くらいの子どものままでいたい

ウ できればもっと小さいころにほどりたい エ わからない

16 今のあなたの一番の悩み・心配ごとは何ですか、一つだけ○をつけてください。

- ア 授業についていけない      イ 友だちとうまくいかない  
 ウ 成績がよくない              エ 先生とうまくいかない  
 オ 進路がきまらない(どんな高校に進学したらよいか、どんな職業についたらよいかかわらない)  
 カ なにをやるにも、自信がでない      キ いじめられる  
 ク クラブ活動に熱中できない      コ 服装やおしゃれのことが気になる  
 コ 自分の顔やスタイルのことが気になる      サ 家庭がおもしろくない  
 シ 異性(男の子にとっては女の子、女の子にとっては男の子)のことが気になる  
 そのほか(あったら書いてください)

17 あなたは、自分をどんな子どもだと思えますか、ハコの中のあてはまるところに○をつけてください。

とても思う    まあ思う    あまり思わない    ぜんぜん思わない

|                |  |  |  |  |
|----------------|--|--|--|--|
| (1) テレビをよく見る…… |  |  |  |  |
| (2) マングをよく見る…… |  |  |  |  |
| (3) 本をよくよむ……   |  |  |  |  |
| (4) そとでよく遊ぶ……  |  |  |  |  |
| (5) 友だちとよく遊ぶ…… |  |  |  |  |
| (6) あかるい……     |  |  |  |  |
| (7) がんばりやだ……   |  |  |  |  |
| (8) かっぱつだ……    |  |  |  |  |
| (9) しあわせだ……    |  |  |  |  |

どうも ありがとうございます。

ちょうき  
調査のおねがい

これは、胆沢町の中学生のみなさんの毎日の生活やふだん考えていることを教えてもらうもので、テストではありません。結果はコンピューターで処理しますので、あなたの名前がでたりめいわくをかけたたりすることはありませんから、あなたの思ったとおりを答えてください。

答えかたの例

あなたは、マンガを見るのが好きですか。

ア とても好き    ① けっこう好き    ウ あまり好きでない    エ きらい

「けっこう好き」だったら、このように○をつけてください。

ほかに、ハコの中に○をつけてもらったり、書いてもらったりするところもあります。

それでは、はじめてください。

1 あなたの学年と性別を教えてください。 ( ) 年生 ( ア 男 イ 女 )

2 あなたの家族のことを教えてください。

(1) あなたは、おじいさんやおばあさんといっしょにすんでいますか。

ア はい    イ いいえ

(2) あなたには、きょうだいがありますか、あてはまるものを全部に○をつけてください。

ア いない    イ お兄さんがいる    ウ お姉さんがいる    エ 弟や妹がいる

(3) あなたのお父さんは、どんな仕事をしていますか、一つだけ○をつけてください。

ア 農業だけをやっている

イ 農業のほかに、お店や工場などの自営業(ひとに雇われないでやる仕事)もやっている

ウ 農業のほかに、よそに勤めている(ひとに雇われて仕事をしている)

エ お店や工場などの自営業をやっている

オ 会社・工場や役場・農協などに勤めている

カ 今は仕事をしていない    キ お父さんはいない

(4) あなたのお母さんは、どんな仕事をしていますか、一つだけ○をつけてください。

ア 農業だけをやっている    イ 農業のほかに、お店や工場などの自営業もやっている

- ウ 農業のほか、よそに勤めている エ お店や工場などの自営業をやっている  
 オ 会社・工場や役場・農協などに勤めている カ いえで内職うちわざをしている  
 キ 仕事をしていない(いえで家事かじをしている) ク お母さんはいない

3 いえでのあなたの生活について教えてください。

(1) あなたは、ふだんは朝なん時ころおきていますか。

- ア 6時まえ イ 6時ころ ウ 6時半ころ  
 エ 7時ころ オ 7時半ころ カ 7時半すぎ

(2) あなたは、朝ひとりでおきれますか。

- ア いつもひとりでおきる イ 時々おこしてもらう  
 ウ おこしてもらうことが多い エ いつもおこしてもらう

(3) あなたは、朝食を毎日食べていますか。

- ア 毎日食べている イ とくとき食べないことがある  
 ウ 食べないことが多い エ 毎日食べない

(4) あなたは、ふだんは、ばんごはんを親といっしょにたべていますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

- ア 大体いっしょに食べている イ お父さんがいないことが多い  
 ウ お母さんがいないことが多い エ 子どもだけで食べることが多い

(5) あなたは、ふだんは夜なん時ころねていますか。

- ア 8時半まえ イ 8時半ころ ウ 9時ころ エ 9時半ころ  
 オ 10時ころ カ 10時半ころ キ 11時ころ ク 11時すぎ

(6) (夜11時すぎにねる人だけ答えてください) 11時すぎにはおもに何をしていますか、一つだけ○をつけてください。

- ア テレビやビデオをみたり、ラジオや音楽をきいている イ マンガマンガや雑誌雑誌をみている  
 ウ 小説小説を読んでいる エ 勉強勉強 オ なんとなくおきている カ その他

(7) あなたは、子ども部屋を自分(または自分たち)でかたづけていますか。

- ア いつもかたづけている イ 時々かたづけている ウ あまりかたづけない  
 エ ほとんどかたづけない オ 子ども部屋はない

(8) あなたは、ふだん、いえの手伝いをしていますか。

- ア よく手伝う イ 時々手伝う ウ あまり手伝わない エ ほとんど手伝わない

(9) あなたのふだん手伝うことは決まっていますか。

- ア 決まっている イ 決っていない

(10) あなたは、いえで学校のことや友だちのことを話しますか。

- ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない

11 いえで学校や友だちのことを話す時は、おもに家族のだれに話しますか、一つだけ○をつけてください。

- ア お父さんとお母さんに イ お父さんに ウ お母さんに エ きょうだいに  
 オ おじいさんやおばあさんに カ 家族のみんなに キ その他の人に

12 あなたがお父さんに学校や友だちのことを話そうとする時、お父さんはどのくらいきいてくれますか。

- ア よくきいてくれる イ 時々きいてくれる ウ あまりきいてくれない  
 エ ほとんどきいてくれない オ お父さんはいない

13 あなたがお母さんに学校や友だちのことを話そうとする時、お母さんはどのくらいきいてくれますか。

- ア よくきいてくれる イ 時々きいてくれる ウ あまりきいてくれない  
 エ ほとんどきいてくれない オ お母さんはいない

14 あなたは、なにか悩みや心配しんぱいごとができたとき、親おやに相談さうだんしようと思いませんか。

- ア なんでも相談しようと思う イ 相談することもあると思う  
 ウ 相談しないと思う

4 こづかいについて教えてください。

(1) あなたは、家族から毎月(毎週や毎日などもふくめて)こづかいをもらっていますか。

- ア 毎月もらっていない イ 毎月もらっている

(2) 毎月おこづかいをもらっている人は、いくらもらっているか書いてください。

( ) 円

(3) 毎月こづかいをもらっている人は、それをおもに何に使っていますか、二つまで○をつけてください。

- ア 飲料や食べ物 イ マンガ ウ マンガ以外の雑誌 エ 小説  
 オ 学用品や参考書 カ 遊ぶもの キ ためておいたり貯金する

ク その他(あったら書いてください)

5 いえでの勉強べんきょう(宿題しゅくだいやひとり勉強べんきょう・家庭学習かていがくしゆはふくめるが、読書よみかきはふくめない)について教えてください。

(1) あなたは、ふだんは、いえで全部でなん時間くらい勉強べんきょうしていますか。

- ア ほとんどやらない イ 30分くらい ウ 1時間くらい エ 1時間半くらい  
 オ 2時間くらい カ 3時間くらい キ 3時間いじょう

(2) あなたは、先生からだされた宿題をわすれずにやっていますか。

- ア かならずやっていく イ 時々やっていく  
 ウ あまりやっていくかない エ ぜんぜんやっていくかない

- (3) あなたは、宿題が多すぎると思いませんか。  
 ア 多すぎる イ ちょうどよい ウ 少なすぎる
- (4) あなたは、ひとり勉強や家庭学習(宿題はふくめない)を毎日やっていますか。  
 ア 毎日やっている イ 大体毎日やっている。 ウ 時々やっている  
 エ あまりやらない オ ぜんぜんやらない
- (5) あなたは、ひとり勉強や家庭学習をやるときは、大体どのくらいの時間やりですか。  
 ア ほとんどやらない イ 30分くらい ウ 1時間くらい エ 1時間半くらい  
 オ 2時間くらい カ 3時間くらい キ 3時間いじょう
- 6 あなたは、学習塾(ソロバン、習字、ピアノなどのならいごとはいれない)に通っていますか。  
 ア 通っている イ まえに通っていたことがあるが今は通っていない  
 ウ 通ったことはない
- 7 <学習塾に通っている人・通ったことのある人だけ答えてください> 塾で勉強しているのはなにですか。あてはまるものを全部に○をつけてください。  
 ア 数学 イ 英語(英会話) ウ その他の科目
- 8 あなたは、これから先、学習塾に通いたいと思いませんか。今通っている人は、これから通いたいかで答えてください。  
 ア 通いたい イ できれば通いたい ウ あまり通いたくない エ 通いたくない
- 9 <ならいごとに通っている人だけ答えてください> 何をならっていますか。あてはまるものを全部に○をつけてください。  
 ア ソロバン イ 習字 ウ ピアノ エ エレクトーン オ 水泳  
 カ その他(あつたら書いてください)
- 10 あなたは、お父さん(お父さんがいない場合はお母さん)の仕事はどう感じていますか。あてはまるものを全部に○をつけてください。  
 ア 神経が疲れる仕事だ イ 競争が激しい仕事だ  
 ウ あまり報われない仕事だ エ 社会的に尊敬される仕事だ  
 オ 体力的に疲れる仕事だ カ 楽な仕事だ  
 キ お金のもうかる仕事だ ク 苦労の多い仕事だ  
 ク やりがいのある仕事だ コ 世の中の役にたつ仕事だ  
 サ 地味な仕事だ シ 新しい知識・技術を求められる仕事だ
- 11 あなたは、お父さん(お父さんがいない場合はお母さん)の仕事の内容についてどれくらい知っていますか。  
 ア よく知っている イ 大体知っている ウ あまり知らない

- エ ほとんど知らない
- 12 あなたは、「お父さんが口うるさく注意しすぎる」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない  
 オ お父さんはいない
- 13 あなたは、「お母さんが口うるさく注意しすぎる」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない  
 オ お母さんはいない
- 14 お父さんやお母さんにしかられたり注意されたりすることが多いのはどんなことですか。三つまで○をつけてください。  
 ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活態度のこと エ 友だちのこと  
 オ その他(あつたら書いてください)
- 15 あなたは、「親はあまり自分のことをわかってくれない」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない
- 16 あなたは、「親は自分に無理な期待を持ちすぎている」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない
- 17 あなたは、「いえにいたくない」と思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない
- 18 学校での生活などについて教えてください。  
 (1) あなたは、学校生活の中で何が楽しいですか。あてはまるものを全部に○をつけてください。  
 ア 国語の授業 イ 数学の授業 ウ 理科の授業 エ 社会の授業  
 オ 英語の授業 カ 体育の授業 キ 音楽の授業 ク 美術の授業  
 ケ 技術・家庭の授業 コ 道徳の授業 サ 給食の時間 シ 生徒会の活動  
 ス 友だちとのつきあい セ お楽しみ会・レクなどの学級の活動の時間 ソ そうじ  
 タ 学級会などクラスの話し合いの時間 テ 部活動 ツ 先生とのつきあい  
 テ 運動会やマラソン大会などのスポーツ行事 ト 遠足・自然教室・修学旅行など  
 ナ 文化祭や合唱コンクールなどの文化行事 ニ 教室や図書室での読書  
 ヌ その他(あつたら書いてください)  
 ネ 学校で楽しいことは何もない
- (2) あなたは、学校の授業であまりよくわからない科目がありますか。あてはまるものを全部に○をつけてください。  
 ア 国語 イ 数学 ウ 英語 エ 理科 オ 社会 カ 体育  
 キ 音楽 ク 美術 ケ 技術・家庭 コ 道徳 サ わからない科目はない

(3) あなたは、学校の授業でわからないことがあったらどうしますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア 先生にきく イ 友だちにきく ウ いえの人にきく エ 塾の先生にきく  
オ 自分でしらべる カ そのままにしておく キ わからないことはなかった

(4) あなたにとって、「授業中」とはどういう時間ですか、あなたの気持ちに近いもの三つまでえらんで○をつけてください。

ア 友だちと学びあう時間 イ 自分の知識がひろがっていく時間  
ウ 自分の力をはっきする時間 エ 友だちがライバルになる時間  
オ 先生にみとめてもらう時間 カ 高校にはいるために、勉強する時間  
キ しずかにしていなくてはならない時間 ク とにかく、そこにいなくてはならない時間  
ク むだにすぎでいく、たいくつな時間 コ どんどん迷んで、おいていかれてしまう時間  
サ わからないまま、だまっている時間 シ 先生が注意して見はっている時間  
ス そのほか(あったら書いてください)

(5) あなたは、スポーツが得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
オ すごくにがてだ

(6) あなたは、音楽とか絵が得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
オ すごくにがてだ

(7) あなたは、学校の勉強が得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ  
オ すごくにがてだ

(8) あなたは、部活動は何に入っていますか。入っている部の名前を書いてください。  
( )

(9) あなたは、部活動に積極的に参加していますか。

ア 積極的だ イ それほど積極的ではない ウ しかなしに参加している  
エ 実際には何もやっていない

(10) あなたは、「クラスで自分だけ仲間外れになっている」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(11) あなたは、「先生と何となく話にくい気持ちがある」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(12) あなたは、「先生は自分を理解してくれていない」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(13) あなたの学校での生活は、今、充実していますか。

ア とても充実している イ まあ、充実している ウ あまり充実していない  
エ ぜんぜん充実していない

(14) 学校生活を充実させるために、あなたがもっと力を入れたいと思っていることはなんですか、二つまで○をつけてください。

ア 学校行事(文化祭・体育祭など) イ 部活動 ウ 生徒会活動  
エ 友だちとのつきあい オ 授業や勉強  
カ 自分が今うちこめる目標をみつけること  
キ 将来の目的(仕事や生き方など)をみつけること ク 特になし  
ケ その他(あったら書いてください)

(15) あなたは、「学校がこう変わったらいい」と思うことがありますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア 授業がおもしろくなる イ 授業の内容がわかりやすくなる  
ウ 授業時間が短くなる エ 授業の数が少なくなる  
オ 休みの時間が多くなる カ 行事がふえる  
キ テストの回数がへる ク 学校の規則が少なくなる  
ク クラブ活動の時間が多くなる コ クラブ活動の時間が短くなる  
サ 先生がもっと身近になる シ テストの成績だけで順位をつけたりしない  
ス その他(あったら書いてください)  
セ 変わってほしいと思うことは特になし

(16) あなたは、学校の先生に、何に力をいれてほしいと思いますか、一つだけえらんで○をつけてください。

ア 教科書に書いてあることをしっかり教える イ 社会のままりをしっかり守らせる  
ウ 教科書に書いてあることよりも、じっさいの生活にやくにたつことを教える  
エ 生徒との話し合いにもっと時間をとる オ クラブ活動をもっとさかんにする  
カ どういう学校にいったらいいか、どういう職業にいったらいいかの指導に力を入れる  
キ その他(あったら書いてください)  
ク 特になし

(17) あなたは、「学校に行きたくない」と思ったことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

(18) 〈学校に行きたくないと思ったことのある人だけ答えてください〉行きたくないと思った理由はなんですか。二つまで○をつけてください。

ア 授業がわからない イ 給食がいやだ ウ 学校行事がいやだ

- エ 学校の規則がいやだ    オ 部活動がいやだ    カ 先生とうまくいかない  
 キ 友だちとうまくいかない    ク 友だちにいじめられる    コ なんとなく  
 コ その他 (あつたら書いてください)

19 あなたは、休みの日 (夏休み・冬休みなどはいれない) はおもにどうやってすごしていますか、三つまで○をつけてください。

- ア 友だちと外で遊ぶ    イ 家族とでかける    ウ 音楽をきく    エ ねている  
 オ テレビ・ビデオをみる    カ 勉強をする    キ マンガや雑誌をみる  
 ク 本をよむ    コ ファミコン・テレビゲームをする    コ スポーツをする  
 サ まちにてでかける    シ なんとなくすごしている  
 ス その他 (あつたら書いてください)

20 あなたは、「自分もやれば出来るんだ」と思えるような体験をしたことがありますか、  
 ア 強く思う体験をしたことがある  
 イ かなり思うような体験をしたことがある    ウ そういう体験はない

21 あなたは、次のことについてどう思いますか、ハコの中のはまるとところに○をつけてください。

|                             | そう思う | 思わない | わからない |
|-----------------------------|------|------|-------|
| (1) 自分はこれからもっと人間的に成長すると思う…… |      |      |       |
| (2) 自分にはまだ気づかない能力があるはずだ……   |      |      |       |
| (3) 自分にも何かいいところがあるはずだ……     |      |      |       |
| (4) 人間の性格は変えることができる……       |      |      |       |
| (5) 能力は生まれつきで努力してもムダだ……     |      |      |       |
| (6) 学校の成績だけが能力ではない……        |      |      |       |
| (7) どうせ先はみえていると思う……         |      |      |       |
| (8) 能力はつくりだすものだ……           |      |      |       |
| (9) 自分の能力の限界を感じる……          |      |      |       |

22 受験勉強についてのあなたの考えにあうものに、それぞれ一つづつ○をつけてください。

- (1) 「受験勉強は、半んだことをまとめるのによい機会だ。」  
 ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない  
 (2) 「受験勉強は、人間をきたえるよい機会だ。」  
 ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない  
 (3) 「受験勉強は、よい学校へいくためだけで本当の勉強とはいえない。」  
 ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない

23 将来のことをどう考えているか教えてください。

(1) あなたは、中学校卒業後の進路のことが気になりますか。  
 ア とても気になる    イ すこし気になる    ウ あまり気にならない

(2) 中学校卒業後の進路については、どんなことが気になりますが、あてはまるもの全部に○をつけてください。

- ア 進路のことで親と意見が合うかどうか    イ 進路のことで先生と意見が合うかどうか  
 ウ 高校に進学するかしないか    エ 自分の能力や性格がどんな高校・科にむいているか  
 オ 自分が希望する高校にはいれるかどうか  
 カ 自分の能力や性格が将来どんな職業にむいているか  
 キ 自分が希望する将来の職業にはどうしたらつけるのか  
 ク その他 (あつたら書いてください)

(3) あなたは今のところ、どの学校まで通うつもりですか。

- ア 中学まで    イ 中卒後、職業訓練校・各種学校・専修学校などで    ウ 高校まで  
 エ 高卒後、職業訓練校・各種学校・専修学校などで    オ 大学・短大・高専などで  
 カ まだ考えていない

(4) あなたは今のところ、どの高校に入りたいと思っていますか、一つだけ○をつけてください。

- ア 胆沢高校    イ 水沢農業高校    ウ 水沢工業高校    エ 水沢商業高校  
 オ 水沢高校    カ 水沢第一高校    キ 金ヶ崎高校    ク 前沢高校  
 ケ 岩谷堂高校    コ 岩谷堂農林高校    サ 北上市の高校    シ 一関市の高校・高専  
 ス 盛岡市の高校    セ その他の高校    ソ まだ考えていない  
 タ 高校にはいかない

(5) あなたは将来、どんなかんじの仕事をしてみたいですか、三つまで○をつけてください。

- ア おもしろい仕事    イ できるだけ楽な仕事    ウ 世の中の役に立つ仕事  
 エ 自分の才能を生かせる仕事    オ たくさん給料をもらえる仕事  
 カ 人に使われないでやれる仕事    キ みんなから尊敬される仕事  
 ク お金がもうかる仕事    コ 体力を使う仕事    コ 頭を使う仕事  
 サ わからない

(6) あなたは将来つきたい仕事を考えていますか。

- ア はっきり考えている    イ ばくぜんと考えている    ウ あまり考えていない  
 エ まったく考えていない

(7) あなたは大人になったとき、どこで生活したいと思えますか。

- ア 胆沢町で    イ 胆沢町の近くで    ウ 岩手県内で

エ 岩手県外で オ わからない

- (8) (い)えで農業をやっている人だけ答えてください) あなたは将来、農業をつぎますか、  
 ア つつもりだ イ つぎたくない ウ つがなくてもよい エ わからない
- (9) あなたは早く大人になりたいと思いますか。  
 ア 早く大人になりたい イ いつまでも今のくらいの子どもままでいたい  
 ウ できればもっと小さいころにもどりた い エ わからない
- 24 今のあなたの一番の悩み・心配ごとはなんですか、一つだけ○をつけてください。  
 ア 授業についていけない イ 友だちとうまくいかない  
 ウ 成績がよくない エ 先生とうまくいかない
- オ 進路がきまらない(どんな高校に進学したらよいか、どんな職業についたらよいかわからない)
- カ なにをやるにも、自信がでてこない キ いじめられる  
 ク 部活動に熱中できない ク 服装やおしゃれのことが気になる  
 コ 自分の顔やスタイルのことが気になる サ 家庭がおもしろくない  
 シ 異性(男の子にとっては女の子、女の子にとっては男の子)のことが気になる  
 ス その他(あったら書いてください)
- 25 あなたには、悩みや心配ごとをうちあけられる友だちがいますか。  
 ア いる イ いない
- 26 あなたは、自分をどんな子どもだと思えますか、ハコの中のあてはまるところに○をつけてください。

とても思う まあ思う あまり思わない ぜんぜん思わない

|                |  |  |  |  |
|----------------|--|--|--|--|
| (1) テレビをよく見る…… |  |  |  |  |
| (2) マンガをよく見る…… |  |  |  |  |
| (3) 本をよくよむ……   |  |  |  |  |
| (4) そとでよく遊ぶ……  |  |  |  |  |
| (5) 友だちとよく遊ぶ…… |  |  |  |  |
| (6) あかるい……     |  |  |  |  |
| (7) がんばりやだ……   |  |  |  |  |
| (8) かっぱつだ……    |  |  |  |  |
| (9) しあわせだ……    |  |  |  |  |

どうも ありがとうございます。

(小学5・6年生の両親用)

### 調査のおねがい

このアンケート調査は、胆沢町教育委員会が岩手大学教育学部の先生の協力をえて行っている「胆沢町教育課題調査」の一環をなすものです。「胆沢町教育課題調査」は、胆沢の子どもの生活・教育上の実態や課題をさぐり、今後の教育振興に資することを目的とするもので、10年前に一度行っており、今回が2回目になります。アンケート調査の全体は、胆沢町の小学5・6年生と中学生およびその御両親と、胆沢町出身高校生の全員を対象に実施しておりますので、お忙しいこととは存じますが、ご協力をお願い致します。

ご回答済みの調査票は、郵付の封筒に入れて密封して、お子さんを通じて学校の先生にお出しただければ、岩手大学教育学部にて開封し、ご回答いただきましたことはすべてコンピューターにより統計的に処理いたしますので、個人の名前がでたり、その他ご迷惑をおかけするようなことは一切ありません。立ち入ったことも質問しておりますが、普段お考えになっておられることをお教えくださいますよう、かざわてご協力をお願い致します(当てはまる記号に○をつけたり書き込んでください)。

なお、お子さんについての設問は、この調査票を持ってこられたお子さんについてお答えください。調査票は(家庭用)と(お父さん用)と(お母さん用)に分かれておりますのでご注意ください。また、小学5・6年生および中学生で複数のお子さんがいらっしゃる方は、恐縮ですがそれぞれに記入してお出しください。よろしく願い致します。

【家庭用】(お父さんかお母さんのどちらが答えてくださっても結構です)

- この調査票を持ってきたお子さんの学校名と学年・性別を教えてください。  
( ) 小学校 ( ) 年生 ( ア 男 イ 女 )
- お子さんは全部で何人いらっしゃいますか。 ( ) 人
- この調査票を持ってきたお子さんの続柄(長男・長女など)は何ですか。( )
- おじいさんやおばあさん(お子さんにとっての)と同居していますか。  
( ア 同居している イ 同居していない)
- あなたの家はつぎのどれに該当しますか。  
 ア 専業農家 イ 第1種兼業農家(農業が主) ウ 第2種兼業農家(農業が従)  
 エ 農業以外
- お子さんは、朝ひとり起きていますか。  
 ア いつもひとりで起きています イ 時々起こしてやる ウ 起こしてやることが多い

- エ いつも起こしてやる
- 7 お子さんは、子ども部屋を自分で片づけていますか。  
 ア いつも片づけている イ 時々片づけている ウ あまり片づけない  
 エ ほとんど片づけない オ 子ども部屋はない
- 8 (子ども部屋を手入している家庭だけお答えください) 子ども部屋にテレビが置いてありますか。  
 ア 置いてある イ 置いてない
- 9 お子さんは、家の手伝いをしますか。  
 ア よく手伝う イ 時々手伝う ウ あまり手伝わない エ ほとんど手伝わない
- 10 お子さんの普段手伝うことは決めていますか。  
 ア 決めてある イ 決めてない
- 11 (農家と自営業の家庭だけお答えください) お子さんに家業の手伝いをさせることがありますか。  
 ア よく手伝わせる イ 時々手伝わせる ウ あまり手伝わせない  
 エ ほとんど手伝わせない
- 12 お子さんは普段は家で何時間くらい勉強(宿題は含めるが読書は含めない)していますか。  
 ア ほとんどやらない イ 30分位 ウ 1時間位 エ 1時間半位  
 オ 2時間位 カ 3時間位 キ 3時間以上
- 13 お子さんを学習塾(いわゆるならいごとは含めない)に通わせていますか。  
 ア 通わせている イ 前に通わせたことがあるが今は通わせていない  
 ウ 通わせていない

次から(お父さん用)(2・3頁)と(お母さん用)(4・5頁)です。それぞれお答えください。  
 なお、いない場合は無記入のままです。

### 【お父さん用】

- 1 あなた自身のことについて教えてください。
- (1) あなたの年齢(10月1日現在)を教えてください。  
 ア 34才以下 イ 35~39才 ウ 40~44才 エ 45~49才 オ 50才以上
- (2) あなたが最後に卒業された学校を教えてください。  
 ア 中学校 イ 高校 ウ 高等・短大 エ 四年制大学 オ 大学院
- (3) (農家の方だけお答えください) あなたの就業状態は次のどれに当たりますか。  
 ア 農業だけ イ 農業が主、兼業が従 ウ 農業が従、兼業が主 エ 兼業だけ

オ 病気で今は働いていない

- (4) あなたの仕事は次のどれに当たりますか。農家で兼業をなさっている方は、兼業についてお答えください。  
 ア 農業専業 イ 建設業自営 ウ 製造業自営 エ 商業自営  
 オ サービス業自営 カ その他自営 キ 建設・土木作業員 ク 製造業作業員  
 ケ 会社事務職 コ 会社営業職 サ 会社技術職 シ 商店販売員  
 ス サービス業従業員 セ 医療従事者 ソ 教員 タ その他の公務員  
 チ 農協職員 ツ 失業中  
 テ その他(具体的に書いてください)
- (5) あなたの出身地はどこですか。  
 ア 足利町 イ 越前地区 ウ 岩手県内 エ 岩手県外
- 2 あなたは、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。  
 ア だいたい一緒だ イ 一緒のことが多い ウ あまり一緒でない  
 エ ほとんど一緒でない
- 3 あなたは、お子さんとのくらし話しますか。  
 ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない
- 4 あなたは、お子さんの家での勉強時間はどれくらいが望ましいと思いますか。  
 ア 30分位 イ 1時間位 ウ 2時間位 エ 3時間位 オ 3時間以上
- 5 あなたは、お子さんの宿題についてどのように考えていますか。  
 ア 宿題はない方がよい イ 宿題を少なくしてほしい ウ いま程度の宿題でよい  
 エ 宿題を多くしてほしい オ わからない
- 6 あなたは、お子さんを学習塾に通わせたいと思いますか(既に通わせている場合はこれから先も通わせたいかどうかで教えてください)。  
 ア ぜひ通わせたい イ 出来れば通わせたい ウ 通わせたいと思わない  
 エ わからない
- 7 (6でアとイに○をつけた方だけお答えください) 学習塾へ通わせたいと思う主な理由は何ですか。一つだけ○をつけてください。  
 ア 学校の授業についていけないから イ 学校の成績を良くするため  
 ウ 将来の進学準備のため エ 本人がいきたいというから  
 オ 家庭で勉強を見てやれないから  
 カ その他(具体的に書いてください)
- 8 あなたは、ご自分がお子さんに対してうるさく注意し過ぎていると思うことがありますか。  
 ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ほとんど思わない

- 9 あなたが、お子さんを叱ったり注意することが多いのはどんなことですか、二つまで○をつけてください。
- ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活態度のこと エ 友だちのこと  
オ その他（具体的に書いてください）
- 10 あなたは、次のことは主にどこで身につけるのが望ましいと思いますか、それぞれ当てはまるところに一つだけ○をつけてください。
- (1) 基礎的な体力……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(2) 豊かな情操……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(3) 基本的な生活習慣……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(4) やる気や頑張りがたく……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(5) 友だちとつきあう態度……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会
- 11 あなたは、現在の小学校のあり方についてどう思いますか、それぞれに当てはまるところに○をつけてください。
- (1) 授業の内容が難しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(2) 授業についていけない子が多い……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(3) 教科書中心になりすぎている……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(4) 学校行事が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(5) 先生が忙しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(6) 子どもに順位をつけて見すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(7) 学校の施設・設備が不十分……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(8) PTA活動が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(9) 子どもを競争にかりたてすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う  
(10) 「いじめ」がある……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特と思う
- 12 あなたは、学校の先生に、なにに力をいれてほしいと思いますか、二つだけえらんで○をつけてください。
- ア 教科書に書いてあることをしっかり教える  
イ 社会のきまりをしっかりとまらせる  
ウ 教科書に書いてあることよりも、実際の生活に役に立つことを教える  
エ 生徒との話しあいにもっと時間をとる  
オ クラブ活動をもっとさかんにする  
カ どういう学校にいったらいいか、どうい職業についたらいいかの指導に力をいれる  
キ その他（具体的に書いてください）  
ク 特がない
- 13 あなたは、全体として見た場合、現在の小学校のあり方に満足していますか。
- ア とても満足している イ まあ満足している ウ 少し不満がある  
エ かなり不満がある
- 14 あなたは、今のところ、お子さんにどこまで教育を受けさせたいとお考えですか。
- ア 中学まで イ 中卒後、職業訓練校・専修学校などまで ウ 普通高校まで  
エ 職業（農・工・商）高校まで オ 高卒後、職業訓練校・専修学校などまで  
カ 高等専門学校・短大などまで キ 四年制大学以上 ク まだ考えていない
- 15 あなたは、お子さんにどうい分野の職業についてほしいとお考えですか、一つだけ○をつけてください。
- ア 農業関係 イ 建設職人・作業員 ウ 製造業技能工 エ 事務関係  
オ 営業・販売関係 カ 技術者関係 キ 運輸・通信関係 ク サービス業関係  
ケ 専門職関係 コ 教育関係 サ 保安関係 シ その他の公務員  
ス その他（具体的に書いてください）
- 16 あなたは、お子さんが将来地元（旭江地区および周辺）で就業されることを望みますか。
- ア ぜひ、地元で就業してほしい  
イ 最初は他所でも構わないが、いずれは地元に戻ってほしい  
ウ 地元にはこだわらない エ まだ考えていない
- 17 （農家の方だけお答えください）お子さんが農業を継がれることを希望しますが。
- ア 農業専業でやってほしい イ 兼業でもよいから農業を継いでほしい  
ウ 農業は継がなくてもよい エ どちらでもよい オ まだ考えていない
- 18 お子さんの進路についてのあなたの期待や希望は、お子さんに伝わり理解されているとお思っていますか。
- ア よく理解されていると思う イ どちらかといえば理解されていると思う

ウ あまり理解されていないと思う エ まったく理解されていないと思う

オ わからない

19 あなたが今、お子さんのことで特に気になったり心配していることがありますか、次の中から当てはまるものに三つまで○をつけてください。

ア 健康・体力 イ 友だちとうまくいっていない ウ 親子関係

エ 進路・進学問題 オ 日常生活態度 カ 友だちがいない

キ 授業についていけない ク「いじめ」 ケ 学業成績 コ 先生との関係

サ 非行問題 シ 子どもの性格 ス 特にない

セ その他（具体的に書いてください）

どうも ありがとうございます。

【お母さん用】

1 あなた自身のことについて教えてください。

(1) あなたの年齢（10月1日現在）を教えてください。

ア 34才以下 イ 35～39才 ウ 40～44才 エ 45～49才 オ 50才以上

(2) あなたが最後に卒業された学校を教えてください。

ア 中学校 イ 高校 ウ 高专・短大 エ 四年制大学 オ 大学院

(3) あなたの普段の生活は次のどれに当たりますか。

（ア 仕事为主 イ 仕事に従・家事为主 ウ 家事のみ）

(4)（専業主婦の方だけお答えください）あなたの就業状態は次のどれに当たりますか。

ア 農業だけ イ 農業が主、兼業が従 ウ 農業が従、兼業が主 エ 兼業だけ  
オ 家事のみ

(5)（仕事をなさっている方だけお答えください）あなたの仕事は次のどれに当たりますか。

農家で兼業をなさっている方は、兼業について答えてください。

ア 農業専業 イ 建設業自営 ウ 製造業自営 エ 商業自営

オ サービス業自営 カ その他自営 キ 建設・土木作業員 ク 製造業作業員

ケ 会社事務職 コ 会社営業職 サ 会社技術職 シ 商店販売員

ス サービス業従業員 セ 医療従事者 ソ 教員・保育士 タ その他の公務員

チ 農協職員 ツ 失業中

テ その他（具体的に書いてください）

(6) あなたの出身地はどこですか。

（ア 足利町 イ 足利地区 ウ 岩手県内 エ 岩手県外）

2 あなたは、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。

ア だいたい一緒だ イ 一緒のことが多い ウ あまり一緒でない

エ ほとんど一緒でない

3 あなたは、お子さんとのくらしい話しますか。

ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない

4 あなたは、お子さんの家での勉強時間はどれくらいが望ましいと思いますか。

ア 30分位 イ 1時間位 ウ 2時間位 エ 3時間位 オ 3時間以上

5 あなたは、お子さんの宿題についてどのように考えていますか。

ア 宿題はない方がよい イ 宿題を少なくしてほしい ウ いま程度の宿題でよい

エ 宿題を多くしてほしい オ わからない

6 あなたは、お子さんを学習塾に通わせたいと思いますか（既に通わせている場合はこれから先も通わせたいかどうかで答えてください）。

ア ぜひ通わせたい イ 出来れば通わせたい ウ 通わせたいと思わない

エ わからない

7（6でアとイに○をつけた方だけお答えください）学習塾へ通わせたいと思う主な理由は何ですか。一つだけ○をつけてください。

ア 学校の授業についていけないから イ 学校の成績を良くするため

ウ 将来の進学の準備のため エ 本人がいききたいというから

オ 家で勉強を見てやれないから

カ その他（具体的に書いてください）

8 あなたは、ご自分がお子さんに対して口うるさく注意し過ぎていると思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ほとんど思わない

9 あなたが、お子さんを叱ったり注意することが多いのはどんなことですか。二つまで○をつけてください。

ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活態度のこと エ 友だちのこと

オ その他（具体的に書いてください）

10 あなたは、次のことは主にどこで身につけるのが望ましいと思いますか、それぞれ当てはまるところに一つだけ○をつけてください。

(1) 基礎的な体力…………… ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会

(2) 豊かな情操…………… ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会

(3) 基本的な生活習慣…………… ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会

- 4) やる気や頑張りが続くか…… ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
 5) 友だちとつきあう態度…… ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会

11 あなたは、現在の小学校のあり方についてどう思いますか、それぞれ当てはまるところを○をつけてください。

- 1) 授業の内容が難しすぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 2) 授業についていけない子が多い……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 3) 教科書中心になりすぎている……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 4) 学校行事が多すぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 5) 先生が忙しすぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 6) 子どもに順位をつけて見すぎる……ア 全然思わない、 イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 7) 学校の施設・設備が不十分……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 8) PTA活動が多すぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 9) 子どもを競争にかりたてすぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う  
 10) 「いじめ」がある……ア 全然思わない イ あまり思わない  
 ウ まあ思う エ 特に思う

12 あなたは、学校の先生に、なにに力をいれてほしいと思いますか、一つだけえらんで○をつけてください。

- ア 教科書に書いてあることをしっかり教える イ 社会のきまりをしっかりまもらせる  
 ウ 教科書に書いてあることよりも、実際の生活に役に立つことを教える  
 エ 生徒との話しあいにもっと時間をとる オ クラブ活動をもっとさかんにする  
 カ どういう学校にいったらいいか、どうい職業についたらいいかの指導に力をいれる  
 キ その他（具体的に書いてください）  
 ク 特にない

- 13 あなたは、全体として見た場合、現在の小学校のあり方に満足していますか。  
 ア とても満足している イ まあ満足している ウ 少し不満がある  
 エ かなり不満がある

- 14 あなたは、今のところ、お子さんにどこまで教育を受けさせたいとお考えですか。  
 ア 中学まで イ 中卒後、職業訓練校・専修学校などまで ウ 普通高校まで  
 エ 職業（農・工・商）高校まで オ 高卒後、職業訓練校・専修学校などまで  
 カ 高等専門学校・短大などまで キ 四年制大学以上 ク まだ考えていない

15 あなたは、お子さんにどのような分野の職業についてほしいとお考えですか、一つだけ○をつけてください。

- ア 農業関係 イ 建設職人・作業員 ウ 製造業技能工 エ 事務関係  
 オ 営業・販売関係 カ 技術者関係 キ 運輸・通信関係 ク サービス業関係  
 ケ 専門職関係 コ 教育関係 サ 保安関係 シ その他の公務員  
 ス その他（具体的に書いてください）

16 あなたは、お子さんが将来地元（胆江地区および周辺）で就業されることを望みますか。

- ア ぜひ、地元で就業してほしい  
 イ 最初は他所でも構わないが、いずれは地元に戻ってほしい  
 ウ 地元にはこだわらない エ まだ考えていない

17（農家の方だけお答えください）お子さんが農業を継がれることを希望しますか。

- ア 農業専業でやってほしい イ 兼業でもよいから農業を継いでほしい  
 ウ 農業は継がなくてもよい エ どちらでもよい オ まだ考えていない

18 お子さんの進路についてのあなたの期待や希望は、お子さんに伝わり理解されているとお思っていますか。

- ア よく理解されていると思う イ どちらかといえば理解されていると思う  
 ウ あまり理解されていないと思う エ まったく理解されていないと思う  
 オ わからない

19 あなたが今、お子さんのことで特に気になったり心配していることがありますか。次の中から当てはまるものに三つまで○をつけてください。

- ア 健康・体力 イ 友だちとうまくいってない ウ 親子関係  
 エ 進路・進学問題 オ 日常生活態度 カ 友だちがいない  
 キ 授業についていけない ク 「いじめ」 ケ 学業成績 コ 先生との関係  
 サ 非行問題 シ 子どもの性格 ス 特にない  
 セ その他（具体的に書いてください）

どうもありがとうございました。

(中学生の両親用)

### 調査のおねがい

このアンケート調査は、胆沢町教育委員会が岩手大学教育学部の先生の協力をえて行っている「胆沢町教育課題調査」の一環をなすものです。「胆沢町教育課題調査」は、胆沢の子どものための生活・教育上の実態や課題をさぐり、今後の教育振興に資することを目的とするもので、10年前に一度行っており、今回が2回目になります。アンケート調査の全体は、胆沢町の小学5・6年生と中学生およびその御両親と、胆沢町出身高校生の全員を対象に実施しておりますので、お忙しいことは存じますが、ご協力をお願い致します。

ご回答済みの調査票は、添付の封筒に入れて密封して、お子さんを通じて学校の先生にお出しただければ、岩手大学教育学部にて開封し、ご回答いただきましたことはすべてコンピューターにより統計的に処理いたしますので、個人の名前がたり、その他迷惑をおかけするようなことは一切ありません。立ち入ったことも質問しておりますが、普段お考えになっておられることをお教えくださいますよう、かさねてご協力をお願い致します(当てはまる記号に○をついたり書き込んでください)。

なお、お子さんについての設問は、この調査票を持ってこられたお子さんについてお答えください。調査票は【家庭用】と【お父さん用】と【お母さん用】に分かれておりますのでご注意ください。また、小学5・6年生および中学生で複数のお子さんがいらっしゃる方は、恐縮ですがそれぞれに記入してお出しく下さい。よろしくお願い致します。

【家庭用】(お父さんかお母さんのどちらが答えてくださっても結構です。)

- この調査票を持ってきたお子さんの学校名と学年・性別を教えてください。  
( ) 中学校 ( ) 年生 (ア 男 イ 女)
- お子さんは全部で何人いらっしゃいますか。 ( ) 人
- この調査票を持ってきたお子さんの続柄(長男・長女など)は何ですか。( )
- おじいさんやおばあさん(お子さんにとっての)と同居していますか。(ア 同居している イ 同居していない)
- あなたの家はつぎのどれに該当しますか。  
ア 専業農家 イ 第1種兼業農家(農業が主) ウ 第2種兼業農家(農業が従)  
エ 農家以外
- お子さんは、朝ひとりで起きていますか。  
ア いつもひとりで起きている イ 時々起こしてやる ウ 起こしてやることが多い

エ いつも起こしてやる

- お子さんは、子ども部屋を自分で片づけていますか。  
ア いつも片づけている イ 時々片づけている ウ あまり片づけない  
エ ほとんど片づけない オ 子ども部屋はない
- (子ども部屋を与えている家庭だけお答えください) 子ども部屋にテレビが置いてありますか。  
ア 置いてある イ 置いてない
- お子さんは、家の手伝いをしますか。  
ア よく手伝う イ 時々手伝う ウ あまり手伝わない エ ほとんど手伝わない
- お子さんの普段手伝うことは決めていますか。  
ア 決めてある イ 決めてない
- (農家と自営業の家庭だけお答えください) お子さんに家業の手伝いをさせることがありますか。  
ア よく手伝わせる イ 時々手伝わせる ウ あまり手伝わせない  
エ ほとんど手伝わせない
- お子さんは普段は家で何時間くらい勉強(宿題は含めるが読書は含めない)していますか。  
ア ほとんどやらない イ 30分位 ウ 1時間位 エ 1時間半位  
オ 2時間位 カ 3時間位 キ 3時間以上
- お子さんを学習塾(いわゆる「ならいごと」は含めない)に通わせていますか。  
ア 通わせている イ 前に通わせたことがあるが今は通わせていない  
ウ 通わせていない

次から【お父さん用】(2・3頁)と【お母さん用】(4・5頁)です。それぞれお答えください。なお、いない場合は無記入のまま結構です。

【お父さん用】

- あなた自身のことについて教えてください。  
(1) あなたの年齢(10月1日現在)を教えてください。  
ア 34才以下 イ 35~39才 ウ 40~44才 エ 45~49才 オ 50才以上  
(2) あなたが最後に卒業された学校を教えてください。  
ア 中学校 イ 高校 ウ 高等・短大 エ 四年制大学 オ 大学院  
(3) (農家の方だけお答えください) あなたの就業状態は次のどれに当たりますか。

- ア 農業だけ イ 農業が主、兼業が従 ウ 農業が従、兼業が主  
エ 兼業だけ オ 病氣等で今は働いていない
- 4) あなたの仕事は次のどれに当たりますか、農家で兼業をなさっている方は、兼業について 答えてください。
- ア 農業専業 イ 建設業自営 ウ 製造業自営 エ 商業自営  
オ サービス業自営 カ その他自営 キ 建設・土木作業員 ク 製造業作業員  
ケ 会社事務職 コ 会社営業職 サ 会社技術職 シ 商店販売員  
ス サービス従業員 セ 医療従事者 ソ 教員 タ その他の公務員  
チ 農協職員 ツ 失業中  
テ その他（具体的に書いてください）
- 5) あなたの出身地はどこですか。  
（ア 旭沢町 イ 旭江地区 ウ 岩手県内 エ 岩手県外）
- 2) あなたは、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。  
ア だいたい一緒だ イ 一緒のことが多い ウ あまり一緒でない  
エ ほとんど一緒でない
- 3) あなたは、お子さんとのくらしい話しますか。  
ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない
- 4) あなたは、お子さんの家での勉強時間はどれくらいが望ましいと思いますか。  
ア 30分位 イ 1時間位 ウ 2時間位 エ 3時間位 オ 3時間以上
- 5) あなたは、お子さんの宿題についてどのように考えていますか。  
ア 宿題はない方がよい イ 宿題を少なくしてほしい ウ いま程度の宿題でよい  
エ 宿題を多くしてほしい オ わからない
- 6) あなたは、お子さんを学習塾に通わせたいと思いますか（既に通わせている場合はこれらも先も通わせたいかどうかで答えてください）。  
ア ぜひ通わせたい イ 出来れば通わせたい ウ 通わせたいと思わない  
エ わからない
- 7) (6でアとイに○をつけた方だけお答えください) 学習塾へ通わせたいと思う主な理由は何ですか、一つだけ○をつけてください。  
ア 学校の授業についていけないから イ 学校の成績を良くするため  
ウ 将来の進学の手帳のため エ 本人がいきたいというから  
オ 家庭で勉強を見てやれないから  
カ その他（具体的に書いてください）
- 8) あなたは、ご自分がお子さんに対してうるさく注意し過ぎていると思うことがありますか、

- ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ほとんど思わない
- 9) あなたが、お子さんを叱ったり注意することが多いのはどんなことですか、二つまで○をつけてください。  
ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活態度のこと エ 友だちのこと  
オ その他（具体的に書いてください）
- 10) あなたは、次のことは主にどこで身につけるのが望ましいと思いますか、それぞれ当てはまるところに一つだけ○をつけてください。
- (1) 基礎的な体力……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(2) 豊かな情操……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(3) 基本的な生活習慣……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(4) やる気や頑張り抜く力……ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(5) 友だちとつきあう態度……ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会
- 11) あなたは、現在の中学校のあり方についてどう思いますか、それぞれに当てはまるところに○をつけてください。
- (1) 授業の内容が難しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(2) 授業についていけない子が多い……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(3) 教科書中心になりすぎている……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(4) 学校行事が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(5) 先生が忙しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(6) 子どもに順位をつけて見すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(7) 学校の施設・設備が不十分……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(8) PTA活動が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(9) 子どもを競争にかりたてすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
10) 「いじめ」がある……………ア 全然思わない イ あまり思わない

- ウ まあ思う エ 特に思う
- 10 学校の規則が厳しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない
- ウ まあ思う エ 特に思う
- 12 部活動の時間が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない
- ウ まあ思う エ 特に思う
- 14 道路指導が不十分だ……………ア 全然思わない イ あまり思わない
- ウ まあ思う エ 特に思う
- 12 あなたは、学校の先生に、なにに力をいれてほしいと思いますか、一つだけえらんで○をつけてください。
- ア 教科書に書いてあることをしっかり教える イ 社会のきまりをしっかりとまらせる
- ウ 教科書に書いてあることよりも、実際の生活に役に立つことを教える
- エ 生徒との話しあいにもっと時間をとる オ クラブ活動をもっとさかんにする
- カ どういう学校にいったらいいか、どうい職業についたらいいかの指導に力をいれる
- キ その他（具体的に書いてください）
- ク 特にない
- 13 あなたは、全体として見た場合、現在の中学校のあり方に満足していますか。
- ア とても満足している イ まあ満足している ウ 少し不満がある
- エ かなり不満がある
- 14 受験勉強についてのあなたの考えにあうものに、それぞれ一つづつ○をつけてください。
- (1) 「受験勉強は、学んだことをまとめるのよい機会だ。」
- ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- (2) 「受験勉強は、人間をきたえるよい機会だ。」
- ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- (3) 「受験勉強は、よい学校へいくためだけで本当の勉強とはいえない。」
- ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- 15 あなたは、今のところ、お子さんにどこまで教育を受けさせたいとお考えですか。
- ア 中学まで イ 中卒後、職業訓練校・専修学校などまで ウ 普通高校まで
- エ 職業（農・工・商）高校まで オ 高卒後、職業訓練校・専修学校などまで
- カ 高等専門学校・短大などまで キ 四年制大学以上 ク まだ考えていない
- 16 あなたは、お子さんにどうい分野の職業についてほしいとお考えですか、一つだけ○をつけてください。
- ア 農業関係 イ 建設職人・作業員 ウ 製造業技能工 エ 事務関係
- オ 営業・販売関係 カ 技術者関係 キ 運輸・通信関係 ク サービス業関係

- ケ 専門職関係 コ 教育関係 サ 保安関係 シ その他の公務員
- ス その他（具体的に書いてください）
- 17 あなたは、お子さんが将来地元（湘江地区および周辺）で就業されることを望みますか。
- ア ぜひ、地元で就業してほしい
- イ 最初は他所でも構わないが、いずれは地元に戻ってほしい
- ウ 地元にはこだわらない エ まだ考えていない
- 18 （農家の方だけお答えください）お子さんが農業を継がれることを希望しますか。
- ア 農業専業でやってほしい イ 兼業でもよいから農業を継いでほしい
- ウ 農業は継がなくてもよい エ どちらでもよい オ まだ考えていない
- 19 お子さんの道路についてのあなたの期待や希望は、お子さんに伝わり理解されているとお思いますか。
- ア よく理解されていると思う イ どちらかといえば理解されていると思う
- ウ あまり理解されていないと思う エ まったく理解されていないと思う
- オ わからない
- 20 あなたが今、お子さんのことで特に気になったり心配していることがありますか。次の中から当てはまるものに三つまで○をつけてください。
- ア 健康・体力 イ 友だちとうまくいってない ウ 親子関係
- エ 道路・進学問題 オ 日常生活態度 カ 友だちがいない
- キ 授業についていけない ク 「いじめ」 ケ 学業成績 コ 先生との関係
- サ 非行問題 シ 子どもの性格 ス 特にない
- セ その他（具体的に書いてください）

どうも ありがとうございます。

〔お母さん用〕

- 1 あなた自身のことについて教えてください。
- (1) あなたの年齢（10月1日現在）を教えてください。
- ア 34才以下 イ 35～39才 ウ 40～44才 エ 45～49才 オ 50才以上
- (2) あなたが最後に卒業された学校を教えてください。
- ア 中学校 イ 高校 ウ 高専・短大 エ 四年制大学 オ 大学院

(3) あなたの普段の状態は次のどれに当たりますか。

( ア 仕事为主 イ 仕事に従・家事が主 ウ 家事のみ )

(4) (農家の方だけお答えください) あなたの就業状態は次のどれに当たりますか。

ア 農業だけ イ 農業が主、兼業が従 ウ 農業が従、兼業が主 エ 兼業だけ  
オ 家事のみ

(5) (仕事をなさっている方だけお答えください) あなたの仕事は次のどれに当たりますか。

農家で兼業をなさっている方は、兼業について答えてください。

ア 農業専業 イ 建設業自営 ウ 製造業自営 エ 商業自営  
オ サービス業自営 カ その他自営 キ建設・土木作業員 ク 製造業作業員  
ケ 会社事務職 コ 会社営業職 サ 会社技術職 シ 商店販売員  
ス サービス業従業員 セ 医療従事者 ソ 教員・保母 タ その他の公務員  
チ 農協職員 ツ 失業中  
テ その他 (具体的に書いてください)

(6) あなたの出身地はどこですか。

( ア 足利町 イ 越前地区 ウ 岩手県内 エ 岩手県外 )

2 あなたは、お子さんと一緒に夕食を食べていますか。

ア だいたい一緒だ イ 一緒のことが多い ウ あまり一緒でない  
エ ほとんど一緒でない

3 あなたは、お子さんとどのくらい話しますか。

ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない エ ほとんど話さない

4 あなたは、お子さんの家での勉強時間はどれくらいが望ましいと思いますか。

ア 30分位 イ 1時間位 ウ 2時間位 エ 3時間位 オ 3時間以上

5 あなたは、お子さんの宿題についてどのように考えていますか。

ア 宿題はない方がよい イ 宿題を少なくしてほしい ウ いま程度の宿題でよい  
エ 宿題を多くしてほしい オ わからない

6 あなたは、お子さんを学習塾に通わせたいと思いますか (既に通わせている場合はこれから先も通わせたいかどうかで答えてください)。

ア ぜひ通わせたい イ 出来れば通わせたい ウ 通わせたいと思わない  
エ わからない

7 (6でアとイに○をつけた方だけお答えください) 学習塾へ通わせたいと思う主な理由は何ですか。一つだけ○をつけてください。

ア 学校の授業についていけないから イ 学校の成績を良くするため  
ウ 将来の進学の準備のため エ 本人がいききたいというから

オ 家庭で勉強を見てやれないから

カ その他 (具体的に書いてください)

8 あなたは、ご自分がお子さんに対して口うるさく注意し過ぎていると思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ほとんど思わない

9 あなたが、お子さんを叱ったり注意することが多いのはどんなことですか。一つまで○をつけてください。

ア 勉強のこと イ 遊びのこと ウ 生活態度のこと エ 友だちのこと

オ その他 (具体的に書いてください)

10 あなたは、次のことは主にどこで身につけるのが望ましいと思いますか。それぞれ当てはまるところに一つだけ○をつけてください。

- (1) 基礎的な体力……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(2) 豊かな情操……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(3) 基本的な生活習慣……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(4) やる気や頑張り放く力……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会  
(5) 友だちとつきあう態度……………ア 学校 イ 家庭 ウ 地域社会

11 あなたは、現在の小学校のあり方についてどう思いますか。それぞれ当てはまるところに○をつけてください。

- (1) 授業の内容が難しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(2) 授業についていけない子が多い……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(3) 教科書中心になりすぎている……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(4) 学校行事が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(5) 先生が忙しすぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(6) 子どもに順位をつけて見すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(7) 学校の施設・設備が不十分……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う  
(8) PTA活動が多すぎる……………ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う

- 9) 子どもを競争にかりたてすぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う
- 10) 「いじめ」がある……ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う
- 11) 学校の規則が厳しすぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う
- 12) 部活動の時間が多すぎる……ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う
- 13) 道徳指導が不十分だ……ア 全然思わない イ あまり思わない  
ウ まあ思う エ 特に思う
- 12) あなたは、学校の先生に、なにに力をいれてほしいと思いますか、一つだけえらんで○をつけてください。
- ア 教科書に書いてあることをしっかり教える イ 社会のきまりをしっかりとまもらせる  
ウ 教科書に書いてあることよりも、実際の生活に役に立つことを教える  
エ 生徒との話しあいにもっと時間をとる オ クラブ活動をもっとさかんにする  
カ どういう学校にいったらいいか、どういう職業についたらいいかの指導に力をいれる  
キ その他（具体的に書いてください）  
ク 特にない
- 13) あなたは、全体として見た場合、現在の中学校のあり方に満足していますか。  
ア とても満足している イ まあ満足している ウ 少し不満がある  
エ かなり不満がある
- 14) 受験勉強についてのあなたの考えにあうものに、それぞれ一つづつ○をつけてください。
- (1) 「受験勉強は、学んだことをまとめるのによい機会だ。」  
ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- (2) 「受験勉強は、人間をきたえるよい機会だ。」  
ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- (3) 「受験勉強は、よい学校へいくためだけに本当の勉強とはいえない。」  
ア そう思う イ そうは思わない ウ 何ともいえない
- 15) あなたは、今のところ、お子さんにどこまで教育を受けさせたいとお考えですか。  
ア 中学まで イ 中卒後、職業訓練校・専修学校などまで ウ 普通高校まで  
エ 職業（農・工・商）高校まで オ 高卒後、職業訓練校・専修学校などまで  
カ 高等専門学校・短大などまで キ 四年制大学以上 ク まだ考えていない

- 16) あなたは、お子さんにどういふ分野の職業についてほしいとお考えですか、一つだけ○をつけてください。
- ア 農業関係 イ 建設職人・作業員 ウ 製造業技能工 エ 事務関係  
オ 営業・販売関係 カ 技術者関係 キ 運輸・通信関係 ク サービス業関係  
ケ 専門職関係 コ 教育関係 サ 保安関係 シ その他の公務員  
ス その他（具体的に書いてください）
- 17) あなたは、お子さんが将来地元（釧路地区および周辺）で就業されることを望みますか。  
ア ぜひ、地元で就業してほしい  
イ 最初は他所でも構わないが、いずれは地元に戻ってほしい  
ウ 地元にはこだわらない エ まだ考えていない
- 18) （農家の方だけお答えください）お子さんが農業を継がれることを希望しますか。  
ア 農業専業でやってほしい イ 兼業でもよいから農業を継いでほしい  
ウ 農業は継がなくてもよい エ どちらでもよい オ まだ考えていない
- 19) お子さんの進路についてのあなたの期待や希望は、お子さんに伝わり理解されているとお思われますか。  
ア よく理解されていると思う イ どちらかといえば理解されていると思う  
ウ あまり理解されていないと思う エ まったく理解されていないと思う  
オ わからない
- 20) あなたが今、お子さんのことで特に気になったり心配していることがありますか、次の中から当てはまるものに三つまで○をつけてください。
- ア 健康・体力 イ 友だちとうまくいってない ウ 親子関係  
エ 進路・進学問題 オ 日常生活態度 カ 友だちがいい  
キ 授業についていけない ク 「いじめ」 ケ 学業成績 コ 先生との関係  
サ 非行問題 シ 子どもの性格 ス 特にない  
セ その他（具体的に書いてください）

どうも ありがとうございます。

胆沢町出身高校生アンケート調査票

1 最初に、あなたとあなたの家族のことを教えてください。

(1) あなたが通っている高校名・科名と学年・性別を教えてください。

( ) 高校 ( ) 科 ( ) 年 ( ア 男 イ 女 )

(2) あなたには、きょうだい何人いますか、また、あなたの続柄(長男・長女など)は何ですか。

きょうだいの数 ( ) 人 続柄 ( )

(3) あなたのお父さんは、どんな仕事をしていますか、一つだけ○をつけてください。

ア 農業だけ イ 農業の他に自営業をやっている ウ 農業の他によそに勤めている

エ 自営業をやっている オ 会社や工場などに勤めている

カ 今は仕事をしていない キ お父さんはいない

(4) あなたのお母さんは、どんな仕事をしていますか、一つだけ○をつけてください。

ア 農業だけ イ 農業の他に、自営業をやっている

ウ 農業の他に、よそに勤めている エ 自営業をやっている

オ 会社や工場などに勤めている カ いえで内職をしている

キ 仕事はしていない(いえで家事をしている) ク お母さんはいない

2 あなたは、お父さん(お父さんがいない場合はお母さん)の仕事はどう感じていますか、あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア 神経が疲れる仕事だ イ 競争の激しい仕事だ ウ あまり頼りない仕事だ

エ 苦労の多い仕事だ オ 体力的に疲れる仕事だ

カ 世の中の役にたつ仕事だ キ 金のもうかる仕事だ ク やりがいのある仕事だ

ケ 社会的に尊敬される仕事だ コ 新しい知識・技術が求められる仕事だ

サ 楽な仕事だ シ 地味な仕事だ

3 あなたは、お父さん(お父さんがいない場合はお母さん)の仕事の内容についてどれくらい知っていますか。

ア よく知っている イ 大体知っている ウ あまり知らない

エ ほとんど知らない

4 あなたは、「顔はあまり自分のことをわかってくれない」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

5 あなたは、「顔は自分に無理な期待を押しすぎている」と思うことがありますか。

ア いつも思う イ 時々思う ウ あまり思わない エ ぜんぜん思わない

6 今通っている高校はあなたの第一希望の高校ですか。(ア はい イ いいえ)

7 あなたは、学校生活の中でなにが楽しいですか、あてはまるもの全部に○をつけてください。

ア 国語の授業 イ 数学の授業 ウ 理科の授業 エ 社会の授業

オ 英語の授業 カ 体育の授業 キ 音楽の授業 ク 美術の授業

ケ 家庭科の授業 コ 専門科目の授業 サ 実習の時間 シ 部活動

ス そうじ セ 友だちとのつきあい

ソ レクやクラスの話し合いなどのクラス活動 タ 生徒会の活動

チ 先生とのつきあい ツ 体育祭やマラソン大会などのスポーツ行事

テ 遠足・修学旅行など ト 文化祭や合唱コンクールなどの行事

ナ 教室や図書室での読書

ニ そのほか(あつたら書いてください)

ヌ 学校で楽しいことはなにもない

8 あなたにとって、「授業中」とはどういう時間ですか、あなたの気持ちに近いものを三つまでえらんで○をつけてください。

ア 友だちと学びあう時間 イ 自分の知識がひろがっていく時間

ウ 自分の力をはっきする時間 エ 友だちがライバルになる時間

オ 先生に認めてもらう時間 カ 就職や進学のために勉強する時間

キ 静かにしていかなくてはならない時間 ク とにかく、そこにいなくてはならない時間

ケ むだにすぎでいく、たいくつな時間

コ どんどん進んで、おいていかれてしまう時間

サ わからないまま、だまっている時間 シ 先生が注意して見はっている時間

ス その他(あつたら書いてください)

9 あなたは、スポーツが得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ

オ すごくにがてだ

10 あなたは、音楽とか絵が得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ

オ すごくにがてだ

11 あなたは、学校の勉強が得意ですか。

ア とても得意だ イ すこし得意だ ウ ふつうだ エ すこしにがてだ

オ すごくにがてだ

12 あなたの学校での生活は、今、充実していますか。

ア とても充実している イ まあ、充実している ウ あまり充実していない

- エ ぜんぜん充実していない
- 13 あなたの学校生活の中で、充実(満足)していると思えるのは次のどれですか、あてはまるものに一つだけ○をつけてください。
- ア 授業で勉強しているとき    イ 実習をしているとき  
ウ ひとりで自習しているとき    エ 友だちと話し合っているとき  
オ 部活動をしているとき  
カ 学校行事(文化祭・体育祭・合唱コンクール・修学旅行など)のとき  
キ 特になし
- 14 学校生活を充実させるために、あなたがもっと力を入れたいと思っていることはなんですか、二つまで○をつけてください。
- ア 学校行事(文化祭・体育祭など)    イ 部活動    ウ 生徒会活動  
エ 友だちとのつきあい    オ 授業や勉強    カ 実習  
キ 自分が今うちこめる目標をみつけること  
ク 将来の目的(仕事や生き方など)をみつけること    ケ 特になし  
コ その他(あつたら書いてください)
- 15 あなたは、「学校がこう変わったらいい」と思うことがありますか、あてはまるもの全部に○をつけてください。
- ア 授業がおもしろくなる    イ 授業の内容がわかりやすくなる  
ウ 授業時間が短くなる    エ 授業の数が少なくなる  
オ 休みの時間が多くなる    カ 部活動の時間が多くなる  
キ 部活動の時間が短くなる    ク 学校の規則が少なくなる  
ケ テストの回数が減る    コ 行事がよえる  
サ 先生がもっと身近になる    シ テストの成績だけで順位をつけたりしない  
ス その他(あつたら書いてください)  
セ 変わってもらいたいと思うことはとくにない
- 16 あなたは、学校の先生に、何に力をいれてほしいと思いますか、一つだけえらんで○をつけてください。
- ア 教科書に書いてあることをしっかり教える    イ 社会のきまりをしっかりと守らせる  
ウ 教科書に書いてあることよりも、実際の生活に役に立つことを教える  
エ 生徒との話し合いにもっと時間をとる    オ 部活動をもっとさかんにする  
カ どういう学校にいったらいいか、どういう職業についたらいいかの指導に力を入れる  
キ その他(あつたら書いてください)  
ク 特になし

- 17 あなたは、「学校に行きたくない」とか、「学校をやめたい」と思ったことがありますか、  
ア いつも思っている    イ とくどき思うこともある    ウ あまり思わない  
エ ぜんぜん思わない
- 18 (学校に行きたくないとかやめたいと思ったことのある人だけ答えてください) そう思った理由は何でしょうか、二つまで○をつけてください。
- ア 授業がわからない    イ 希望しない学校だから    ウ 他にやりたいことがある  
エ 学校の処分をうけたため    オ 学校の規則がいやだ    カ 学校が自分にあわない  
キ 先生とうまくいかない    ク 友だちとうまくいかない    ケ 友だちにいじめられる  
コ 学校に行く目的がつかめない    サ 家庭の事情で    シ なんとなく  
ス その他(あつたら書いてください)
- 19 受験勉強についてのあなたの考えにあうものに、それぞれ一つづつ○をつけてください。
- (1) 「受験勉強は、半んだことをまとめるのによい機会だ。」  
ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない
- (2) 「受験勉強は、人間をきたえるよい機会だ。」  
ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない
- (3) 「受験勉強は、よい学校へいくためだけで本当の勉強とはいえない。」  
ア そう思う    イ そうは思わない    ウ 何ともいえない
- 20 あなたは、次のことについてどう思いますか、あてはまるところに○をつけてください。
- (1) 自分はこれからもっと人間的に成長すると思う……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (2) 自分にはまだ気づかない能力があるはずだ……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (3) 自分にも何かいいところがあるはずだ……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (4) 人間の性格は変えることができる……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (5) 能力は生まれつきで努力してもムダだ……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (6) 学校の成績だけが能力ではない……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (7) どうせ先はみえていると思う……ア そう思う    イ 思わない  
ウ わからない
- (8) 能力はつくりだすものだ……ア そう思う    イ 思わない

- ウ わからない
- [9] 自分の能力の限界を感じる……………ア そう思う イ 思わない  
ウ わからない
- 21 将来のことをどう考えているか教えてください。
- [1] あなたは、高校卒業後の進路のことが気になりますか。  
ア とても気になる イ すこし気になる ウ あまり気にならない
- [2] 高校卒業後の進路については、どんなことが気になりますか。あてはまるもの全部に○をつけてください。  
ア 進路のことで親と意見が合うかどうか イ 進路のことで先生と意見が合うかどうか  
ウ 大学に進学するかしないか  
エ 自分の能力や性格がどんな大学・学科にむいているか  
オ 自分が希望する大学にはいれるかどうか  
カ 自分の能力や性格が将来どんな職業にむいているか  
キ 自分が希望する将来の職業にはどうしたらつけるのか  
ク その他（あつたら書いてください）
- [3] あなたは、高校卒業後の進路をどう決めていますか。  
ア 大学・短大などへ進学 イ 職業訓練校・専修学校・各種学校などへ進学  
ウ 就職 エ 家業を継ぐ オ 家事手伝い カ まだ決めていない
- [4] あなたは将来、どんなかんじの仕事をしてみたいですか。二つまで○をつけてください。  
ア おもしろい仕事 イ できるだけ楽な仕事 ウ 世の中の役に立つ仕事  
エ 人に使われないでやれる仕事 オ たくさん給料をもらえる仕事  
カ 自分の才能（専門的知識や技術）を生かせる仕事 キ 頭を使う仕事  
ク お金がもうかる仕事 ケ 体力を使う仕事 コ みんなから尊敬される仕事  
サ わからない
- [5] あなたは将来つきたい仕事を考えていますか。  
ア はっきり考えている イ ばくぜんと考えている ウ あまり考えていない  
エ まったく考えていない
- [6] あなたは将来つきたい仕事は次のどれにあたりますか。一つだけ○をつけてください。3年性で就職先（家業も含む）が決まっている方は、それについて答えてください。また、まだ考えていない人も選んでみてください。  
ア 農業関係 イ 建設職人・作業員 ウ 製造業技能工 エ 事務関係  
オ 営業・販売関係 カ 技術者関係 キ 運輸・通信関係 ク サービス業関係  
ケ 専門職関係 コ 教育関係 サ 保安関係 シ その他の公務員

- ス その他（あつたら書いてください）
- [7] あなたは将来、地元（祖沢町およびその周辺）で就職（家業につくのも含む）したいとしますか。  
ア 地元で就職するつもりだ イ 地元で就職したいが見通しは難しいだろう  
ウ 最初は地元を離れて就職し、いずれ帰ってきたい エ 地元を離れて就職したい  
オ わからない
- [8] （いえて農業をやっている人だけ答えてください）あなたは将来、農業をつぎますか。  
ア 農業をつくつもりだ イ 農業はつぎたくない ウ 農業はつがなくてもよい  
エ わからない
- 22 今のあなたの一番の悩み・心配ごとはなんですか。二つだけ○をつけてください。  
ア 授業についていけない イ 友だちとうまくいかない ウ 成績がよくない  
エ 先生とうまくいかない オ 進路がきまらない  
カ 何をやるにも自信がでてこない キ いじめられる  
ク クラブ活動に熱中できない ケ 自分の顔やスタイルのことが気になる  
コ 服装やおしゃれのことが気になる サ 異性のことが気になる  
シ 家庭がおもしろくない  
ス その他（あつたら書いてください）

どうも ありがとうございます。